

大十字架ノ標記ハ左ノ如シ

- 一 白ク「エマユ」ヲ掛ケ金地ノ八角ナル十字架ニ丸キ「メダユン」ヲ著ケ其角ノ間ニハ四箇ノ金地ニ赤ク「エマユ」ヲ掛ケタル冠ヲ著ケタル鷲ノ翼ヲ延ハシタル形ヲ金ノ唐草ヲ以テ著クヘシ
「メダユン」ノ表面ニハ金地ノ上ニ國王ノ畧名ノヴエーエルヲ記シ其周圍ニ青ク「エマユ」ヲ掛ケタル金縁ヲ取りタル輪ヲ造リ其輪ノ上ニ金字ニテ王家ノ秘訣「シンチエレーエトコンスタンテ」ト記スヘシ其裏面ニハ金ニテ榊ト柏トヲ以テ上下ヨリ抱ヘ其内ニ金字ヲ以テ千八百六十一年十月十八日ト記スヘシ
- 二 金ノ八角ノ星ノ中央ニハ白キ「エマユ」ノ地ニ冠ヲ着ケタル「プ」ランデンブリヒノ赤鷲ヲ唐草ニテ著ケ其鷲ノ右ノ爪ニテ金ノ錫

- 杖ヲ握ミ左ノ爪ニテハ金鏢ノ白刃ヲ握リ胸前ニ青色ノ楯ヲ立テ其錫杖ヲ示スヘシ又鷲ノ周圍ニ青キ「エマユ」ニ金縁ヲ付ケタル輪ヲ設ケ其上ニ金字ニテ前項ノ秘訣ヲ記スヘシ
- 三 一部ハ丸キ「メダユン」一部ハ輪ヲ以テ作りタル二十五個アル金鎖其「メダユン」ハ王ノ冠ヲ著ケ青キ「エマユ」ニ金縁ヲ作ケタル輪ニシテ其上ニ前項ノ秘訣ヲ金字ニテ記スヘシ其輪ノ内ニハ一箇ニハ王ノ略名ヲ記シ又一箇ニハ赤鷲錫杖白刃ヲ持タサルモノナリヲ著クヘシ其輪ハ金ニテ榊ト柏ノ葉ヲ以テ組合ハセ「アンドレヤス」十字架ノ形ニテ金ノ錫杖ト劔ヲ著クヘシ鎖ノ中央ニテ國王ノ略名ヲ有スル「メダユン」ニ第一ニ掲ケタル大十字架ヲ掛クヘシ

此鎖ハ非常ノ勳功アル者ニ非サレハ之ヲ與ヘス此鎖ハ祭日ニ限

賞牌褒賞布告

リ之ヲ掛クヘシ其他ハ赤鷲賞牌ハ四ツオルト八分ノ三ノ幅ノ
黄色ノ兩端ニ白筋アリテ白縁ヲ取リタル綬ヲ以テ左ノ肩ヨリシ
テ右ノ腰ニ佩フヘシ

其星ハ一等ノ星ニ等シク左ノ胸ニ掛クヘシ

千八百四十八年ニ於テ千七百九十二年六月十二日ノ赤鷲賞牌布
告ニ比照シテ定メタル黒鷲賞牌布告第二十五條ニ從ヘハ未タ赤
鷲賞牌ヲ所持セサル者ニシテ黒鷲賞牌ヲ所持スル者ハ亦タ赤鷲
賞牌ノ所持人ト爲ルヲ以テ後來ハ黒鷲賞牌ノ所持人ハ赤鷲賞牌
ノ大十字架ヲ上等赤鷲賞牌ノ代リニ大十字架ノ紐ヲ以テ領ニ掛
クヘシ

赤鷲賞牌ノ標記タル柏ノ葉及ヒ劔ハ前項ノ場合ニ於テハ亦大十

字架ノ標記ト爲ルヘシ

「ダイヤモンド」ヲ帶フル一等赤鷲賞牌ヲ所持スル者ハ大十字架ヲ
受クルルハ止タ其十字架ヲ領ニ掛クヘシ

千八百六十五年一月十八日一等赤鷲賞牌ト一等王冠賞牌ヲ同時ニ

佩用スル布告

國王ハ赤鷲賞牌ノ大十字架ヲ設ケテ千七百九十二年ノ布告ニ確定シ
タルカ如ク第二等ノ賞牌ト爲シタリ但赤鷲賞牌ト王冠賞牌トハ同等
ノ者ト看做スヘシ之カ爲メ國王ハ千八百六十一年十月十八日ノ一等
赤鷲賞牌ヲ増加スル布告及ヒ王冠賞牌ヲ設クル布告ヲ參觀シテ左ノ
箇條ヲ確定セリ

- 一 一等赤鷲賞牌ノ星ト一等王冠賞牌ノ星ハ同時ニ佩用ス可カラ
ス後ニ一等王冠賞牌ヲ受ケタルキハ一等赤鷲賞牌ノ星ハ之ヲ佩
用セスシテ一等赤鷲賞牌ヲ所持スル標記トシテ赤鷲賞牌ノ綬ヲ
一等王冠賞牌ノ星ノ尖ノ周圍ト十字架ノ枝ノ繞リニエマユラ
以テ畫クヘシ一等赤鷲ノ十字架ハ領ニ懸クヘシ後ニ一等赤鷲賞
牌ヲ受ケタルキハ一等王冠賞牌ノ星ヲ掛ケスシテ一等王冠賞牌
ノ綬ヲ一等赤鷲賞牌ノ星ノ尖ノ周圍ト十字架ノ枝ノ繞リニエ
マユラ以テ畫クヘシ一等王冠賞牌ノ十字架ハ領ニ懸クヘシ
- 二 赤鷲賞牌ノ柏ノ葉ハ前項ノ場合ニ於テハ一等王冠賞牌ノ標記
ト爲ルヘシ又一等赤鷲賞牌又ハ一等王冠賞牌内一方ヲ受ケル前
ニ他ノ一方ヲ輪付キノ劔ヲ以テ受ケタルキモ亦同シ

三 劔ヲ有スル一等赤鷲賞牌又ハ王冠賞牌ヲ受ケタル後上等ノ賞
牌ヲ受ケタルキハ止タ其賞牌ノ十字架ヲ白黒ノ紐ヲ以テ領ニ掛
クヘシ

四 内國人ニハ通常一等赤鷲賞牌ヲ所持スル者ニ非サレハ王冠賞
牌ヲ與ヘス

五 先キニ王冠賞牌ヲ所持シ後ニ赤鷲賞牌ノ大十字架ヲ受ケルカ
又ハ黒鷲賞牌ヲ受ケルキハ王冠賞牌ノ星ヲ掛ケスシテ或ハ王冠
賞牌ノ十字架ニ赤鷲賞牌ノ綬ヲ畫クカ或ハ一等赤鷲ノ十字架ニ
王冠賞牌ノ綬ヲ畫テ領ニ掛クヘシ

鐵ノ十字架ヲ改造スル布告 千八百七十年七月十九日
佛獨開戰宣告ノ日

賞牌發賣布告

普魯西國危急ノ際我々ノ祖先カ「ベフライウングスキリーヒ」ニ於テ

我國リシテ外國ノ壓制ヲ免カレシムル戰爭

國家ノ爲メニ大功アリタルコトヲ記念スル爲メニ天帝ノ輔翼ヲ以テ先王ノ設ケタリシ鐵十字架ヲ更ニ盛大ニセント欲ス鐵十字架ハ官等又ハ身分ノ區別ナク戰場ニ有功ナル者又ハ國內ニ於テ戰爭ノ際國家ノ特立名譽ヲ維持スル爲メ有功ナル者ヲ褒賞スル爲メニ之ヲ與フヘシ之カ爲メ國王ハ左ノ條々ヲ確定ス

- 一 此戰爭ノ爲メ再ヒ改造シタル十字架ハ従前ノ如ク一等二等及ヒ大十字架ナリトス其徽章并紐ハ従前ノ通タルヘシ止タ表面ニ「ヴィ」ニ冠ヲ戴カセ其下ニ千八百七十年ト記セリ
- 二 二等ノ紐ハ黒地ニ白縁ヲ取リタルモノニテ軍功アル者ニ與ヘシ國內有功ノ者ニハ白地ニ黒縁ヲ取リタル紐ニテ孰レモ襟ノ釦

穴ニ掛クヘシ一等ハ左ノ胸ニ懸ケ大十字架ハ一等二等ヨリ一倍大ニシテ之ヲ領ニ掛クヘシ

三 二等ノ十字架ヲ先ツ第一ニ與ヘシ一等ハ已ニ二等ヲ受ケタル者ニ與フヘキモノニシテ之ヲ二等ノ側ニ掛クヘシ

四 大十字架ハ止タ敵陣ヲ破リ敵兵ヲ敗走セシメタルト又ハ敵營ヲ奪ヒタルト又ハ城寨ヲ固守シテ陷ラシメサルトニ限り其司令長官ニ與フヘシ

五 従來ノ一等二等ノ褒賞ノ利益ハ一等二等ノ十字架ニ附屬スル者ト爲スヘシ但附帶金ニ付テハ別ニ布告ヲ發スヘシ

千八百五十一年八月廿三日ノ「ホーヘンツォルレルン」家ノ賞牌規則

國王ハ天帝ノ輔翼ヲ以テ始メテ普魯西王國ヲ創立シタル「フリドリヒ」第一世ノ即位ヨリ百五十年回ヲ祭ル爲メ國王ノ姪ナル「ホーヘンツォルレルン」ヘシングン「及ヒ」ホーヘンツォルレルンシンマリングン「家」ノ兩侯ヨリ千八百四十一年十二月五日ニ設ケタル王家賞牌ヲ其賞牌ハ從來ハ國王ヲ總督トシテ設ケタリシナリ我カ王家ノ賞牌ト爲シ然レモ其侯ニテ仍ホ將來モ此賞牌ヲ與フル權ヲ存セシメント決セリ故ニ國王ハ今日「ホーヘンツォルレルン」家ヲ祭ル日ニ當リ此決定ヲ實際ニ行ハシカ爲メニ王家ノ賞牌規則ヲ設ケント欲シ左ノ條々ヲ確定セリ

第一條 「ホーヘンツォルレルン」王家ノ賞牌ハ二種ニ分チ之ヲ相關

係ナキモノトス則其一種ハ普魯西王家ノ賞牌トシ他ノ一種ハ「ホーヘンツォルレルン」侯家ノ賞牌トス

第二條 王家ノ賞牌ハ王家カ天帝ノ輔翼ヲ以テ「ホーヘンツォルレルン」國ノ名岩國ナレハナリ巖下ヨリ興リテ東海ニ延ヒ且北海ヲ亘リタル所

ノ根源ヲ記念トシテ「ホム、ベルヒ、ツー、メール」ノ秘訣ヲ付シ又王家

ノ漸次ニ盛隆ト爲リタル標記トシテ其賞牌ニハ「ホーヘンツォルレルン」家ノ紋ノ外ニ普魯西ノ鷲及ヒ國ノ色家ノ色ヲ付シ其鎖ニハ

其他ニ「ブルリガラーフニユールンベルヒ」家ノ紋ト「クールエルツケンメレル」官名ノ錫杖ヲ付セントス

第三條 王家ノ賞牌ハ外患内亂ノ際ニ現ニ盡カスルカ又ハ後來ノ爲メニ盡カシテ王家ノ威權ヲ維持シ且王家ニ忠節ヲ盡シタル者ニ與

ヘテ後世ノ者ニ之ニ倣ハシテ勸ムルナリ

第四條 故ニ天帝ノ意ニ反シテ國家ヲ擾亂スル際王家ニ忠節ヲ盡ス者ニハ左ニ掲クル十字架ヲ與ヘシ其種類ニ三等アリ則「ゴロースコムツウール、コムツウール」ナリ

第五條 學校ニ於テ幼年ノ子弟ヲ教育シテ天帝ヲ尊恭セシメ國家ニ忠義ヲ盡スヘキヲ教ヘ又ハ學術技藝ヲ以テ愛國心ヲ勸誘シ因テ後世ノ人ヲ勵ケマシムル者ニハ後數條ニ掲クル鷲ヲ與フヘシ

賞牌ノ標記ハ王家ノ歴代ノ記念ト爲ル如ク又後世ノ者ノ精神ヲ勵マシテ王家ノ基礎ヲ固ムヘキ所業ノ記念トセントス後來寄附シタル金額ハ學校ノ用ニ供シ幼年ノ教育ヲ助ケントス然レモ賞牌所持人ノ集會シテ學校ノ爲メ盡カスル者ヲ申立テ其人ノ品行正シクシ

テ賞牌ヲ給スヘキ者ナレハ國王ニテ銀製ノ鷲ヲ與フヘシ又少クモ一万五千「ターレル」ヲ寄附シタルカ又八百「ターレル」ノ年金ヲ寄附スル者ニモ銀製ノ鷲ヲ與フヘシ

第六條 前條ニ掲クル如ク王家ノ賞牌ハ二様ニ之ヲ與ヘリ一ハ王家ニ忠節ヲ盡シタルヲ褒ムルカ爲メニ與フルナリ一ハ幼年者ヲ教育スル功ヲ賞スルカ爲メニ與フルナリ孰レモ之ヲ三等ニ分チ則「ゴロースコムツウール、コムツウール」ナリ

第七條 戰爭ノ中與フヘキ賞牌ハ金ノ十字架ニ白黒ノ「エマユ」ヲ掛ケタルモノニシテ其兩傍ニ丸キ楯ヲ付ケ前面ニハ其楯ノ上ニ空色ノ縁ヲ付ケ「ホム、ベルヒ、ツ、メール」ヲ記シ其中央ニハ白地ニ鷲ヲ畫キ鷲ノ胸ニ紋付ノ楯ヲ畫キ後面ニハ其楯ノ周圍ニ空色ノ縁ヲ

付ケ千八百五十一年一月十八日ト記スヘシ其中央ニハ國王ノ署名
 ヲ記スヘシ十字架ノ枝ノ間ニハ縁リニ「エマユ」ヲ掛ケタル金ノ輪
 ヲ形ハシ其輪ノ左ハ榊ノ葉ヲ作り右ハ柏ノ葉ヲ作り十字架ノ上ニ
 ハ國王ノ冠ヲ戴カスヘシ此十字架ハ一等ノ所持人ナレハ銀ノ鎖ニ
 テ領ニ掛ケ其鎖ニハ「ホーヘンツオルレルン」ノ紋付ノ楯ト「クール
 エルツケンメレル」ノ錫杖ヲ畫ケリ
 二等ノ所持人ナレハ同一ノ十字架ヲ白地ニ三線ノ黒筋ヲ付ケタル
 廣キ紐ニテ首領ニ掛クヘシ
 三等ノ所持人ナレハ稍小ナル十字架ヲ同一ノ色ノ狭キ紐ヲ以テ胸
 ニ掛クルカ又ハ釦穴ニ掛クヘシ

第八條 第二種ノ賞牌ハ黒ク「エマユ」ヲ掛ケタル金ノ鷲ニテ其胸ニ

「ホーヘンツオルレルン」ノ紋付キタル楯ヲ畫キ「ホムベルヒツ」
 メール」ノ文字ヲ鷲ノ領ノ繞リニ付クル青キ輪ノ上ニ記スヘシ
 三等ノ區別ハ第一種ノ區別ノ如シ學校ニ盡カスルカ又ハ寄附シタ
 ルカ爲メノ鷲ハ銀製ナリ

第九條 王家ノ第一種ノ賞牌ノ附屬物トシテ褒牌ヲ作り止タ一回千
 八百四十八年千八百四十九年ノ内亂ニ於テ忠節ヲ盡シタル下士及
 ヒ兵卒ニ之ヲ與ヘント欲ス

褒牌ハ粧飾ナキモノニテ其前面ニハ十字架ノ圖ヲ捺印シ後面ニハ
 「フッドリーヒウイルレム」第四世カ死ヲ以テ忠節ヲ竭シタル軍人
 ニ千八百四十八年千八百四十九年ト記スヘシ

褒牌ハ賞牌ノ紐ヲ以テ胸ニ掛クルカ又ハ釦穴ニ掛クヘシ

第十條 二種ノ賞牌ハ同時ニ佩用スルヲ得然レモ同種ノ上等ヲ受ケタルハ其下級ヲ掛ク可カラス褒牌ハ上等ノモノト同時ニ佩用スルヲ得

二種ノ賞牌ハ同等ニシテ其他ノ賞牌ニ對シテハ其等級ハ赤鷲ノ同級ト同等ナリ故ニ兩種ノ三等ハ赤鷲ノ三等ト同等ナリ

第十一條 王家ノ皇族並ニ兩「ホーヘンツォルレルン」侯ノ戸主ハ生ナカラ王家ノ十字架ノ一等賞牌ヲ有ス

第十二條 王家賞牌ノ「ゴロースマイステルアンムト」ハ王ノ位ニ即

賞牌掛總裁

キタル者ニテ之ヲ勤ムヘシ集會ノ長ハ國王ノ各代人ニテ之ヲ勤ムヘシ其各代人ハ王家ノ皇族又ハ兩「ホーヘンツォルレルン」ノ皇族ニテ之ヲ勤ムヘシ集會議定官ハ一等二等ノ賞牌ヲ所持スル者ヨリ

成ルヘシ又集會ノ事務ヲ掌ルカ爲メニハ各種ノ賞牌ニ付キ「ラルデンスシヤツマイステル」及ヒ「ラルデンスシユライベル」各一人ヲ集會ノ長タル國王ノ各代人ヨリシテ集會ニ參ハル權アル者ノ内ヨリ之ヲ命スヘシ

第十三條 王家賞牌ノ寄附金ノ管理ハ勳賞局ヨルデンスレギルンツニテ之ヲ掌ル勳賞局ノ

官吏ハ議定官ノ外ニ國王ノ各代人ヨリ申立タル銀鷲賞牌所持人ノ内ヨリ國王ニテ三人ヲ命シ「ラルデンスシヤツマイステル」及ヒ「ラルデンスシユライベル」並ニ國王ノ各代人ヨリ申立テ國王ニテ命シタル「ラルデンスシユンジュクス」ヨリ成立ヘシ但賞牌法學者ノ俸給ヲ受クヘシ

賞牌法學者

第十四條 賞牌ノ尊恭ヲ維持スル爲メ國王ハ其所持人ノ賞牌ヲ佩フ

賞牌褒賞布告

ヘキ名譽ヲ有スル間之ヲ許スヘク故ニ特リ犯罪ノ場合ノミナラス品行不良ナルルニモ之ヲ失フヘシト決セリ如何ナル所業ニテモ賞牌ヲ佩フヘキ名譽ヲ損スルルハ懲戒賞牌裁判所ヨリシテ賞牌ヲ失ハシムルヲ得又刑事裁判官ヨリ之ヲ失ハシメサル時ニテモ亦之ヲ失ハシムルヲ得但其裁判ハ毎ニ國王ノ認可ヲ得ヘク若シ犯人ノ士官タルルハ軍人懲戒裁判所ニ回送スヘシ又賞牌所持人ヨリモ名譽ヲ明白ニセンカ爲メ懲戒賞牌裁判所ノ判決ヲ求ルヲ得

第十五條 懲戒賞牌裁判所ハ總議定官ヨリ成立ヘシ

第十六條 「ホーヘンツォルレルン」侯家ノ賞牌ハ從來ノ如ク普國王ノ許可ヲ得タル上當時ノ戸主ヨリシテ之ヲ與フヲ得ヘシ且此後モ三等ニ分テル十字架二等ニ分テル「メダユ」ヲ與フヘシ但

國王ハ侯家ノ求ニ因リ賞牌ノ標記ヲ變センコトヲ已ニ許可シ且ツ別段ノ規則ヲ發シタリ

國王ヨリ決定シタル普國及ヒ「ホーヘンツォルレルン」侯ノ賞牌規則ハ後世堅ク之ヲ守ルヘシ之ヲ保證スル爲メ國王自ラ手署シ且國王ノ印ヲ捺用セシメリ

千八百六十一年十月十八日「ホーヘンツォルレルン」王家ノ賞牌ヲ増加スル布告

國王ハ先代ノ兄カ千八百五十一年八月廿三日ニ設ケタル賞牌ヲ増加センカ爲メ左ノ箇條ヲ確定セリ

- 一 一等賞牌及ヒ
- 二 二等賞牌ヲ三種ニ分テリ
- 一 等ノ一種ハ八股

ノ銀星ニ其十字架ノ前面ノ冠ヲ除キタルモノヲ星ノ上ニ着ケ左
 ノ胸ニ掛クヘシ二等ノ一種ハ六股ノ銀星ニ其十字架ノ前面ノ冠
 ヲ除キタルモノヲ星ノ上ニ着ケ之ヲ右ノ胸ニ掛クヘシ
 三 從來ノ銀ノ十字架及ヒ鷲ハ王家賞牌ノ四等トセリ其十字架及
 ヒ鷲ヲ已ニ所持スル者ハ新タニ勳章ヲ渡サスト雖モ四等賞牌ノ
 所持人ト爲ルヘシ

故ニ今ヨリ王家賞牌ノ種類及ヒ等級ハ左ノ如ク分テリ

一 一等賞牌

① 一等賞牌ノ星

② 一等賞牌ノ十字架又ハ鷲

二 二等賞牌

① 二等賞牌ノ星

② 二等賞牌ノ十字架又ハ鷲

三 三等賞牌

三等賞牌ノ十字架又ハ鷲

四 四等賞牌

四等賞牌ノ十字架又ハ鷲

此一等二等賞牌ノ星ハ普國ノ他ノ賞牌ヲ與フルトモ同時ニ掛クル
 一ヲ得又黑鷲ノ星ト共ニ其下ニ懸クル一ヲ得

一等賞牌ノ星ハ場合ニ因テハ黑鷲賞牌ヲ所持スル者ニ與フル一ヲ
 得

千八百四十二年五月三十一日學藝技術ノ爲メ「プールメリット」ノ

勳功賞牌

別段ナル等級ヲ設クル布告千八百一年一月十八日布告見合

國王ハ「フリドリ―ヒデルグロ―セ」王ノ設ケタル止々軍功ノアル者
ノミニ與ヘタル勳功賞牌ノ外ニ學藝技術アル者ニ與フヘキ平時ノ賞
牌ヲ設ケント欲ス

稀レニアリシ古來ノ例ニ從ヘハ此賞牌ヲ設クルハ「プールメリット」
賞牌ヲ設ケシ王ノ意ニ適フモノトセン王ハ自カラ學問技術ニ勉勵シ
テ之ヲ進歩セシメタルノミナラス亦褒賞ヲ與ヘテ大ニ賞シタルコトア
レハナリ

故ニ國王ハ「フリドリ―ヒ」第二世ノ即位ノ日ヨリ第一百二年目ニ此賞
牌ヲ設ケ先王ノ名ヲ後世ニ傳ヘシメンカ爲メ其意ヲ繼テ左ノ條々ヲ

確定セリ

第一條 此賞牌ハ學術技藝アル者ニ限り之ヲ與フヘシ宗旨學ニ功ア
ル者ニハ先王ノ意ニ從ヒ之ヲ與ヘス

第二條 此賞牌所持人ノ員數ハ三十名ト定メタリ其所持人ハ獨逸國
民ニ限レリ若シ其數ノ缺ケタルハ之ヲ補フヘシ學者又ハ技術者
ヨリ各幾人ヲ選フヘキヤハ一般ノ規則ニ定メス國王ニテ臨時其數
ヲ定ムヘシ

第三條 「プールメリット」賞牌ノ青キ十字架ハ凡百年間ノ慣例ニ從ヒ
千八百十年一月十八日ノ布告以來ハ其布告ニ從ヒ止々軍人ノミニ
與フヘキモノナレハ學藝技術ノ賞牌ハ其形ヲ變シ茲ニ掲クル形ヲ
以テ文字飭色ハ舊ノ如クニシ冠ヲ戴キタル「フリドリ―ヒ」第二世

ノ略名ヲ二筋ニ記シ四方ヨリ金楯ヲ纏ヒ十字架ノ形ト爲スヘシ楯
ノ中央ニハ普魯西國ノ鷲ヲ著クヘシ賞牌ノ秘訣ハ青ク「エマユ」ヲ
掛ケタル地ニ輪ノ如ク記シ國王ノ略名ト冠トヲ相ヒ附着スヘシ此
賞牌ハ軍人ノ賞牌ノ如ク黒地ニ銀縁リヲ取タル紐ヲ以テ領ニ掛ク
ヘシ

第四條 獨逸國民タル所持人三十名ノ内ヨリ「カンツレル」一人ト副

總裁

「カンツレル」二人トヲ選フヘシ

第五條 三十名ノ内ニ缺員アルハ「カンツレル」ヨリシテ其他ノ所
持人ニ報告シテ至當ナル人ノ氏名ヲ記シ其缺員ヲ補フヘキ申立ヲ
爲スヘシ「カンツレル」ハ其書面ヲ取集メ之ヲ國王ニ差出シ國王ニ
テ之ヲ決スヘシ國王ハ其缺員ト爲リタル人ノ如何ナル事業音樂師
學者カ

カヲ爲セシヤニ關係セス學藝技術ニ達シタル者ヨリ更ニ選定スヘ
シ之ヲ申立ル者モ其人ノ如何ナル事業ヲ爲セシヤニ關係セス學藝
技術アル者ヲ申立ヘシ但「カンツレル」ヨリシテ國王ノ命ヲ奉シ別
ニ報告ヲ爲サ、ルハニ限ル(例ヘハ國王ヨリシテ欠員タリシ者カ
畫家ナレハ更ニ申立ツヘキ者モ必ス畫家ヲ申立ツヘキトカ又欠員
タリシ者カ大工ナレハ又大工ヲ選フヘシト別ニ國王ヨリ命ナキハ
ニ限リ先キニ欠員タリシ者カ醫師畫家法律家大工タルトモ後ニ選
フヘキ者カ是等ト同シキ事業ナル「ニ關係セス」)

第六條 國王ハ又此賞牌ノ尊恭ヲ盛大ニ爲サンカ爲メ獨逸國民ノ外
ニ外國人ノ學術技藝ニ達シタル者ニモ此賞牌ヲ與ヘント欲ス外國
人ニ與フルモ其數ハ三十名ヲ越ユ可カラズ其缺員アルハ之ヲ補

フニ及ハス

第七條 將來ハ此賞牌ヲ與フルニハ「フリドリ―ヒ」第二世ノ即位ノ日カ又ハ生死ノ日ヲ選ムヘシ

千八百三十三年二月一日ノ災厄ニ遭ヒタル者ヲ救済スル者ノ爲メ與フル褒牌布告

國王ハ已ニ千八百二年五月六日ニ舊「ゲ子ラ―ルデレクトヲ―リユ―ム」ニ命シテ人民ヲ災厄ヨリ救済シタル者ニ褒賞ヲ與ヘシメタリ但此褒賞ハ之ヲ受ケタル者ノ功トシテ貯置ク者ナレハ此ノ外ニ別ニ褒牌ヲ與ヘンコヲ必要トセリ此褒牌ハ特別ニ救済ヲ爲シタル者ノ功ヲ賞スヘキ者ナレハ褒賞ヨリハ上等ナル者ト看做スヘシ又褒牌ハ銀

製ニシテ表面ニハ國王ノ胸ヨリ以上ノ像ト國王ノ名トヲ誌シ裏面ニハ災厄救済ノ文字ト柏ノ葉ヲ誌シ黃地ノ兩傍ニ二筋ノ白筋ヲ付ケタル紐ヲ以テ釦ノ穴ニ懸クヘシ此褒牌ハ内務警察卿ノ申立ニ因リ國王自カラ之ヲ與フヘシ

千八百十年一月十八日ノ賞牌及ヒ褒賞ヲ増加スル布告ニ從ヒ褒賞所持人ニ與フヘキ利益ハ亦褒牌所持人ニモ與フヘシ故ニ褒牌ヲ失フコトハ他ノ賞牌及ヒ褒賞ノ如ク國王自カラ之ヲ決スヘシ

千八百十四年八月三日^{今帝ノ亡母}ルイゼン賞牌ヲ設クル布告

軍人ハ本國ノ爲メ戰地ニ於テ創傷ヲ被ムレモ婦女ノ介抱ヲ受ケテ其苦楚ヲ減耗ス

賞牌褒賞布告

母及ヒ娘タルモノハ神ヲ信シ望ヲ絶タサレハ戰地ニ在ル家属ノ安否ヲ念フコトヲ輕クシ本國ノ爲メニ死シタル者ヲ愁傷スルノ悲ヲ薄ラカニスヘシ且國家ノ爲メニ功アルコトハ人之ヲ疑ハサレハ其功タル著シキモノニ非サレハ一般ニ之ヲ賞スルコト能ハサレハ拔群ノ著シキ功アル者ハ之ヲ賞スヘシ故ニ國王ハ左ノ條ヤヲ確定ス

第一條 新タニ設クル賞牌ハ小形ニシテ黒ク「エマユ」ヲ掛ケタル金ノ十字架ニシテ「ルイゼン」賞牌ト稱スヘシ其兩面ヲ青ク塗リタル丸キ楯ヲ十字架ノ中央ニ附ケ表面ニハ「エル」ノ文字ヲ記シ其周圍ニハ星ヲ纏ヒ裏面ニハ千八百十三年千八百十四年ト誌セリ

第二條 此賞牌ハ鐵ノ十字架ノ白キ紐ニテ白切ヲ著ケテ左ノ胸ニ掛クヘシ

第三條 此賞牌ハ婚姻シタル者トセサル者トニ拘ハラズ之ヲ與フヘシト雖モ生ナカラ又ハ婚姻歸化ニ因テ普魯士國民タル者ニ限ルベシ

第四條 此賞牌ノ數ハ百ト定ムヘシ

第五條 其所持人ヲ選定スル爲メ國王ハ議定官ヲ設ケタリ其議定官ハ「フ라우プリンチエセンウイルヘルム」ヲ總裁ト爲シ其他參政ノ「ゲレーヒンホシアルニム」カザール將官ノ「ホンボグスラウスキ」商人「ウエルヘル」ノ妻彫像師「エーベン」ノ寡婦ヨリ成ルヘシ

第六條 議定官ハ當時普魯西國ニ再ヒ属シタル州ヲ除キ其他ノ諸州ヨリ此布告ノ始メニ掲ケタル婦女ノ功アル者ニ付キ詳細ノ報告ヲ差出サシメ其内ヨリ定數ノ有功者ヲ選ヒ之ヲ國王ニ差出シ其認可

ヲ受クヘシ其勳章ハ「フ라우プリンチエセン」ノ手署ヲ以テ國王ノ許可ヲ得タル上之ヲ交付スヘシ

第七條 其事務ハ「ホーフマルシヤルガラーフヘンホンゴローベン」ニ委任シタリ

第八條 賞牌ヲ失フコニ付テハ議定官ノ意見ヲ聞タル上國王ニテ一般ノ規則ニ從ヒ賞牌及ヒ褒賞ヲ失フヘキ所業アレハ之ヲ失ハシムルコヲ決定スヘシ

千八百五十年七月十五日「ルイゼン」賞牌ヲ改正スル布告

國王ハ皇妃ノ會長ニテ今年四月廿三日「シヤロテンブリヒ」ニ於テ開キタル「ルイゼン」賞牌集會ノ申立ニ因リ左ノ箇條ヲ確定セリ

千八百四十八年及ヒ千八百四十九年ニ婦女ノ負傷人ヲ介抱シ愛國心ヲ顯ハシタルニ因リ「ルイゼン」賞牌ヲ改正シ今ヨリハ止タ此兩年ニ限り國家ニ功アル婦女ニ與フヘシト決定セリ
今ヨリ與フル十字架ハ舊ノ鎊ト異ナル所ハ本國ヲシテ他國ノ壓制ヲ免カレシメタル年月ノ代ニ此兩年ヲ記スヘシ

千八百六十五年十月三十日千八百十四年八月三日ノ布告ニ因テ設ケタル「ルイゼン」賞牌ヲ改正スル布告

國王ハ千八百十四年八月三日ノ布告ニ因テ設ケタル「ルイゼン」賞牌ヲ増シ今ヨリ以後ハ之ヲ二種ニ分テ與フルコニ決セリ
其一種ハ千八百十四年八月三日ノ布告ニ從ヒ負傷シタル軍人ヲ介抱

シタル婦女子ニ與フヘキモノニシテ後來ハ之ニ戰爭アリシ年ヲ記スヘキコトニ決セリ

其二種ハ負傷者ヲ介抱シタル者ノミナラス戰時又ハ平時ニ於テ仁心ヨリ出テタル救助ノ功アル者ニ與フルナリ則私慾ヲ絶チ其素心ヲ以テ出陣セシ者又ハ其家屬或ハ戰死シタル者ノ遺屬ノ爲メ醵金シタル者又ハ非常ノ變災若クハ危急ノ際又ハ流行病ノ際ニ盡力シテ愛國心ヲ顯ハシタル者ニ與フルナリ
其二種ノ賞牌ハ又二等ニ分チ其一等ハ從來ノ「ルイゼン」賞牌ニ似タレヒ金ノ代リニ銀ヲ以テ飾リヲ付クヘシ
又國王ハ特別ノ功アル者ニハ一等ノ十字架ニ金又ハ銀ノ冠ヲ著ケテ其區別ヲ爲スコトヲ得

二等ハ銀ノ十字架ニ從來ノ「ルイゼン」賞牌ニ「エマユ」ノ「メダユ」ヲ付クヘシ

此兩等ノ十字架ハ「ホーエンソエルレン」王家賞牌ノ紐ノ功ヲ以テ之ヲ懸ケ此布告ノ年號ヲ記スヘシ戰時ニ於テハ其年號ヲ記スヘシ千八百十四年八月三日ノ布告第八條ハ此二種ノ賞牌ニモ適用スヘシ此二種ノ賞牌ノ議定官ハ其所持人ヨリ成ルヘシ

千八百七十一年三月廿二日ノ婦女子ニ與フヘキ十字架布告

國王ハ獨逸ノ婦女子ノ軍人及ヒ其家屬ノ爲メニ竭シタル大功ハ國王ニ於テモ之ヲ賞スヘキ者ト認レハ一般ノ徽章ヲ作り本國ニ代テ之ニ酬ヒンコトヲ欲ス「ルイゼン」賞牌ハ此目的ニ與フルコトヲ得ス何トナレ

ハ「ルイゼン」賞牌ノ布告ニ從ヘハ專ラ此目的ニ與フヘキ第一種ノモ
 ノハ其數百ニ限り其所持人ノ數滿ルノミナラス元來此賞牌ノ兩種ト
 モ普魯西國民ニノミ限り與フ可キモノナレハナリ故ニ國王ハ此目的
 ヲ達スルカ爲メニ別段ノ賞牌ヲ作ル可シ之レカ爲メニ國王ハ「スタ
 ツミニステーリユム」ヨリ差出シタル婦人ノ十字架ヲ作ル布告ヲ許
 可シ之ヲ公告センコトヲ内閣ニ命シタリ

同年同月同日ノ婦人ニ與フル十字架ヲ設クル布告

國王ハ已ニ凱陣シタル戰ニ於テ獨逸國ノ名譽及ヒ獨立ノ爲メ婦人ヨ
 リ軍人及ヒ其家屬ヲ救助シタル功ヲ認メテ婦人ノ十字架ヲ設ケント
 シ左ノ箇條ヲ確定セリ

- 一 此十字架ハ國王ヨリ皇妃ノ申立ニ因リ佛蘭西戰爭ニ於テ負傷シ又ハ病ニ罹リタル者ヲ介抱スルカ又ハ軍人及ヒ其家屬ノ爲メニ盡カシタル婦人ニ與フヘシ
- 二 此賞牌ハ黒ク「エマユ」ヲ掛ケ銀線ヲ取りタル十字架ヨリ成ル其十字架ノ上ニ別ニ赤地ニ白線ヲ取りタル十字架ヲ著クヘシ其十字架ノ裏面ノ中央ニハ國王ト皇妃トノ名ヲ誌シ豎ノ枝ノ上端ニ國王ノ冠ヲ著ケ下端ニハ千八百七十年七十一年ト誌シ銀ノ輪ニ白地ニ黒線ヲ取りタル絹紐及ヒ同色ノ切ヲ著ケ左ノ胸ニ掛クヘシ

千八百六十四年十二月七日ノ「アルゼン」十字架ヲ設クル布告

國王ハ已ニ今年十月十八日ノ布告ニ因テ豫シメ定メタルカ如ク今年

六月廿九日ニ「アルゼン」島ヲ分捕シタル拔群ノ働ヲ爲シタル軍人ニ其功ヲ賞センカ爲メ別段ノ徽章ヲ與フルコニ決セリ國王ハ之カ爲メニ「アルゼン」十字架ヲ設ケ且左ノ條々ヲ設ケリ

一 此十字架ハ黃銅ヲ以テ作り其枝ノ間ニ榊ノ葉ノ輪ヲ形ハシ其前面ノ中央ニ楯ヲ付ケ國王ノ像ト「ウイールヘルムキヨ」ニヒホンプロイセン」ノ文字ヲ誌スヘシ後面ニハ海上ニ浮ヒタル船ヲ畫キ其船ニハ鐵ノ十字架ヲ付ケタル旗ヲ掲ケ且其船ノ上ニハ鷲ノ飛ヒタル形ヲ畫クヘシ十字架ノ枝ニハ「アルゼン」千八百六十四年六月廿九日ト誌スヘシ

二 此十字架ハ其紐ニ二様アリ一ハ青地ニ二筋ノ黃筋アル黑白ノ線ヲ取リタル紐ヲ以テ又一ハ黃地ニ一筋青筋アル黑白ノ線ヲ取

リタル紐ヲ以テ脚ニ掛クヘシ此賞牌ハ内國ノ賞牌軍人ノ褒賞又ハ一般ノ褒賞ノ後ニ位シ褒牌ノ上ニ在ルヘシ

三 此十字架ノ一青地ニ二筋黃筋アル黑白ノ線ヲ取リタル紐ヲ得ル者ハ左ニ掲ケル軍人タルヘシ

①各連邦兵卒ノ總督及ヒ第一軍團ノ司令長官並ニ總督及ヒ軍團司令長ノ參謀ト爲テ本年六月廿九日ノ戰爭ニ出陣シタル將官及ヒ士官

②本年六月廿九日ニ長官ノ命ヲ奉シテ其戰ヲ終ルマテニ該島ニ到達シタル士官及ヒ兵卒

③聯隊及ヒ大隊ニ加ハリテ燈火ヲ以テ航海ヲ助ケタル士官及ヒ兵卒

◎本年六月廿九日ニ渡海スル船ヲ漕キタルカ其他ノ力役ヲ爲シタル士官及ヒ兵卒

ニ黄地ニ一筋青筋アル白黒ノ縁ヲ取りタル紐ヲ得ル者ハ本年六月廿九日ノ戦争ニ自ラ好テ加ハルカ又ハ其他盡力ヲ爲シタル醫師僧侶其他ノ者

但同日前ニ已ニ名譽ヲ失フ罰ニ處セラレタルカ又ハ其後其罰ニ處セラルヘキ者ニハ之ヲ與フ可カラス

四 賞牌及ヒ褒賞ヲ失フコトニ付キ定メタル規則ハ亦此十字架ニモ適用スヘシ

五 「アルゼン」十字架所持人ノ死シタルキハ其十字架ハ千八百十三年及ヒ十五年ニ作りタル褒牌ト同シク死者ヲ葬リタル寺ニ貯

置クヘシ

六 此賞牌ニハ國王ヨリ許可シタル法式ヲ以テ其所持ヲ認スル書面ヲ添フヘシ將官及ヒ參謀士官ノ證書ハ國王自カラ手署シ其他ノ者ノ證書ニハ第一軍團司令長官タリシ「ヘルワルトホンピラ」ンヘルド」ニテ手署スヘシ

七 「ゲ子ラール」ヲルデンスコミツション」ハ國王ノ命ヲ奉シテ作ルヘキ「アルゼンコロイツ」所持人ノ氏名簿ヲ保存スヘシ

八 此布告ヲ施行スル別段ノ規則ハ國王ヨリ之ヲ發スヘシ

千八百六十六年九月二十日ノ千八百六十六年出陣記念十字架ヲ設クル布告

賞牌褒賞布告

國王ハ千八百六十六年ノ戦争ニ於テ拔群ノ勳ヲ爲シタル兵ニ加ハリタル士官兵卒官員ヲ賞センカ爲メ別段ノ徽章ヲ與ヘント欲ス之カ爲メ國王ハ記念十字架ヲ設ケリ

一記念十字架ハ戦争ニ加ハリタルカ又ハ之ニ關シテ本年八月二日以前ニ普國ト戦争ヲ開キタル國ノ境内ニ入りタル士官官員兵卒ニ與フヘシ

二記念十字架ハ接戦シタル者ニ與フヘキハ分捕シタル大砲ノ銅ヲ以テ製シ接戦セサル者ニハ通常ノ銅ヲ以テ製スヘシ其枝ノ間ニハ接戦シタル者ニハ榊ノ葉ノ輪ヲ付ケ接戦セサル者ニハ柏ノ葉ノ輪ヲ付クヘシ前面ノ中央ニ楯ヲ付ケ國王ノ名ト「プロイセンスヘシ」ゲライヘムヘ「レ」ヲ誌スヘシ其上ノ枝ニハ王ノ冠ヲ著ケ

普國ノ拔群ナル功アリタル兵ニ

其他ノ三枝ニハ「ゴツトワールミツトウンスイームザイ、ヂ、エイ

神ノ我々ヲ守護シテ勝利ヲ得タルカ爲メ其功ハ特リ神ニ在リ

レ」ヲ誌スヘシ裏面ニハ楯ニ大砲ノ筒ニ止リタル鷲ヲ畫クヘシ十

字架ノ枝ニハ①「キヨーニヒゲレーツ」ノ決戦ニ加ハリタル者ニ

ハ「キヨーニヒゲレーツ」千八百六十六年七月三日ト誌スヘシ②

「チユーリンゲン」及ヒ南獨逸ニ出陣シタル者ニハ「デルマインア

ルメイ」千八百六十六年ト誌スヘシ③「キヨーニヒゲレーツ」ノ戦ニ

モ加ハラヌ又「マインアルメイ」ニモ屬セサル者ニハ「トロイエン、

忠節ナル軍人ニ

「ギリーゲルン」千八百六十六年ト誌スヘシ④接戦セサル者ニハ

「フリヒトトロイユムキリーゲ」ト誌スヘシ

戦中職務勲

三接戦シタル者ニ與フル十字架ハ白黄ノ縁ヲ取りタル黒地ノ紐ヲ以テ胸ニ懸クヘシ接戦セサル者ニ與フル十字架ハ黄黒ノ縁ヲ

賞牌褒賞布告

取リタル白地ノ紐ヲ以テ胸ニ懸クヘシ

四 開戦中榮譽ニ關スル刑ヲ受ケタル者又ハ其後其罰ヲ受ケ今日
マテ未タ赦免ヲ得サル者ニハ十字架ヲ與フヘカラス

五 賞牌褒賞ヲ失フコトニ付キ定メタル規則ハ亦此十字架ニモ適用
スヘシ

六 十字架所持人ノ死シタル後ハ其十字架ハ千八百十三年同十五
年ノ褒牌ト等シク本人ヲ葬タル寺ニ貯置クヘシ戰死シタル者又
ハ今日マテニ死シタル者ニテ十字架ヲ受ケヘキ功アル者ノ爲メ
其賞牌ヲ寺ニ貯置カシムヘシ

七 國王ヨリ許可シタル法式ニ從テ賞牌ノ所持證ヲ作ルヘシ將官
又ハ聯隊司令長官及ヒ之レト同等トナル士官ニ與フル證書ハ國

王自カラ之ヲ授ケ其他士官及ヒ士官同等ノ官吏ニハ軍團司令長
官又ハ司令將官之ヲ授クヘシ兵卒及ヒ其他ノ官吏ニハ聯隊司令
長官ヨリ之ヲ授クヘシ

八 賞勳局ハ國王ノ命ニ從ヒ十字架所持人ノ氏名簿ヲ作り之ヲ貯
置クヘシ

九 此布告ヲ施行スルニ付キ詳細ナル規則ハ國王自カラ之ヲ發ス
ヘシ

千八百八十一年一月初旬ヨリ三月下旬マテ在伯林大學大博士「ベル
子ル」氏ニ就テ開キタル日本刑法會議附錄

千八百七十八年八月十五日ヨリ二十六日マテ「ストックホルム」監獄
會議ノ議事拔萃

「ストックホルム」萬國監獄會議

「ノイシャテル」監獄長兼監獄書記長法學士「ウィルレム」氏ニ因テ會
議ニ呈出シ及ヒ萬國監獄會議委員ノ監督ヲ以テ發行シタル監獄及
ヒ其行政ノ現狀ニ係ル意見書及ヒ報告書

萬國監獄會議ノ沿革

抑監獄及ヒ自由ヲ奪フ刑ヲ改正センコトニ盡力シ始メタルコトハ漸ク
百年以來ノコトニシテ往昔ハ自由ヲ奪フ刑ハ全クナカリシナリ近世

ニ至テモ久シク其刑ノ緊要ナルコトヲ知ラサリシ則チ其刑ハ罰金ヲ
出スト能ハサル無力者ニシテ輕キ罪ヲ犯シタル者ノミニ科シタル
コト始ント百年ノ久キニ至レリ重キ罪ニ在テハ多少殘酷ナル死刑ニ
處シ又或ハ流刑ニ處シ屢々此刑ニ身軀毀傷ノ刑又ハ鞭笞ヲ附加セ
リ流刑ハ當時犯人ヲ追放スル爲メ便利ナル刑ニシテ往々之ヲ實行
シタリト

然レモ漸次ニ死刑及ヒ身軀ニ係ル刑ヲ實行スルコトヲ嫌忌シ且流刑
ハ止タ各國間ニ於テ犯人ヲ交換スルマテニテ社會ノ安寧ヲ維持ス
ル爲メニ益ナラサルコトヲ信セリ此等ノ刑ヲ減スルニ從テ愈々自由
ヲ奪フ刑ヲ實行スルニ至レリ尙ホ自由ヲ奪フ刑ヲ執行スル爲メニ
未タ別ニ監獄署ヲ設クル思想ハアラサリシナリ則チ囚人ノ嫌惡ス

ルト否トニ拘ハラ斯塔内又ハ土穴内ニ幽閉シ更ニ上等官署ヨリ之
ヲ監督セス看守人ニ任セテ處暴ナル待遇ヲナシ且闇室寒室ヲ以テ
身軀ヲ害シタリ

第一ニ設ケタル監獄署ノ名稱ヲ下タスヘキモノハ懲治場(英ニテ
ハウスオブコレクシヨン、佛ニテメソンヅコレクシヨン)獨ニテツ
フトホイゼル)ニシテ各國トモ千五百年代ノ末ヨリ之ヲ創設シタ
リ抑々懲治場ノ性質タルヤ囚人ヲシテ絶ヘス勞力ヲ爲サシムルノ
趣意ニシテ其他ノ監獄ニ於テハ少シモ囚人ニ勞力ヲ爲サシメサリ
シナリ又當時ノ懲治場ニ一ノ弊害アリ則チ惡漢無籍人無賴ノ幼年
者ヲ同一ノ場所ニ入ル、是レナリ其囚人ハ晝間ハ一所ニ勞力ヲ爲
シ夜間ハ同室ニ寢子シムルヲ以テ懲治場ハ却テ放蕩者又ハ惡漢ヲ

養成スルノ巢窟ト爲レリ又囚人ノ等級ニ拘ハラズ懲治場ニ入ル、
 ノ法ニ非ス因テ監獄ノ改正ハ懲治場ヲ設ケタルヲ以テ其目的ヲ達
 シタルト云フコトヲ得ス元來懲治場ヲ設ケタル趣意ハ囚人ヲ悔悟セ
 シムルニ非スシテ經濟上ノ利益ヲ得ンカ爲メナリ
 千七百年代ノ末ヨリ監獄ノ沿革一大進歩ヲ爲シ各國トモ監獄ノ改
 正ニ着目シタリ其發起人ト稱スヘキモノハ英人「ジョン・ハワード」
 氏ナリ同氏ノ監獄現狀書中ニ當時監獄中ノ現狀ヲ詳細ニ著述シタ
 リ勿論監獄ノ改良ヲ爲スヘキコトヲ主張シタルコトハ同氏ノミニ限ラ
 スト雖モ其改良ヲ要スル不十分ナル所ヲ世人ニ知ラシメタルハ同
 氏ヲ以テ始マレリトス且當時(千七百年代ノ末)修身學ニ因テ改進
 シタル人民ノ思想及ヒ仁愛心ニ抵觸スル現狀ヲ微細ニ陳述シタル

コトハ同氏ヲ置テハ外ニ人ナシ實ニ十七年間少シモ倦ムコトナク監獄
 ノ改革ニ盡カシテ歐洲各國ニ共同心ヲ起サシタルハ最も同氏ノ効
 跡ナリ

監獄ノ改良ハ歐洲ヨリ北亞米利加合衆國ニ及ヘリ當時歐洲ニ於テ
 ハ千八百六十九年ノ佛國革命ニ因リ内亂外患交々起リ一時監獄ノ
 改良ヲ放棄シタレモ亞米利加ニ於テハ二箇ノ監獄設置法ヲ設ケタ
 リ其設置法ニ付テハ監獄ノ改良ニ熱心スル者兩派ニ分カレテ共ニ
 討論考究セリ則チ「ヒラドリヒヤ」設置法「アウバン」設置法ナリ(「ベ
 ル子ル」氏刑法註釋第二百十九枚ヨリ第二百二十三枚マテヲ參觀ス
 ヘシ)

「カロリナ」刑法ノ身軀毀傷ノ刑單一及ヒ重キ死刑ヲ廢シテヨリ刑

ノ趣意ハ自由ヲ奪フ刑ニ止マリタレトモ自由ヲ奪フ刑ハ「カロリナ」
 刑法ニ掲ケス純然タル監獄署ヲ設ケタルハ近世ノコナリ
 最モ古キ懲治場ハ「アムステルダム」「リユールベツキ」千六百十三年
 及ヒ「ハンブルヒ」千六百十八年ニ在ルモノニシテ其趣意ハ囚人
 ヲ悔悟セシムルニ在リ故ニ其刑ハ裁判判決ヲ以テセス警察官署ノ
 意見ヲ以テ悔悟セシムル爲メニ科スルモノナリ此懲治場ハ後來設
 クル監獄ノ基礎ト爲リタレトモ千七百年代ノ末ニ至ルマテハ甚タ不
 十分ナルヲ免カレス其弊ハ則チ囚人ヲ一所ニ幽閉スルニ在リ之レ
 ニ因テ囚人互ニ惡心ヲ醸シ且出獄後徒黨ヲ爲スノ本ト爲レリ
 此弊ヲ改正センカ爲メ囚人ニ沈黙ヲ命スルカ（アウバン設置法ナ
 リ）又ハ囚人ヲ各居セシメタリ（ペンシルハニ設置法ナリ）

最初蘭人英人ハ監獄署ノ改正論ヲ駁撃シタレトモ已ニ千七百七十五
 年ニ於テ「ゲント」ニ在ル懲治場（千七百七十二年ニ新築シタリ）ニ
 於テハ夜中一房ヲ與ヘ且其建築ヲ全備シ懲戒法及ヒ勞力ノ規則ハ
 其宜シキヲ得タリ其後千七百七十六年ニ英國下院ニ於テ「ミルバン」
 ニ在ル監獄署ニテハ晝夜囚人ヲ各居セシムルコトニ決シタリ千七百
 九十年代已來ハ「グロチヌタイ」ノ監獄署ニモ此法ヲ適用シ十七年
 間繼續シタリ

又南「アラバント」國ノ「ビルホルレン」及ヒ「マイランド」國ニアル監
 獄署ノ當時有名ナルモノニシテ各千七百七十六年ニ建築シタリ
 監獄ノ改正ヲ爲シタルハ專ハラ英人三名ノ効跡ナリ
 一「ハワード」氏ナリ氏ハ千七百二十六年ニ生レ千七百九十年ニ

死亡シタル人ニシテ數月間俘虜ト爲テ監獄ノ實況ヲ目撃シタリ

一「ブラッストン」氏ナリ氏ハ千七百二十三年ニ生レ千七百八十年ニ死シタル人ニシテ英國法律註釋ヲ作りタル高名ナル法學家ナリ

三「ベルサム」氏ナリ氏ハ千七百四十七年ニ生レ千八百三十二年ニ死亡シタル人ニシテ「パノプチック」建築法ヲ發明シタリ其法ハ圓形ノ建築ニシテ其周圍内ニ各房ヲ設ケ中央ニ看守人ノ居所ヲ設ケ四方ヲ回顧セシムルニ在リ

監獄署ノ改正ニ最モ熱心ナルハ「ハワード」氏ナリ已ニ千七百七十四年ニ府廳ニ於テ氏ノ意見ヲ聞キ囚人ノ身軀精神上ニ殘酷ナル待遇ヲ爲ス現状ヲ知り人皆ナ之ヲ感心シタリ現今文明國ノ監獄ヲ改

良シタル沿革ヲ尋ヌルニ其發起人タル者ハ氏ノ右ニ出ルモノナシ氏及ヒ其同派ノ勸奨ニ因リ英國ニ於テハ千七百七十六年及ヒ千七百九十四年ニ下院ニ於テ監獄署設置規則ヲ議決シタリ氏ハ舊來ノ監獄署ニ於テ囚人ヲ雜居セシムルニ因リ互ニ惡心ヲ生セシムルヲ知リ勸善懲惡ノ目的ヲ達スルニハ閑所ニ幽閉セシムルヲ善ト信シタリ

監獄ノ改良ハ英國ヨリ漸次ニ北亞米利加合衆國ニ波及シ其發起人タリシ人ハ「ベンヤーチン」氏ナリ氏ハ千七百七十六年ニ生レ千七百九十年ニ死シタル人ニシテ久シク歐洲ニ滞在シテ當時ノ改正法ニ着目シタリ氏ハ千七百八十五年ニ「ヒラドリヒヤ」ニ於テ監獄署改正會社ヲ創立シ北亞米利加ニ於ケル改正ノ中央ト爲シ

タリ之ヨリ先キ千七百七十六年ノペンシユルワニ一州ノ憲法ニ於テ刑法ノ改正ヲ掲ケ則チ死刑ヲ減シ犯罪ト刑罰トノ權衡ヲ平均ニシ且監獄署ノ新築ヲ企テタリ千七百八十六年ヨリ千七百九十二年ニ至リ始メテ「ペンシユルワニ」州ニ於テ改正法ヲ設ケタリ則チ「ウイレルムベン」氏ヨリ「ヒラドリヒヤワルムス」町ニ設ケタル監獄署ニハ三十房ヲ備ヘリ此監獄署ヲ懲治場ト稱セリ當時亞米利加ニ行ハル、博愛社ヨリ大ニ改良ヲ輔ケタレト一方ヨリ之ヲ見レハ宗旨ニ偏スルノ弊ヲ免カレス畢竟當時ノ改正主義ハ晝夜閑所ニ幽閉セシムルニ在リ其後千八百二十六年ヨリ千八百二十九年ニ至リ更ニ改正シテ「ピチブルグ」及ヒ「ヒラドリヒヤ」チエレイヒル」ニ二箇ノ監獄署ヲ設ケタリ其趣意ハ閑靜ナル場所ニ置カスシテ囚人ヲ各居

セシメ相當ノ勞力ヲ爲サシムルニアリ「ニユーヨルク」州ニ於テハ千八百十九年以來監獄ノ改良ニ着手シ千八百二十三年ニ至テ「バー」ニ監獄署ヲ設ケタリ其趣意ハ夜間囚人ヲ各居セシメ一所ニ勞力ヲ爲サシメ且沈黙ヲ命スルニ在リ

英國北亞米利加ノ監獄署改正ハ漸次ニ佛蘭西國ニ波及シ千七百八十八年ニ「ハワード」氏ノ監獄書ヲ佛文ニ翻譯シタリ又「ブリッソー」氏ハ「ペンサム」氏ニ就テ「パノチクム」建築法ヲ考究シ之ヲ佛國下院ニ呈書シタリ又「ラ、ロツシニホーコール」リセンクル」氏ハ「フラス」クリン」氏ニ就テ考究シタリ佛國ニ於テハ專ハラ「ヒラドリヒヤ」監獄署ニ倣ヒ監獄ヲ設ケタリ其後千八百十九年ニ至リ會社ヲ設ケ皇太子ヲ其長ト爲シ監獄ノ改正ニ盡カシ其他監獄書ハ諸方ヨリ陸續

トシテ發行シタリ

獨逸國ニ於ケルモ亦監獄改正ノ風潮ヲ免カレサリシ已ニ千八百八十年ニ「キヨステル」氏ハ「ハワード」氏ノ監獄書ヲ獨逸語ニ翻譯シ當時ノ輿論ハ監獄ノ改正ニ著目シタリ歐洲各國ノ根據ト爲ルモノハ獨リ北亞米利加ノ監獄ニ基ケリ

則チ英國佛國普國ヨリ北亞米利加ニ學者ヲ派出シテ監獄署ヲ實見セシメ之ヲ本國政府ニ報告セシメタリ則チ英國ハ千八百三十三年ニ「クラウホード」氏ヲ佛國ハ千八百三十一年ニ「ボーモン」及ヒ「トケビール」兩氏ヲ千八百三十六年ニハ「テメツ」及ヒ「ブル」兩氏ヲ普國ハ千八百三十四年ニ「ユトリユース」氏ヲ派遣セシメタリ「ユトリユース」氏ハ監獄書ヲ講義シテ大ニ其改正ヲ勸奨シ其著述ハ千八百二十

七年ニ伯林ニ於テ始メテ發行シ千八百二十八年ニ至テ之ヲ再版シタリ其書ハ千八百三十一年ニ「ラガルニード」氏之ヲ佛文ニ翻譯シ又「ユトリユース」氏ハ千八百四十二年ヨリ千八百四十八年ニ至リ「ヨル子ル」及ヒ「ワルレントラップ」兩氏ト謀リ監獄署雜誌ヲ發シタリ

現今ノ監獄書中有名ナルモノハ「シルバンク」(千八百二十二年ニ新
建シタリ)及ヒ「デンフ」(千八百二十五年)「ルザン」(千八百二十六年)
「ベルン」(千八百三十年)「サンガラシ」(千八百三十九年)「パントウ
イル」(クラウホール及ヒルゼル兩氏ノ趣向ニ因リ最初ハ「ヨールハシ
エツプ」氏後ニハ英國監獄總監ノ監督ヲ以テ千八百四十二年ニ竣功
シタリ)「ブルフサール」(千八百四十八年)及ヒ「モアビート」(パント
ビール)ノ監獄署ニ模造シタルナリ)ノ監獄署ナリ普國ニ於テハ最

初内務卿ヨリ「ラバール」設置法ヲ採用シタレトモ資力ノ足ラサル
 カ爲メ之ヲ實施スルニ至ラス舊來ノ懲治場又ハ社寺舊城ヲ改造シ
 テ一時ノ要ニ供シタリ然レレ「フリドリ―ヒウイルレム」第四世ハ
 自カラ「パントビール」監獄署ヲ實見シ一房一室ノ設置法ニ熱心シ
 「モアビート、ミュンマテルプレスラウ」及ヒ「ラチポール」ノ監獄署
 ヲ改造セント企テタレレ「ゲハイメラ―ベルコンシストリアール
 ラートビ―ヘル」氏ノ總督スルニ至テ種々ノ駁撃ヲ受ケ終ニ「モア
 ビート」ニ於テノミ其方法ヲ實施スルコトニ決シタリ「モアビート」及
 ヒ「ブルフサール」ノ監獄ハ純然タル一房一室ノ設置ニシテ其中央
 ヨリ各翼ヲ回顧シ且説教時間ト雖モ椅子ヲ各別ニシ各止タ説教臺
 ヲ見ルコトヲ得レレ囚人相互ニ見ルコトヲ得サルナリ

其構造ノ巨大ニシテ設置法宜キニ適シ且監督ノ完備シタルハ伯林
 「ブリヨチエンゼ―」ニアル監獄署ナリ千八百七十六年ニ「スタルケ
 氏(司法省ノ書記官)ヨリ雛形圖面ヲ作り之ニ説明ヲ加ヘタリ
 近來「アイラント」設置法ハ甚タ歐洲各國ノ著目スル所ト爲リ之ニ
 四箇ノ時期ヲ定メタリ

- 一 九ヶ月間ノ各居囚人ノ行狀善良ナルキハ仍ホ一ヶ月間其期限
 ヲ短縮スルコトアリ
- 二 雜居勞力ヲ數級ニ分ケ階級高ケレハ囚人ノ利益彌々大ナリ又
 囚人ノ行狀善良ナルキハ其期限ヲ短縮スルコトアリ
- 三 職工場囚人ハ他人ト交通スルコトヲ得或ハ製造ノ力役或ハ耕作
 ノ力役ニ用フルナリ職工場ニ於テハ懲戒法ヲ用ヒサレトモ時ト

シテハ罰ケテ一二ノ場所ニ復スルコアリ

四 許可状ヲ以テ放免スルコト、若シ品行正シカラサルカ又ハ遊惰ナルカ又ハ疑ハシキ行狀アルキハ更ニ其自由ヲ奪ハル、コアリ此方法ハ「ワルテルクロフテン」氏ノ發明ニシテ囚人ヲ漸次ニ自由ナラシムル趣意ナリ千八百五十六年ニ至テ「アイランド」ニ此法ヲ實行シ千八百六十四年七月廿八日ノ下院ノ議決ニ因リ僅カナル折衷ヲ以テ英國ニ採用シタリ然レモ英國ニ於テハ職工場ヲ省キ西「アウスタリヤ」ニ追放シテ其缺ヲ補ハシメタリ此法ハ千八百五十八年ニ「ミツテルマイエル」氏ニ因テ初メテ獨逸國ニ知レタレモ詳細ニ之ヲ知リタルハ「ホルツェンドルフ」氏ノ効ニ在ルナリ

歐洲ニ於テ内亂外患鎮靜シタル後各國ノ輿論專ハラ監獄署ノ改正ニ著目シタリ則チ千七百年代ノ末及ヒ千八百年代ノ始メニ於テ種々ノ改正法ヲ實行シタリ勿論囚人ノ衣食住ハ大ニ改良シ且其待遇ハ以前ニ比スレハ著シク寛大ニ至レリト雖モ當時改正ノ問題ハ獨リ寛大ノ待遇ニ非ス此ノ如ク改良スルモ犯人ノ數ヲ減セサルノミナラス却テ犯人ヲ増加シタリ茲ヲ以テ觀レハ改正ノ問題ハ社會ノ安寧ヲ維持スルヲ第一ノ目的トスベキモノニシテ私立會社ノ盡力ヲ以テ其改正ヲ補助スルノミナラス又政府ニ於テモ之ヲ擔任スベキモノトス當時學問上ノ著述書ハ陸續發行シ新聞紙ハ日々監獄署ノ問題ヲ論究シ學者社會及慈善社ニ於テハ其問題ヲ議シ各國中多クハ會社ヲ設ケテ監獄ノ改正ニ盡力シタリ尤モ重要ナルモノハ万国會議

ニ於テ各國ノ學者ヲ集合シ共ニ此問題ヲ議スルニ在リトシタリ
 古來監獄ノ改正ニ熱心シタル者ハ言語文書ヲ以テ互ニ會議ヲ開ク
 可キ場所ヲ評議シ遂ニ千八百四十六年ニ「マイン」河近傍「フランク
 フルト」ニ其會ヲ開クヘキ召集狀ヲ發スルニ至レリ其召集狀ニ署
 名シタル者ハ「ラーバント」「クレホ」「ダビット」「ジーツ」「ツクペチヲ」
 「ハルニール」「ユツプ」「ユーリユース」「リンドペント子ル」「ミツテル
 マイユル」「モロークルストール」「ニヨル子ル」「ピコー」「ルセツル」「ツ
 ーリングガル」「ワーレントヲツプ」及ヒ「ウエルケル」ノ諸氏ナリ此
 會ニ加ハリタル員數ハ獨逸人四十六名ノ外ニ北亞米利加合衆國英
 國佛國魯國白耳義和蘭陀瑞西璉羅國瑞典「ノルウエイ」諸國ヨリ二
 十九名ナリ「ハイデルベルヒ」大學校ノ大博士「ミツテルマイエル」氏

ヲ議長ニ法學士「ワルレントヲツプ」氏ヲ書記ニ撰舉シタリ
 其議事ハ三日間繼續シ召集狀ヲ發シタル者ヨリ議案ヲ作り預シメ
 之ヲ諸員ニ通知シタリ其諸員ノ意見ヲ八箇條ニ作り會議ニ於テ之
 ヲ採用シタリ法學士「ワーレンクフルト」「ア、エム」ニ開キタル第一
 監獄署改正會ノ決議錄ノ名ヲ附シタリ（千八百四十七年ニ發行シ
 タリ）

佛蘭西語ヲ以テ發行シタル會議書ハ千八百四十六年九月廿八日廿
 九日三十日ニ「フランクフルト」「ア、エム」ニ開キタル監獄署改正會ノ
 議決書ノ名ヲ付シ千八百四十七年ニ「巴里」ニ於テ「モロークルスト
 ー」氏之ヲ發行シタリ

「フランクフルト」ニ於テ議決シタル如ク千八百四十七年ニ「ブリュ

セル「白耳義」都府ニ於テ再ヒ會議ヲ開キタリ此會議ニ文明諸國ヨリ派遣セシメタル人員凡ソ二百名ナリ「ブリュセル」ニ在ル大審院長「フハンメーチン」氏ヲ議長ニ同國監獄長「ツクペチヨ」氏ヲ書記ニ擔任シタリ其議案ハ已ニ「フランクホルト」ニ於テ之ヲ作りシナリ此會モ亦三日間繼續シタリ諸員ノ意見ハ三ヶ條ニ作り其議事ハ千八百四十七年ノ「ブリュセル」ニ於ケル監獄會ノ議決書ノ名ヲ以テ印刷シタリ

「ブリュセル」ノ會議ニ於テ翌年瑞典又ハ和蘭陀ニ於テ第三會ヲ開カン「ヲ決シタレ」政事上ノ變革ニ因リ之ヲ實行スル「能ハサリ」シ其後十年ヲ經テ千八百五十七年ニ「ライン」河近傍「フランクフルト」ニ於テ會議ヲ開ク「ヲ得タリ勿論此會ニ於テハ監獄署ニ係ル

問題ノミヲ議シタルニ非サレ」此問題ハ議事中一大事件トシ議事ヲ三事件ニ分チタル内ノ一事ト爲セリ此會ニ於テモ大學博士ノ「ミッテルマイエル」氏ヲ監獄事件ノ議長「ワルレントラツプ」氏ヲ書記ニ擔任シタリ其議案ハ「ワルレントラツプ」氏及ヒ「ツクペチヨ」氏ニテ之ヲ作り其議決報告書ハ千八百五十七年「フランクホルト」ア、エム」ニ於ケル萬國公益會ノ名ヲ以テ發行シタリ

其後久シク方國監獄會議ヲ中絶シ千八百七十二年ニ龍動ニ於テ會議ヲ開クマテニ万國會議ニ於テ專ハラ監獄ニ係ル問題ヲ議シタル「ナカリシ此會ヲ開カントシタル者ハ北亞米利加合衆國ニシテ會議地ヲ協議シタル後龍動ヲ會議地ト定メ合衆國監獄會社ノ書記兼法學士「ワインズ」氏ヲシテ擔任シテ會議ノ準備ヲ爲サシメ且各國

政府員ヲ招待セシメタリ

「ワインス」氏ハ千八百七十一年ニ歐洲各國ヲ巡歴シ至ル所悉ク會議ニ加入センコトヲ承諾シタリ龍動ニ於テハ委員ヲ設ケテ相當ノ準備ヲ爲サシムルコトニ決シタリ其會議ハ千八百七十二年七月三日ニ之ヲ開キ同月十三日ニ至ルマテ日々議事ヲ繼續シタリ其議案ハ委員ニ於テ之ヲ作り委員ハ各國ノ派出委員ヲ以テ編成シタリ議長ハ「ロードカナ―ボン」氏ニシテ書記ハ「ピヤ―」氏ナリ

龍動ノ會議ハ従前ノ會議ヨリ大ニ其性質ヲ異ニセリ従前ノ會議ハ全ク私立ノ者ニシテ一己人ノ發意ニ因テ之ヲ開キ政府ハ全ク之ニ加ハラサルカ又之ニ加ハルトモ僅カニ之ヲ補助シタルノミ其會ニ加ハリタル者ハ殆ント一箇人ノミニシテ更ニ本國政府ノ命令ヲ受

ケスシテ派出シタルナリ勿論其内ニハ學說實際ニ長シタル者モアリ又曾テ議事ニ加ハリタルトナキ慈愛者モアリ

然レモ龍動ノ會議ハ政府ノ發意ニ因テ之ヲ開キタルモノナレハ派出委員モ自カラ異ナレリ當時ノ輿論ハ監獄ヲ改正スルニハ政府之ニ加ハリテ立法上ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ必用ナリト認メタリ因テ豫シメ政府ノ承諾ヲ受ケ又政府ヨリ委員ヲ派出セシメタリ之ニ加ハリタル各國ノ員數ハ二十ヶ國ニシテ其委員ハ凡ソ百名ナリ其内多クハ監獄官吏裁判官刑法家下院ノ議員(下院ニ於テ專ハラ監獄ノ改正ニ熱心シタル者)監獄會社ノ派出委員監獄署長ナリ更ニ之ヲ略言スレハ職務上又ハ私ニ議事ニ付スヘキ事件ニ關係アル者ナリ其議事ニ分ケルモ亦大ニ異ナル所アリ以前ノ會議ニ於テハ止タ已

レノ説ヲ交換シタルニ止マレリ如レ此學者實際家ノ集會シテ各其説ヲ述ヘ辨明ヲ爲スルハ之ニ因テ監獄ノ改正ニ係ル問題ヲ一決スルコト信シタリ勿論其會ニ於テハ監獄ノ現状實際ノ經驗ヲ知ルコトヲ得ルト雖モ是レ止タ學説ノ辨明又ハ辨駁ノ用ニ供スヘキノミニシテ其結果ヲ實施スルコトハ甚タ難カリシ則チ其議事中或ハ其實施ヲ試ミス或ハ之ヲ試ルモ其効ナキモノアリテ多クハ無益ト爲レリ例ヘハ會議ニ於テ一房一室ノ議ニ決シタレト之ヲ實施スルコト能ハサリシカ如ク又將來モ之ヲ實施スルコト能ハサラン況ヤ「フランクフルト」ノ會議ニ於テ未タ世人ノ知ラサリシ「アイランド」設置法ハ當時輿論ノ著目スル所ト爲リ各國多クハ之ヲ採用シタルニ非スヤ

龍動ノ會議ニ於テハ論説ヲ以テ監獄ノ改正ヲ圖ルコトヲ止メ專ハラ監獄署ノ現状犯罪處刑ノ實驗及ヒ實際新法ヲ試ミタル結果ノ職務上ノ報告ヲ集取スルコト爲シタリ其趣意ハ犯人ト爲スヘキ道德上ノ所行及ヒ之ヲ豫防スヘキ方法ノ効力ヲ研究スルニ非サレハ監獄改正ノ問題ヲ一決シ且之ヲ實施スルコト能ハスト信シタルニ在リ故ニ此會ニ於テハ文明諸國ヨリ其監獄ノ設置管理法及ヒ其結果改正スヘキ箇條ヲ掲ケタル職務上ノ報告ヲ出サシメタリ因テ此會ノ議事ハ學説上ノ討論ニ非スシテ監獄署ノ現状及ヒ古來ノ實驗ヲ互換スルノ趣意ナリ又以前ノ會議ニ比スレハ其議決シタル箇條甚タ僅少ナリ

又一方ヨリ觀レハ龍動ノ會議ハ以前ノ會議ヨリ異ナル所アリ則チ

以前ノ會議ニ在テハ監獄署ノ改正ヲ主トシタレモ社會ニ犯人ヲ減セシムルニハ他ニ方法アルヘシ若シ犯人ヲ罰スルヲ緊要ナリトスヘキハ又之ヲ豫防スルモ同シク緊要ナルヘシ則チ社會ハ犯人ノ豫防ニ盡力セサルヘカラサルナリ爲メニ龍動ノ會議ニ於テハ犯人ヲ罰スルノミニ止ラスシテ之ヲ豫防スルコトニ著目シタリ特ニ出獄者遺棄兒孤兒ノ保養者ナキ者ヲ救助スルコトヲ目的トシタリ

龍動會議ニ於テ議決シタリシ結果ハ千八百七十二年七月三日ヨリ十三日マテ龍動ニ開キタル万国監獄會議ニ於テ議決シタル内外國ノ監獄懲治場ノ名ヲ以テ編纂シタリ此書ハ實ニ監獄比較ノ爲メ缺クヘカラサル緊要ノ書ナリ其内ニハ社會ニ犯人ヲ豫防スル方法ヲ陳列シタリ

龍動ノ會議ヲ閉ツル前ニ委員ヲ設ケ犯人統計表ヲ作り且新會議ヲ開ク準備ヲ爲サシムルコトニ決シタリ其委員ニ命セラレタル者ハ「ペルトラニスカリヤ」(伊太利國)「フライ」(澳大利)「ウルレム」(瑞西)「ヘスチンクス」(英國)「ホルツエンドルフ」(獨人)「ロアソン」(佛國)「ボルス」(和蘭陀)「ゾロフ」(魯國)「ステワン」(白耳義)「ワインス」(米國)ノ諸氏ナリ「ウイルレム」氏ハ其書記ニ命セラレタリ此委員ノ會議ニハ政府ノ派出員モ加ハレリ委員ハ「ストツクホルム」ヲ次會ノ場所ト定メ瑞典國王ヨリ其承諾ヲ得タリ

此會ノ結果ヲ確實ナラシメンカ爲メ委員ハ成ルヘク學說上ノ討論ヲ省クコトニ決シタリ其議案ニハ一般ノ利害ニ係ル問題ヲ僅カニ掲ケタリ其事件ハ各報告書ニ認メ豫シメ會議ヲ開ク前ニ之ヲ配分シ

タリ

「ストツクホルム」ニ於ケル万国監獄會議

此會議ハ千八百七十八年八月十五日ヨリ廿六日マテ繼續シタリ古
來稀ナル大會ニシテ且實効アル會ナリ其報告及ヒ議事ハ之ヲ二卷
ニ編輯シ千八百七十八年八月十五日ヨリ廿六日マテ「ストツクホ
ルム」ニ開キタル万国會議ノイシヤテル「監獄署長兼會議書記法學
士」ホンウイルレム氏ニ因テ會議ニ付シ且發行シタル報告書ノ名
ヲ付シタリ(千八百七十九年發行二卷)

各國ヨリ監獄ノ現狀ヲ報告シタル内ニ支那日本ノ報告モアリ支那
ノ報告ハ僅カニ四帖ニ止マレリ(第二卷六百九十九條ヨリ七百二
帖マテ)支那政府ニテ之ヲ作りタルモノニ非ス支那在住ノ英人ハ

「バー」氏ノ作りタルモノニシテ着目スヘキ箇條少ナク且簡略ニ
シテ殆ント其趣意ヲ解シ難シ日本ノ報告ハ十帖ヨリ十一帖ニ至ル
(第二卷ノ六百八十六帖ヨリ六百九十六帖マテ)内務卿大久保利通
君司法卿大木喬任君ニテ之ヲ作りタリ其報告ニハ日本ハ千年以來
刑法及ヒ囚獄司ヲ設ケタレト千八百六十八年今上皇帝ノ即位已來
刑法監獄則ヲ改正シタルヲ掲ケタリ一房一室ハ舊來止タ新聞條
例ニ觸レタル者ニ適用シタリト其内最モ着目スヘキハ監獄ノ設置
法ト其懲戒法ナリ懲戒ノ目的ハ囚人ヲ勸奨シテ悔悟セシムルニ在
リ則品行正シク且監獄則ヲ守リタル者ニハ其賞トシテ善良ナル衣
食ヲ與ヘ最モ殊勝ナル者ハ之ヲ司法卿ニ具申シ刑ノ一部ヲ減免シ
本人ヲ勸奨スルノミナラス他囚ヲシテ之レニ倣ハシムル爲メナリ

其効驗ハ二例ヲ以テ之ヲ示シタリ（伊岡連三郎ナル囚人ハ品行正シクシテ後監獄吏ト爲レリ高澤留五郎ハ火災ニ遭ヒタル母ニ其貯金ヲ贈リタリ）又人情其家屬ヲ愛セサル者ナシト云フ正當ナル意見ニ基テ兩親子孫ノ應對ヲ許シ又僧侶ハ許可ヲ得テ説教ヲ爲スコトヲ得故ニ那蘇宜教師モ亦許可ヲ得レハ監獄ニ入ルコトヲ得ヘケン
「ストツクホルム」會議ノ問題議決

○第一 刑法

第一問題

法律ヲ以テ刑ノ執行法ヲ定ムル範圍如何場合ニ因リ法律ヲ適用スヘカラサルニ當リ監獄署ノ意見ヲ以テ之ニ反シテ處分ヲ爲スコトヲ得ルカ

決議

刑ノ執行ノ平等ヲ妨ケサレハ法律ニ定メタル場合ニ於テ監獄署ノ意見ニ因リ成ルヘク各囚人ノ情狀ヲ酌量シテ其刑ヲ執行スルコトヲ得

第二問題

舊來種々ノ自由ヲ奪フ刑ヲ存スヘキヤ又單一ノ刑ト爲シ止タ其期限及ヒ附加刑ヲ異ニスヘキヤ

決議

輕キ所犯ニ特別ノ輕キ刑ヲ存スル外ハ成ルヘク其刑ヲ一ニシ其異ナル所ハ止タ其期限ト附加刑ニ止ムルヲ善トス

第三問題

如何ナル事由アレハ流刑ヲ司法ノ爲メニ用フヘキモノナルヤ

決議

流刑ハ一般ニ實行スルニハ種々ノ困難ヲ省カサルヘカラス又其執行宜シキヲ得レハ之ヲ實行スルコトヲ希望ス

第四問題

監獄總監ノ權限ノ區域如何一躰總監ヲ要スヘキヤ且一切ノ監獄署私立ノ幼年懲治場ニモ其監督ヲ及スヘキヤ

決議

一切ノ監獄署及ヒ幼年懲治場ヲ總監スヘキ中央官署ヲ設クルハ便利ナルノミナラス又大ニ必要ナリトス

○第二 監獄

第一問題

萬國犯人統計表ハ如何ナル方法ヲ用フヘキヤ

決議

④ 万國犯人統計表ハ千八百七十二年ニ議決シタル方法ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

⑤ 其方法及ヒ之ヲ實行スル細目ハ万國會議ニ於テ之ヲ議決シ數字ヲ以テ掲ケタル事件ハ之ニ説明ヲ付スヘシ

⑥ 毎年統計表ハ會議ニ加ハリタル政府ノ順序ニ從テ其政府ニ於テ之ヲ作ルヘシ

第二問題

監獄ヲ整頓スルニハ看守人ヲ養成スル學校ヲ設ケ職務上必要ナル

準備ヲ爲サシムヘキヤ古來此事件ニ係ル實見如何

決議

任命スルニハ學說上及ヒ實驗上ノ教育アルコトヲ要ス又職務上勉勵セシムルニハ俸給ヲ善クシ其地位ヲ動カサ、ルヲ必用ナリトス

第三問題

監獄署ニ於テ如何ナル懲罰ヲ用フヘキヤ

決議

監獄署ニ於テハ左ニ掲クル懲罰ヲ用フヘシ

① 呵責

② 勞力賃ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコト

③ 重キ拘留

重拘留ハ囚人ノ性質健康如何ニ因リ几椅子、寢牀、ヲ取除キ室ヲ暗クシ又ハ勞力ヲ爲サシメヌ又ハ讀書ヲ禁スルニ在リ

④ 以上ノ罰ヲ科スルモ其効ナキハ囚人ノ性質健康如何ニ因リ飲食ヲ減シ且勞力ヲ爲サシメサルヘシ

⑤ 暴行ヲ爲シ又ハ喧噪ヲ爲ス者ニハ檢束法ヲ施スヘシ未決犯ニハ監獄長ヨリ其自由ヲ奪ヒタル目的ニ相當シ且不當ノ所行ヲ豫防シ又之ヲ罰スヘキ方法ヲ用フヘシ

第四問題

假出獄ノ問題ヲ審査スヘキヤ但「アイランド」設置法ヲ除ク

決議

假出獄ハ刑法ノ原則ニ抵觸セサルノミナラス之レニ因テ裁判判決

ヲ變更セス且社會及ヒ囚人ノ利益ト爲ルヘキモノナレハ政府ニ於テ之ニ著目スルヲ善トス

第五問題

一房一室ハ國民鄉村男女ノ異ナルニ因リ之ヲ折衷スヘキヤ

決議

一房一室ヲ用フル國ニ在テハ國民鄉村男女ノ區別ナク用フヘシト雖モ監獄署ハ其情況ニ因リ國民男女ノ區別ヲ酌量スヘシ又幼年者ニ一房一室ヲ用フル所ニ於テハ之レニ因テ身軀精神ノ發育ヲ妨ケサルコトニ注意スヘシ

第六問題

一房各居ノ期限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキヤ又監獄署ハ疾病ノ

ハ勿論其他例外ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ

決議

左ノ場合ニ於テハ例外ヲ爲スコトヲ得

①精神知覺病

②長痼重病

③囚人ノ健康ヲ害スヘキ情況ノ明瞭ナル時

○第三 豫防法

第一第二ノ問題

一 出獄シタル丁年者ヲ救助スヘキヤ又男女ノ異ナルニ因リ其方法ヲ別ニスヘキヤ

二 政府ハ出獄者救助組合(獨語ニテ「シユツツヘルアイン」佛語ニ

テ「リシエライゾバト」ヲ補助スヘキヤ又如何ナル方法
ヲ用テ爲スヘキヤ

決議

出獄シタル丁年者ヲ救助スルハ監獄及ヒ刑ノ執行ノ十分ナラサル
所ヲ補フヘキ者アリ又會議ハ前會以來ノ結果ヲ酌量シテ左ノ如ク
決シタリ

①出獄シタル者ノ救助ハ成ルヘク一般ニ及ホシ且其救助ハ一己人
ヨリ之ヲ爲スヘシト雖モ又政府ノ補助ヲ受クルコトヲ得假令政府
ノ補助ヲ受クルモ私立ノ性質ヲ失フヘカラス

②救助ハ監獄署ニ於テ改良ノ證據アル者ニ非サレハ爲スヘカラス
或ハ監獄署ヨリ爲スコアリ或ハ救助組合ヨリ爲スコアルヘシ婦

人ニハ別ニ救助法ヲ設ケ婦人ヲシテ救助セシムルヲ善トス

第三第四ノ問題

一 幼年者ニ於テ其所業ノ刑法ニ觸ル、ヤ否ヲ知ラサルカ爲メ放
免ト爲リ監獄署ノ處分ニ任カシタル者ヲ懲治場ニ入ル、ニハ如
何ナル方法ニ因ルヘキヤ

二 無藉乞丐無賴ノ幼年者又ハ棄兒ノ懲治場ハ如何
決議

①所行ノ刑法ニ觸ルヘキコトヲ知ラサルカ爲メ放免ト爲リタル幼年
者及ヒ無藉乞丐無賴ノ幼年者ヲ救助スル目的ハ之ヲ罰スルニ非
ス之ヲ矯正シテ活計ヲ立テシメ且社會ニ入ルコトヲ得セシムル目
的ナルコトニ着目スヘシ

⑩其教育ハ善キ家内ニ於テ爲スヲ最モ善シトスレモ其家内ナキモ
ハ公立私立ノ懲治場ニ入ルヘシ

⑪懲治場ハ宗教勞力及ヒ普通小學科目ニ因テ之ヲ設クヘシ

⑫幼年者ヲ家屬ニ組立ツヘキヤ又ハ之ヲ區別スヘキヤ否ハ其時ノ
模様ニ因テ之ヲ定ムヘシト雖モ必ス懲治場ノ長ハ各幼年囚ヲ教
訓シ得ヘキ人員ニ限ルヘシ

⑬宗教ノ異ナル幼年者ハ成ルヘク之ヲ別異スヘシ又年齢男女ニ因
テ之ヲ區別スル十歳以上ノ者ニハ必用ナリトス若シ年齢男女ニ
因テ別ノ懲治場ヲ設クルコト能ハサルモハ一ノ懲治場ニ於テ之ヲ
別異スヘシ

⑭懲治場ノ教育ハ幼年者所屬ノ社會相當ノ教育タルヘシト雖モ小

學校ノ科目勞力及ヒ衣食住ノ簡單ナルヲ要ス

⑮勞力ハ幼年者ノ郷民村民ナルノ異ナルニ因リ相當ノ勞力タルヘ
シ

⑯婦人ハ專ハラ家事ヲ教フヘシ

⑰無賴ノ幼年者ヲ懲治場ニ入ル、ニハ成ルヘク裁判官ノ手ヲ假ル
ヘカラス止タ法律ニ係ル點ハ教育ヲ終ル前又ハ懲治場長ノ許可
ヲ受ケスシテ退場スルヲ妨クルニ止ムヘシ
會議ニ於テハ各國ノ政府中往々懲治場ニ入ル、命令ヲ後見人官
署ニ委子タルヲ至當ト認メタリ

⑱懲治場ニ留ムル期限ハ滿十八年ニ至ルコト得レモ其期限前ニ假
リニ退場セシメタル者ハ品行惡シキモハ何時タリトモ再ヒ懲治

場ニ入ル、コアルヘシ

⑦懲治場ハ退場ノ準備主又ハ勞力ヲ世話スヘキ義務アリ

⑧懲治場ノ監督ハ政府ニ於テ爲スヘシ

第五問題

各國ノ警察官署協力シテ犯罪ヲ豫防シ及ヒ之ヲ告訴シ易カラシムルニハ如何ナル方法ヲ用フヘキ哉

決議

犯罪ヲ豫防シ及ヒ其告訴ヲ易カラシムルニハ各國政府ニ於テ宜シク協議スルヲ要ス

各國共カスルニハ先ツ犯人交換條約ヲ改正シテ之ヲ平等ナラシムルヲ要ス然ル後其條約ニ掲ケタル箇條ヲ實行スル爲メ至當ノ方法

ヲ定メ且各國警察官署ニ於テ互ニ補助スルヲ要ス

第六問題

再犯ヲ豫防スルニハ如何ナル方法ヲ用フヘキ哉

決議

再犯ヲ豫防スル良法ハ囚人ヲ悔悟セシムル目的ヲ以テ設立シタル監獄假出獄及ヒ常業トスル犯人ノ刑期ヲ長クスルニ在リ又再犯加重ノ刑期ヲ定メテ之ヲ減セシメ及ヒ救助組合勞力場農業ニ係ル懲治場ヲ設ケテ刑ノ執行ノ不足ヲ補フニ在リ

會議ニハ種々緊要ナル書類ヲ差出シタリ余ハ「ジョーヂヤツク」氏ノ製造學校書ノ一例ヲ舉ケン此書ハ一己人ノ盡力ニ因ルモ監獄改正ノ一大事業ヲ爲シ得ヘキコトヲ知ルニ足ル

又終生放蕩人ヲ矯正セシトニ盡カシタル婦人モ亦此會議ニ加ハレ
 リ以前高名ナル婦人ノ内「エレザベスフライ」氏ハ最モ高名ナルモ
 ノナリ此婦人ハ千七百八十年五月廿一日ニ英國「ノルホーク」ニ生
 レ千八百四十五年十月十三日ニ死シタリ（此婦人ハ實ニ男子ニ優
 レタル大功アリテ其傳ハ宜シク翻譯シテ日本人ニ示サンコトヲ希望
 ス其書目ハ「メモレイスヲフゼライフヲブエレザベスフライ」千八
 百四十七年龍動刊行及ヒ「ズザナツクコルデル」氏著述（ライフヲブ
 ミスイスフライ）千八百五十三年龍動刊行）「ストックホルム」會議ニ
 ハ瑞典ノ婦人「ドリーツグローナ」氏ノミ臨席シタリ此婦人ハ「ミス
 マレイカーペンター」氏ノ傳ヲ（此婦人ハ千八百七十七年六月十五
 日ニ死シタル人ニシテ棄兒及ヒ放蕩ナル幼年者ヲ救助スルコトニ盡

カシタリ）報告シタリ（千八百七十八年八月廿六日ノ議席ニ於テ報
 告シタルナリ）其傳ハ會議書第一卷九帖ヨリ十三帖マテニ掲ケタ
 リ

會議ニ差出シタル意見書ノ目錄

- 一 「ミスマレイカーペンター」氏ノ傳及ヒ功跡「ロザリードリーウ
 ・クローナ」女ノ著述
- 二 千八百七十二年ヨリ千八百七十八年ニ至ル監獄改正ノ沿革
 「シャル、ルカー」氏之ヲ報告シ「ドリーウコロナー」氏之ヲ演説ス
- 三 會議ノ準備ニ係ル報告特ニ「ストックホルム」會議ノ議事ニ係
 ル報告「巴里學士會員」シャル、ルカー」氏之ヲ報告ス

- 四 監獄學ノ急務(法學士「プロスベルデスホーシ」氏著述)
- 五 監獄署ノ懲戒法(「フライヒル」氏著述)
- 六 犯人ヲ悔悟セシムル方法(英國監獄長著述)
- 七 盜犯悔悟法(エドワルドイーストマン「氏著述」)
- 八 噠馬國ニ於ケル出獄者救助組合(「フラウスツケンベルヒ」著述)
- 九 「ミヒガン」州ノ農業植民地(「カードーランダー」氏著述)
- 十 「マリイランド」ニ於ケル出獄者救助組合ノ功驗(「ゲーエスグリ」フヒシ」之ヲ呈出セリ)
- 十一 英國「スコットランド」ニ於ケル工業學校ノ起原及ヒ進歩功跡(「ジョーヂヤック」氏著述)
- 十二 萬國監獄統計表ノ意見(「ラスカルゲルブハー」氏著述)

十三 暴酒ハ貧窮惡事、犯罪ノ起原ナリ(北亞米利加合衆國ノ禁酒組合ヨリ之ヲ呈出シタリ)

法學士「ワインス」氏ノ畧傳

「ストツクホルム」會議書第二卷ノ終尾ニ其紙端ヲ黑クシテ議長法學士「ワインス」氏ノ不慮ノ死去ヲ報告シタリ氏ハ千八百七十八年十二月十日ニ亞米利加「ケンブリジ」ニ於テ死去シタリ氏ハ千八百六六年二月十七日ニ「ニューエルセイ」ニ生レタリ故ニ高年ニ達シタレト雖際タリシヲ以テ翌年羅馬ニ開ク會議ニモ議長ニ選ハンコヲ人皆ナ希望シタリ同氏ノ死ハ獨リ本國亞米利加ノ失望ノミナラス開明諸國ノ失望ナリ同氏ノ德ハ亞米利加及ヒ歐羅巴人

ヲ監獄ノ改正ニ着目セシメタルノミナラス法ヲ設クルニ聰明英敏ニシテ已レノ目的ヲ達セントスルニハ必ス有功ノ方法ヲ考出スニ在リ專ハラ監獄署ノ改良ニ熱心シテ己ノ財産ヲ擲チ亞米利加ニ於テハ學校ニ盡力シタリ十年間ハ「ニュー・ヨルク」及ヒ「ペンシユエル」ニ「ノ僧侶ナレ」千八百六十二年ヨリシテ終身監獄ノ改良ニ力ヲ盡シタリ之ニ係ル著述書ハ殆ント一万枚ニ至レリ教育宗教監獄署ノ改良等ヲ著述シタル卷數ハ殆ント四十卷アリ

又監獄改良ノ爲メニ歐羅巴亞米利加ヲ巡歴シタル里數ハ十五萬英里以上ニシテ世界ヲ六回巡歴スヘキ里數ナリ同氏ノ肖像ハ會議書第二卷ノ表紙ニ在リ

英國「スコットランド」ニ於ケル工業學校ノ期限進步効跡「シヨ」

ヂヤツク「氏著述氏ハ」シユンデン「ノ工業學校船「マルス」ノ書記ナリシ」ストツクホルム「會議書第二卷九十一帖ヨリ九十七帖マテ」工業學校船トハ工業學校ノアル船ヲ云フナリ

豫防ハ治療ニ勝レリ

棄兒ノ犯罪ヲ豫防スル刑法及ヒ慈惠法ハ英國ニ於テ之ヲ設ケタル日尙ホ淺シ昔日ハ貧民及ヒ孤兒ヲ社寺組合ノ（社寺組合トハ寺ニ屬シタル團結ヲ云フナリ）僧侶ニ委子犯人ハ當時ノ刑法ヲ以テ之ヲ罰セリ然レモ國家ハ一己人ノ如ク沿革スルモノナルヲ以テ一時善良ナルコト雖モ後日ニ至レハ又有害ノコト爲ルヘシ是レ則チ茲ニ論スル所ノ者ヲ以テ證スルニ足ルヘシ英國ニ於テ其人口増加スルニ從ヒ社會ノ情況大ニ變革シ爲メニ道德モ亦大ニ變遷セリ

蒸氣力ヲ發明シテ之ヲ器械ニ使用シタルハ一大進歩ナリ之レニ因テ社會ノ情況ヲ一變シタルト云フモ可ナリ此發明ニ因リ礦業盛大ト爲リ紡績ハ盡ク器械力ヲ用ヒ凡テ勞力ハ多少蒸氣ノ力ヲ借ラサルモノナキニ至レリ蒸氣力ハ通商富國ヲ進歩セシメタルモノナリト雖モ又一方ヨリ觀レハ一ノ現狀ヲ醸出シタリ則チ製造場ニ於テハ男女老弱ヲ問ハス數千人ノ人工ヲ使役シ且製造場ヲ設クルニハ郷ノ近傍ニ於テシ容易ニ其人工ヲ傭入レシムルヲ得セシメタリ之ニ因テ村民ハ次第ニ減少シ郷民ハ次第ニ増加シ國民ノ性質及ヒ慣習モ亦一變シタリ然レモ如此變化ハ國民ノ身軀精神道德ヲ改良シタルニ非スシテ却テ之ヲ害シタルナリ則チ世人ノ知ル如ク暴酒ハ古來英國「スコットランド」ニ於テノ惡弊ニシテ世ノ變遷ト

共ニ次第ニ之ヲ增益シタリ又郷ノ進歩ニ從テ氣發飲料ヲ求メ易ク爲リ貧窮ニ陥ル者陸續トシテ絶ヘス其弊害ハ曾テ外國人ノ稱揚スル所ト爲レリ汝英國人種ハ暴飲スル人種ニシテ是レ則チ吾人ノ幸福ナリ然ラサレハ汝ハ世界ヲ橫領スヘシト此語ノ眞ナルヤ否ハ茲ニ論スルヲ要セスト雖モ氣發飲料ノ爲メニ吾人種ヲ卑屈ナラシメタルハ確實ナリ

窮民救助法ハ人工ヲ以テ設ケタルモノナレハ耶蘇宗ニ所謂ノ愛情及ヒ満足ヲ惹起スモノニ非ス今日ニ至テハ愛情ト満足トハ實ニ缺クヘカラサル者ナリ近來屢々刑法ヲ改良シタレモ神ヲ畏レス他人ヲ愛セサル者ハ次第ニ増加セリ(是等ノ者ハ耶蘇宗信仰者ノ内ニアル「ハイデンツーム」ト云フナリ)是等ノ者ヲ檢束セス自由ニ捨置

ク其ハ社會ノ秩序ヲ紊亂スルコト彼ノ「ゴーテン」「ワンダーレン」人種ノ羅馬舊國ヲ滅亡シタルカ如クナルニ至ラン

元來英國ニハ教育宗教ノ盛ナルヲ以テ或ハ之ヲ虚言ト爲ス者アルヘケレト是レ虚言ニ非ス則チ現状ヲ掲ケタル者ナリ當時其惡弊ヲ豫防スルモ益々之ヲ増加シタリ茲ニ於テ統計表ヲ掲クル餘地ナケレト左ニ之ヲ畧記シテ此惡弊ヲ生セシメタル原因ヲ示サント欲ス

一 毎年死去スル家屬數多ニシテ其子ハ全ク棄兒ト同シク幼年ノ時ヨリ自カラ勞カシテ活計ヲ立テサルヘカラサル者アリ又兩親ヲ失ハサルモ其父暴飲スルニ因リ同ク困窮ニ陥ル者アリ

二 幼年ノ男女早ク父母ヲ離レ獨立シテ勞カヲ爲ス者アリ又自カラ好シテ他人ノ家屬ニ入り父母ノ監督ヲ免カレントスル者アリ

三 暴飲ニ慣レ其他ノ不品行ハ如此增長シテ終ニハ別社會ヲ作ルニ至ル貧窮院病院ニ入ル者ハ此社會ヨリ出ル者多シ拘留所監獄ニ在ル者モ專ハラ此社會ノ者ナリ

世界ノ大業ハ一己人ノ思想ニ因テ之ヲ成シタル者ナリ懲治場ニ於ケルモ亦同シ政略家ハ刑ヲ定メテ犯罪ヲ豫防シ又ハ之ヲ減スルコトニ盡カシ且流刑ヲ以テ犯人ヲ追放スル場所ヲ定メ宗教家ハ宗教ノ衰フルヲ歎キ又信仰者ノ少ナキヲ憂フルニ止マレト「ゴロステル」(英國ノ工業盛繁ナル地方)「ロバートライケス」氏ハ暴酒ノ弊害ヲ豫防スル一法ヲ實行シタリ同氏ハ曾テ日曜日ノ朝汚穢ナル衣服ヲ着タル幼者ノ集合シタルヲ見且教育ヲ受ケス兩親ノ養育ナク成長シタルコトヲ聞テヨリ之ヲ救助センコトヲ試ミタリ則チ友人兩三名ト

謀リ日曜夜學校ヲ設ケ棄兒ノ身軀精神ノ養育ナキ者ヲ教育セント
企テタリ久シク盡力シテ終ニ宗教ヲ信仰セサル幼者ヲ純良ナラシ
メ讀書ヲ教ヘ説教ヲ授ケ一時ニ其地方ノ情況ヲ一變シタリ又其功
跡ハ老人ノ謬ニ小ナル地獄ノ變シテ極樂ト爲リタルト言ヒシ如ク
明カナリ

「ロバートライケス」氏ノ學校ハ世人ノ知ル如ク日曜學校ノ發端ナ
リ其思考次第ニ國內ニ蔓延シ慈惠心ヲ有スル耶蘇信仰者ハ皆ナ之
ヲ實施センコトニ盡力シタリ是時ヨリ世人皆放蕩ナル幼年者ヲ留置
キテ之ヲ救助スルニハ必ス同氏ノ思考ニ據ラサレハ他ニ救助法ナ
キコトヲ知ルニ至レリ

日曜學校ノ功蹟ノ大ナルモ之ヲ以テ犯罪ヲ豫防スル方法ニ足レリ

トスヘカラス特ニ盛大ナル郷ニ於テハ其方法十分ナラス然レモ其
不十分ナルカ爲メ之ヲ放棄セスシテ愈々別ニ効力ノアル方法ヲ發
見センコトニ着目シタリ則チ新ニ夜學校ヲ設ケタレモ是レ亦十分ナ
ル方法ニ非ス(貧窮夜學校)又此方法ヲ實施スルノ困難ハ幼年者ヲ
召集シカタクト之ヲ召集スルモ其衣服ノ汚穢ナルカ再ヒ家ニ歸レ
ハ已ニ其習ヒタルコトヲ忘レ此社會ト他ノ社會トノ間ノ懸隔ヲ充タ
スニ足ラサル是レナリ然ノミナラス夜間一時ノ教育ハ閑ニ過キ一
日ノ不行狀ヲ矯正スルコト能ハス是等ノ不足ヲ補ハンカ爲メ晝間學
校ヲ設クルニ至レリ是則第二ノ進歩ナリト雖モ之ヲ以テ社會トノ
間ノ懸隔ヲ充タスニハ尙ホ足ラサルナリ

脅迫シテ路傍ヨリ連來ル幼年者ノ集リタル學校ヲ一目セハ必ス如

何ナル感情ヲ起スカ男女トモニ其身ニ汚穢ナル衣服ヲ着ケ餓死ニ向ントスルニ非スヤ其社會ニ於テ耶蘇ノ教育ハ如何ナル効驗アルカ則チ其効驗ナキニ非スヤ因テ遂ニ純全ナル方法ヲ發行シタリ此法ノ熱心家ハ幼年者ヲ教育セント欲スルニハ獨リ宗旨及ヒ教育ヲ以テ足リトセス必ス之ニ衣食住ヲ供スヘキヲ知リ尤モ緊要ナルコハ一家ヲ設立スルニ在リ(孤兒院)之ヲ設ケスシテ幼年者ヲ兩親又ハ舊故ニ委テントスルハ一日間ノ教授ハ更ニ其益ナカラン因テ此時ヨリ孤兒院ヲ設立シ政府ノ許可ヲ得テ幼年者ヲ留置キ兩親ニ代テ其監督ヲ爲サンコニ盡カシタリ

貧窮學校ハ千八百三十九年ニ始メテ設ケタルモノナリ其後五年ヲ經テ龍動ニ設立シタル員數ハ二十ヶ所教師二百人幼年生徒二千人

アリ其他盛大ナル郷ニ於ケルモ棄兒ノ救助法ニ盡カシタルハ資金ノ足ラサルカ爲メ十分ニ其學校ヲ設ケルコト能ハサリシ

「スコットランド」「アベルデー」ノ執行官「ワートン」氏ハ教育ニ工業傳授ヲ増加シテ大ニ教育法ヲ改正シタリ此方法ニ因テ二箇ノ良結果ヲ得タリ則チ教育ノ外ニ工業ノ傳授ヲ受クルト之レニ因テ活計ヲ立ル一助ト爲ル是レナリ此工業傳授ハ大ニ其効アリ一般ニ此類ノ學校ハ之ヲ採用シタリ勿論幼年者ニ於テ得ル所ノ利益ハ僅少ナレモ其効驗ハ幼年者ニ勞力心ト節儉心トヲ起サシメ且多少財産ヲ有スル感情ヲ與フルニ在ルナリ

此學校ニ於テ其効驗世人ノ欲スル所ニ充タサル者アリト雖モ次第ニ進歩シテ今日ニ至テハ一般ニ之ヲ工業學校ト稱セリ「インヅスト

レイスクール「慈惠心」ナル者ハ之ヲ賛成シ政府議院モ亦之ニ着目シ諸種ノ救助ヲ爲ス者モ亦抄カラス

此學校設立以來(千八百六十一年以來)屢々改正シ當時已ニ國內一般ノ學校ト爲ルニ至レリ

此學校ノ性質及ヒ目的ヲ簡略ニ言ヘハ左ノ如シ

- 一 孤兒及ヒ養育スヘキ者ナキ幼年者ノ十六歳ニ至ルマテ教育ヲ爲シ及ヒ工業ヲ傳授スルコト
 - 二 教育ニ因テ犯罪ノ豫防ヲ爲スコト
 - 三 退校ノキ勞力ニ就カシメ社會ノ一人タラシムルコト
- 是等ノ目的ヲ以テ數年來工業學校ヲ維持シタルノ効驗甚タ大ニシテ愈々其進歩ヲ獎勵スルニ至ルヘシ則チ國家ハ人民ニ對シテ公益

ヲ圖リ幼年者ハ之ニ因テ無比ノ利益ヲ得ルナリ

此學校ハ又巨大ノ費用ヲ要スルハ勿論ナリ之ヲ細論スルハ本論ノ趣意ニ非ス暫ク止タ毎年一人ノ教育費ヲ概算スレハ三十封度ト爲ルノ多キニ至ルヘシ(四百マルク)其内四分ノ三ハ國家ノ費用ニシテ其不足ノ分ハ學料及ヒ贈遺ヲ以テ補フナリ若シ兩親無力ナルトハ學費ノ一部ヲ出スヘシ此方法ハ則チ有力者ニ對シ學料ヲ出スヘキ義務アルコトヲ知ラシメ公衆ノ費用ヲ以テ己レノ子ヲ教育セントスル者ナカラシメンカ爲メナリ勿論其學料ノ全額ハ至テ僅少ナリ」

千八百七十六年十二月三十一日ニハ工業學校ノ員數英國「スコットランド」ニ於テハ百七ヶ所幼年生徒ノ員數ハ男女ヲ合ハセ一万三千四百九十六名一人ニ付テノ費用ヲ二十封度ト計算スレハ二十七万

八千九百二十封度ト爲ルヘシ此員數ヲ觀レハ直チニ學校ノ進歩ト費用ノ莫大ナルコトヲ知リ勿論學校ヲ設ケサレハ犯人ト爲ルヘキ者幾許ナルヤ否ヲ確定スルコト能ハスト雖モ監獄署警察官署ノ意見ニ因レハ總員數ノ四分ノ三以上犯人ト爲ルヘシト此意見ヲシテ果シテ實ナリトセハ毎年得ル所ノ利益ハ實ニ莫大ナルヘシ假リニ裁判費用犯人ノ賄料ヲ計算スレハ毎年全國ノ利益ハ二千五百萬フランニ至ルヘシ然レモ費用ハ主トシテ論スヘキモノニ非ス犯人タルヲ免カレタル幼年者ハ國家ノ爲メ利益ト爲ルノミナラス本人自己ニ於ケルモ亦生涯ノ誤ヲ免カレタルニ非スヤ

工業學校ノ利益ハ以上ノ外仍ホ左ニ掲ケル者アリ人皆之レニ着目スルヲ要ス

海軍及ヒ通商船ニ水夫ヲ傭入ル、ハ古來緊要ナル一問題ニ在リシ其問題ハ工業學校設立已來略々之ヲ氷解シタリ已ニ數年來海軍ニ傭入ル、水夫ヲ教育セン爲メ學校船ヲ設ケテ幼年者ヲ召集シタルモ此法ヲ通商船ニ及ホシタルコトハ僅カニ兩三年ノコナリ如此此法ヲ弘メタルハ實ニ稱スヘキ趣向ニシテ其効蹟モ亦僅少ナラス十年又ハ十二年已來船舶七艘ヲ學校船ニ供シタリ其船舶ハ實用ニ供スヘカラサル破損シタル軍艦ニシテ政府ヨリ之ヲ給與シ川又ハ海岸ニ滯泊セシメ其内ニ學校ヲ設ケ陸上ニ於ケル如ク教育スルナリ然レモ此船ニハ男子ノミヲ入レ教授ヲ爲シ衣食ヲ給シ軍艦通商船ノ水夫タルニ必用ナル專門科ヲ教フルナリ之ヲ一般ニ演習船トス止タ船舶内ニ於テ教授スルノミナラス海上ニ派遣シテ實地經驗ヲ爲

サシムルコアリ此船舶モ工業學校ニ於ケル如ク政府ノ監督ヲ受クヘシ

當時船舶ニ於テ教授スル員數ハ二千人以上ニシテ毎年入校スル者ハ殆ント五百名又退校スル者モ同數ナリ此學校ニ於テ卒業シタル者ハ必ス軍艦ニ乗込ムヘキ義務ナシ其内体格不具ニシテ軍艦ニ入ルヘカラサル者アリト雖モ多クハ水夫ト爲リ國家ノ爲メニ報ユルヲ常トス

近來ニ至テハ工業學校及ヒ學校船ニテ社會ノ爲メ莫大ノ利益ヲ與フルコトハ疑ヲ容ルヘキニ非ス則チ監獄署ノ意見ニ因レハ學校設立以來幼年者ノ犯人蓄シテ減シ社會ノ員數ニ入ラサル幼年者ノ要事犯罪ヲ豫防シタリ(社會ニ入ラサルトハ社會中ノ上等社會ハ勿論下

等社會ニモ入ルヘカラサル榮譽ナキ者ヲ云フナリ)此學校ノ爲メ支出シタル金額ハ十倍ノ收入ト爲ルノミナラス之レニ因テ幼年者ヲ社會ニ榮譽アル者タラシメンカ爲メ不品行ノ交際ヲ絶チ不幸者ニ對シテ耶蘇宗ノ義務ヲ盡シタリト謂フヘシ

期限ノ長キ各居

有名ナル佛蘭西ノ監獄改正家「シャル、ルカー」氏ハ法學士「ワイン」氏ニ左ノ文章ヲ送リタリ此問題ハ未タ之ヲ解スルコト能ハス之ヲ解スルニハ種々ノ試験ト實行トヲ要ス龍動ノ會議ニ於テ此問題ヲ議セント欲シタレモ余ハ其意見ヲ述ヘサリシナリ恐クハ當時黙止スルハ事情ニ通スルノ處置ト信ス(ストツクホルム會議書ノ三卷三十三帖三十四帖)「ベル子ル」氏刑法注釋二百三十八帖二百三十九帖

ヲ見合スヘシ則

一房一室

一房一室ハ他ノ設置法ニ優ル、コ算カニ遠シ心術ノ惡ハ他ノ犯人ヨリ別異スルヲ苦楚トスレモ悔悟ノアル者ハ却テ別異センコヲ希望ス故ニ其心術愈々惡ニ傾ケハ獨居ヲ感スルコ愈々甚タシキヲ以テ一房一室ハ公義正直ニ適ヒタル報酬ナリ元來一房一室ハ最モ犯人ヲ恐懼セシムルモノニシテ他ニ之レニ換フヘキ方法ナシ暴惡者ト雖モ之レニ因テ其心術ヲ挫クコヲ得又一房一室ハ犯人ニ悔悟心ヲ生セシメ他ノ犯人ニ惡心ヲ及ホサ、ラシメ且其心術ヲシテ善良ナラシムル如ク務メテ悔悟セシムル目的ヲ主トシタルナリ古來懲治場ノ弊害惡心ノ傳染徒黨ハ一房一室ニ因テ全ク消滅シタリ

獨逸刑法ハ徒刑ニ一房一室ヲ設ケタルノミナラス又禁獄ニ於ケルモ之レアリ又一房一室ハ刑期ノ全部又ハ一部ニ用フルコヲ得レモ犯人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ三年ヲ越ユヘカラス
此規則ノ効驗ハ法律ヲ發シテ一般ニ其執行法ヲ定ムルニ非サレハ之ヲ觀ルコ能ハス

千八百七十年三月四日ノ下院ノ議決ニ因レハ宰相ニ連邦委員局ニ命シテ自由ヲ奪フ刑ノ執行法ヲ定メ且別ニ官署ヲ設ケ監獄懲治場ヲ總轄セシムヘキコヲ求メタリ

此決議ニ因リ獨逸監獄官吏ノ集會ヲ催シタルコニ回アリ其一ハ千八百七十四年九月ニ伯林ニテ之ヲ開キ其一ハ千八百七十年九月ニ「スツットガルト」ニ於テ之ヲ開キタリ伯林ノ集會ニ於テハ重要ナル

準備ヲ爲シタルノミナラス又刑ノ執行法ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキヤ又行政ノ手續ニ委ヌヘキヤ否ヲ議決シタリ「スツットガルト」ノ集會ハ刑ノ執行ニ係ル原則ヲ議定シ一房一室ヲ採用シタリト雖モ獨逸刑法第二十二條第二項ニ因リ期限ノ長キ刑ニ於テハ他ノ法ヲ混用スルモ妨ケナシト決シタリ白耳義ニ於テモ亦十年以上一房一室ニ入ル、コヲ試ミサリシ千八百七十年十月ニ「チンチナーチ」ニ於テ監獄會議ヲ開キタルモ亦久シク一房一室ニ入ル、ハ古來ノ誤謬ナリト決シタリ然レモ刑期ノ始メニハ一房一室ヲ用ヒ且夜間各居セシムルハ一般ニ之ヲ採用シタリ則チ獨逸刑法第二十二條第二項ハ一房一室ノ論者ト「アイランド」設置法トヲ折衷シタルモノナリ已ニ普國司法省ニ於テ「スタルケ」氏ノ起草シタル執行法ハ千八百七

十八年六月三日ヨリ八日マテ伯林ニ於テ獨逸監獄官吏ノ委員ニ付シテ之ヲ議定セシメタリ委員ノ意見ニ因リ其草案ヲ折衷シタル上之ヲ連邦委員局ノ司法委員ニ付シ其二讀會(千八百七十九年五月及ヒ同年十月)ニ於テ其原則ヲ改正シ全ク草案ヲ廢棄シタルニ因リ千八百八十年一月ニ連邦委員局ニ於テ作りタル草案ハ本年ノ下院ノ會議ニ呈出スルコト能ハサリシナリ連邦委員局ノ草案ハ監獄雜誌第十四卷千八百八十年一帖ヨリ十一帖マテニ掲ケタリ

自由ヲ奪フ刑ノ期限ヲ短クスルコト

「ストツクホルム」會議ニ呈出シタル日本ノ報告ニ左ノ箇條アリ
 犯罪ノ増減ハ之ヲ確言スルコト能ハサレモ期限ノ短キ刑ヲ用フルヲ常トス(第二卷六百九十三帖)

現ニ期限ノ短キ刑ヲ屢々用フルトハ歐洲ノ實驗ニ因リ大ニ弊アリ
寧ロ其期限ヲ長クシテ稀レニ之ヲ用フルハ其期限短クシテ屢々用
フルニ勝レリ則チ其期限短カキキハ之レニ因テ犯人ヲ悔悟セシム
ルヲ能ハサルノミナラス又之ヲ恐懼セシムルノ効ナカルヘシ

羅馬刑法

刑ノ區別

羅馬ノ刑ハ左ノ如ク區別セリ

- 一 「カピターレス」及ヒ「ヒトカピターレス」ナリ「カピターレス」
ト云フ字義ハ「カプト」及ヒ「カピターレス」ト云フ語ヲ狭ク用ヒ又
ハ廣ク用フルニ從テ種々ノ意義ヲ含蓄セリ「カピターレス」ハ第
一 生命自由及ヒ國民權及ヒ名譽ヲ損スル者ヲ云フ然ルトキハ
大抵ノ刑ハ殆此字義ニ於ケル「カピタール」刑ト言フモ可ナリ第
二ニハ 生命自由及ヒ國民權ヲ損スル者ヲ云フ第三ニハ 止タ
生命ヲ損スル者ヲ云フ第三ノ意義ハ羅馬帝ノ時代ニ通常用ヒシ
刑ナリ以上ハ廣ク言ヒシ時ノ意義ナリ狭ク意義ニ於ケル「カピ

タトレスハ死刑則チ斬罪ヲ云フ

二「ヨヘントリヒストラーヘン」及ヒ「フリバートストラーヘン」國

公然ノ刑

公然ニ非サル刑

家ハ公義正直ヲ主ルカ爲メ及ヒ國家ノ利害ヲ防禦スル爲メニ犯罪者ヲ罰スルナリ其罰ノ爲メ被害者ニ利益ヲ與フル者ニ非ス此刑ヲ公然ノ刑ト云フヘシ公法ニ非サル刑ハ被害者ノ訴ヲ待チ治罪法ノ手續ヲ以テ科スルナリ（私訴歟）其刑ハ或ハ一定ノ金額ヲ出サシムルコトアリ或ハ財産ノ一部ヲ失ハシムルコトアリ或ハ或ル物件又ハ其權利ヲ失ハシムルコトアリ

三 普通ノ刑ト特別ノ刑トアリ普通ノ刑ハ人民一般ニ科スルモノ

ナリ特別ノ刑ハ身分僧侶軍人貴族及ヒ等級奴隸ヲ限テ科スルナリ

四 法律ニ定メタル刑ト未タ定メサル刑トアリ定メタル刑トハ古

來ノ治罪法ニ從テ科スル者ナリ定メサル刑トハ未タ法律ニ定メス裁判官ノ意見ニ因テ科スル刑ナリ併刑期ノ長短ハ新法及ヒ裁判官ノ習慣ニ因テ定リタルモノモアリ
刑ノ種類並輕重及ヒ犯人ノ等級ニ從テ刑ノ區別ハ各條ニ之ヲ定メリ

法律ノ効力

一 期日ニ付キ

刑法ハ通常頒布ノ日ヨリ効力ヲ有スヘシ又ハ刑法ニ定メタル期日ヨリ効力ヲ有スルコトアリ法律ハ止タ罰スヘキ所犯ノ頒布以前ニ係ルモ其已ニ禁止シタル（法律ニ非）者ニ限り已往ニ遡テ効力ヲ及ボスコトアリ此事ハ共和政治ノ時代ニアリシコトナリ併シ通常ハ已往ニ

遡ルヘキ効力ハナキモノナリ帝國ノ時代ニ至テハ全ク已往ニ遡テ効力ヲ及ホスコハナカリシカ止タ法律ニ掲ケタルモノミ已往ニ及ホセリ例ハ「ウスチニヤン」帝ハ親屬相姦ノ刑ヲ設ケ法律ニ掲ケテ之ヲ已往ニ及ホセシカ如シ

刑法ハ明カニ又ハ暗ニ廢スルマテハ其効力ヲ有ス

二 人ニ付キ

羅馬刑法ハ羅馬全民及ヒ奴隸ニ其効ヲ及ホス併シ羅馬帝及ヒ外國ノ公外ハ刑法ニ依テ處分スルコヲ得ス又羅馬國內ニ於テ罪ヲ犯シタル外國人ハ羅馬裁判所ニ於テ裁判ヲ受クヘシト雖モ必シモ羅馬刑法ヲ以テ處分セス

ベル子ル氏註釋

羅馬帝ノ時代ニ至テハ共和政治ノ時ヨリハ刑罰ハ餘程酷ニ成レリ就中耶蘇宗ノ進入セシヨリ「モ―ゼス」氏ノ刑ニ關スル掟ヲ取用ルコニ成レシヨリ酷ニ成レルナリ

刑ノ區別ハ

「カピタル」刑ト「カピタル」ニ非サル刑ナリ

一 カピタル刑

此刑ハ如何ホト輕クアルモ國民權ヲ失フナリ此刑ヲ三種ニ分ツ則

- 一 國民權ノミヲ失フ國民權ト自由ヲ失フ國民權自由及ヒ生命ヲ失フ

先ツ死刑ヨリ解カン

一 死刑

羅馬刑法

① 磔 此死刑ハ王國時代ヨリ行ナハレリ此刑ヲ行フニ付テハ種々ノ方法アリ通常ハ犯人ノ身軀ヲ撻タル後十字架ニ繫キ又ハ釘ニテ之ヲ繫キ漸次ニ苦痛セシメテ殺スナリ或ハ恩赦ヲ以テ足脚ヲ折リ又ハ鎗ニテ之ヲ突キ其死ヲ速カニセシムルコトアリ此刑ハ古ヘハ奴隸ノミニ用ヒタルモノニシテ之ヲ不幸木ニ掛ケタリ其後奴隸ニ非サル者マテニモ之ヲ適用セリト雖モ止メ最重刑ヲ犯シタル者ニシテ羅馬國附屬地内ノ住民ニ限リタルモノナリ「謀反大逆故殺道路海上ノ強盜偽造一揆」

「コンスタンチン」帝ノ時代ニ至テ此刑ヲ廢シ鉾ノ如キ棒ヲ以テ犯人ヲ死ニ至ルマテ撻ツノ刑ニ換ヘタリ

② 火刑 此刑ハ甚々稀ニ行ヒシアリ共和政治ノ時代ヨリ始レ

リ帝ノ時代ニ於テハ放火又ハ邪術ヲ行ヒ又ハ神聖ニ對スル不敬親屬相殺皇帝ニ對スル犯罪ノ或ル場合又ハ耶蘇信仰者ヲ追放スル者ニ科シタルナリ

③ 猛獸ニ因テ殺死ス 此刑ハ「子ーロ」帝ノ時ヨリ始レリ

「官位ノ名デクリー

「官位ノ名子ーロ」及ヒ「官位ノ名ウエテラ」子ニ對シテハ此刑ヲ用フルコトヲ得ス

又兵器ヲ持ツ者ト闘カハシムル刑モ此數トス但死ニ至ルマテ闘カハシムルナリ「コンスターチー」帝ノ時代ニ至テハ僧侶ノ求メナケレハ犯人ヲ此刑ニ處セス後帝ノ時代ニ至テ全ク此刑ヲ廢セリ

④ 袋ニ入ル刑 此刑ハ親屬相殺ノ者ニ用ユル者ニシテ先ツ

之ヲ撻タル後革ノ袋ニ犬雞猿蛇等ト共ニ入レテ之ヲ水中ニ投
スル刑ナリ

㊦ 斬罪

従前ハ斧ヲ用ヒ後世ハ劔ヲ用ヒタリ此刑ハ最モ多ク用ヒタリ
其他ノ死刑特ニ岩上ヨリ之ヲ落シ又ハ生ナカラ之ヲ土中ニ埋
ム(ウエスタリニン子ン尼ノニ用ヒタリ)

此等ノ刑ハ殆ント廢セラレタレトモ止タ暴虐ノ君主アリ法律
ニ因ラスシテ遇々殘酷ノ刑ニ處セシコアリ

二 自由ヲ奪フ刑

① 終身礦坑ニ苦役スル刑

此刑ニ輕重アリ重キモノハ純粹ノ苦役ニシテ身軀ヲ繫カル、

ナリ輕キモノハ專ハラ婦人ニ用フル刑ニシテ礦業人ノ使役ニ
供スルナリ

㊦ 動物ト闘ハシメ又ハ劔ヲ持ス者ト闘ハシムル刑「此刑ハ死
ニ至ラサルコアリ」コンスタンテーニ帝ノ時代ニ至テ全ク之
ヲ廢セリ此刑ニ於テハ犯人カ兵器ヲ持シテ其身ヲ長ク維持シ
タルハ特ニ其罪ヲ免セリ

又苦役ノ刑ノ殘酷ナルコトハ犯人自カラ得タル所ノ利益ヲ沒收
スルニアリ奴隷ト雖モ自カラ得タル利益其主ヨリ受クルニ非
スヤ苦役ニ處セラレタル者ハ其主人ナシ國家モ亦其主人ニ非
ス則其者ハ罰ノ奴隷ニシテ罰カ則チ其主ナリ故ニ此罰ハ罰ニ
因テ奴隷ト爲ル者ヨリハ區別セサル可カラス例ヘハ自由ヲ得

タル奴隷カ元トノ主人ニ不敬ノ所爲アルキハ再ヒ奴隷ト爲スカ如シ

「ユスチニヤン」帝ハ自由民ニハ苦役ノ刑ヲ科スルコトヲ廢セリ
三 國民權ヲ失フノ刑

此刑ハ羅馬國法ニ依リテ得タル國民ノ一切ノ權利ヲ剝奪スルナリ例ヘハ戸主ノ權遺囑贈遺書ヲ作ル權ノ如シ併シ萬國公法ニ因テ得タル權利ハ剝奪セス婚姻ハ萬國公法ニ因テ結ビタル婚姻ト看做スカ如シ其他此刑ハ財産ヲ沒收セリ

① 終身道路其他公ノ建築ニ使役スル刑

② 水火ヲ與ヘサル刑 此刑ヲ廢シテ徒刑ヲ設ケタリ

③ 徒刑(終身荒蕪ノ地方又ハ島嶼ニ移遷セシム)此刑ヲ以テ前

項ノ刑ハ自カラ廢セラレタリ

「カピタール」ニ非サル刑

此刑ハ左ノ如シ

一 自由ヲ奪フ刑

① 地方ヲ限リ追放スル刑一定ノ地方例ヘハ郷邑又ハ州ヨリ追放シ又ハ一箇所ヲ定メテ住セシムルコト

② 期限ヲ定メテ公役ニ使用スル刑

③ 定役ニ服セサル禁錮此刑ノ内ニ最モ輕キモノハ私宅ニ錮スル刑「ユスチニヤン」帝「已來婦人」ニ限リ寺院ニ錮スルコトアリ終身禁錮ノ刑ハナシ禁錮ノ刑ハ専ハラ審問中ノ拘留ニ用フヘキモノナリ

二 身躰ノ刑

① 身躰ヲ毀傷スル刑「ウスチニヤン」帝ノ時代ニ至テハ一肢ヲ切ルノミニ換ヘタリ

② 身躰ヲ撻ツ刑此刑ニアリ笞杖、革條ヲ用ツテ笞ツナリ

三 名譽ヲ奪フ刑

此刑ハ屢々「カピタル」刑ノ附加刑トシテ用ユルモノナリ

① 烙印礦坑使役人又ハ動物又ハ劔ヲ持スル者ト闢ハシムル刑ニ附加セリ

② 死後ノ名譽ヲ奪フ刑 此刑ハ死刑ニ附加スル者ニシテ専ハテ皇帝ノ身躰ニ對スル重キ所犯ニ附加スルナリ

③ 名譽ヲ奪フ刑 此刑ハ主刑トシテ用フルコアリ又ハ附加刑トシテ用フルコアリ

④ 無給ノ官吏ト爲ルノ權ヲ失ハシムルコ又ハ代言人ト爲ルノ權ヲ失ハシメ又ハ營業ノ權ヲ失ハシムルコアリ

⑤ 裁判所ニ於テ譴責ヲ受クル刑

四 財産ノ刑

① 沒收 此刑ハ「カピタル」刑ニハ宣告ナクシテ附加スルナリ其他ノ刑ニ於テハ宣告シテ附加ス或ハ財産ノ全部ヲ沒收スルコアリ「カピタル」刑ニハ毎ニ全部ヲ沒收ス或ハ其一部ヲ沒收スルコアリ後來ハ相續人ノ爲メニ大ニ此刑ヲ減セリ

② 或ル物件ヲ沒收スルコ則チ犯罪ニ供シタル器具

③ 罰金(官命ニ背キタル片ノ罰金ト犯罪ニ因テ科スル罰金ト

アリ

羅馬法（羅馬ノ文字ニ於テ「インピプタビリテ」刑法上ノ

責任ト云フ意ナリ）

犯人ヲ罰スルニハ必ス其者カ其罰ヲ受クルニ堪ユル能力ヲ有セサル可カラス其能力ナキハ其者ノ所爲ヲ犯罪トス可カラス何トナレハ精神未タ成育セサルカ又ハ精神ノ缺乏シタルカ又ハ一時喪失スルカ爲メ正不正ヲ辨別スルヲ能ハス且罪ト爲ル可キヲ知ラサレハ其者ノ所爲又ハ其所爲ノ結果ニ付キ其責ヲ負ハシムルヲ得ス因テ刑法ヲ以テ之ヲ罰スルヲ得ス

以下ニハ刑法上ノ責任ノ理由ハ如何ナルモノカ又ハ如何ナルニ刑法上ノ責ヲ負フニ及ハサルカヲ考窮セン

年齢

七歳未満ノ幼者ハ罪ヲ犯スヲ能ハス又之ヲ罰スルヲ得ス何トナレハ此年齢ノ者ハ正不正ヲ辨別スルヲ能ハス且所爲ノ罰ス可キ者ナルヤ否ヲ知ルヲ能ハサレハナリ滿七歳以上十四歳以下ノ者ハ全く罰セサルヲ得ス辨別アリテ犯シタルヤ否ヲ明カニシタル後之ヲ罰スヘシ其辨別ハ犯罪ノ性質ニ從テ之ヲ詳知スヘシ故ニ裁判官ハ七歳ヨリ十四歳マテノ幼者ニ刑法上ノ責ヲ負ハシム可キヤ否ヲ判定スヘシ

未丁年者（十四歳以上）ハ別段ノ情況アルニ非サレハ其年齢ヲ酌量輕減スルヲ得ス恐クハ止タ疎虞解怠ノ時ニ限り有婦姦及ヒ和姦ノ如キハ酌量輕減ヲ得ス

老者

老者ハ所爲ノ責ヲ負フヘキ能力ハ失ハス止タ「シリヤーンズ」ノ時ニ發シタル法律ニ一ノ取除アルノミ

婦人

有夫ノ婦ハ所爲ノ責ヲ負フヘキ能力ヲ有セサル「ハ法律中ニ明文ナシト雖モ固ト婦人ハ卑弱ナルニ因テ或ル犯罪ニ於テハ男ヨリハ寛ナル刑ヲ受クヘキ情アリ故婦人ニ於テハ男ヨリハ惡意ノ度少ナシト看做セリ例ヘハ天帝ニ對スル不敬ノ罪親屬相姦有婦姦又ハ謀叛大逆ノ刑ヲ受ケタル者ノ女子ニ父ノ財産ノ一部ヲ所有セシムルノ類

精神病

裁判所ニ於テ着目スヘキ精神病ノ種類ヲ總稱スル者ヲ「フロール」ト云フ裁判官ハ病ノ輕重ヲ疹斷シ且其病人ノ全ク所爲ノ責ヲ負フヘキニ堪ユル能力ヲ失ヒタルヤ否ヲ判定スヘシ
精神病ニ罹リタル者ハ如何ナル犯罪タリトモ之ヲ罰ス可カラス何トナレハ刑法上ノ責ヲ負フヘキ能力ヲ失ヘハナリ併ナカラ精神病ノ中コロ全快スルキハ全快中ノ責ハ免カル、コヲ得ス聾啞者ハ羅馬法ニ於テハ別ニ刑法上ニ罪ヲ科スヘキ條ナシト雖モ精神病者ト同一ト看做スヘカラス此等ノ者ハ精神力ノ缺乏シタル者トスルノ明文アリ故ニ之ヲ罰スルキ輕ク罰スヘシ
感激ニ因テ精神ノ缺乏スル「羅馬ニ於テハ感激ノ文字ニハ愛情ト醉狂トヲ含蓄セルモノニシテ感激ニ因テ爲シタル所爲ハ思慮アル

モノニ非ス且疏忽ヨリ出タルモノナリ因テ惡意ヨリ出タル所爲ト
 同一ニ看做ス可カラス何トナレハ素ト其所爲ハ所爲ノ犯罪タルヤ
 否ヲ明カニ辨別スルヲ能ハサリシヨリ爲シタル者ナリ故ニ其所爲
 ヲ能ク辨別シ且其思慮ヲ盡シ爲シタル者ヨリハ全ク異ナレリ故ニ
 感激ニ因テ爲シタル所爲ハ過誤ト看做シ故意ニ出ツル所爲ヨリハ
 其罰ヲ輕クスヘシ併ナカラ共和政治ノ時代ニ於テハ故意ト感激ト
 ノ區別ヲ爲サス何トナレハ裁判官ハ止タ有罪無罪故意ト天災トヲ
 區別シテ裁判ヲ爲シ過誤ト感激トヲ酌量スルヲ禁シタリシナリ
 如此苛酷ナル裁判ハ永久止マスシテ修身學者ノ過誤タルヲ論ヲ
 始メタレトモ仍ホ止マサリシナリ止タ僅少ナル場合ニ於テ裁判官
 ハ正當ナル感激ニ因テ人ヲ殺シ且犯人ヨリ正當ナル理由アリテ殺

タルヲ證明シタルハ無罪放免ヲ言渡スヲ得タリ例ヘハ有夫
 姦ノ場合ニ本夫ノ怒ニ乘シテ直チニ姦夫ヲ殺シタルカ如シ併ナカ
 ラ「ストイケル」派ノ修身學及ヒ民法學ニ因テ過誤ノ説起リ過誤ヲ
 以テ故意ト天災トノ間ニ在ルモノトセシヨリ以來修身學科及ヒ法
 律學科ハ感激ニ因テ爲シタル所爲ハ天災又ハ故意ニ因テ起リタル
 モノトハセス則チ過誤ニ因ル者ナリト説ケリ

此説ヲ以テ古來ノ裁判法ヲ一時ニ破ルヲ能ハサリシナレト帝王ノ
 時代ニ至テハ感激ニ因テ犯シタル所爲ハ輕ク罰スルヲニ爲レリ

憤怒

「レッキスユリヤ」氏ノ發シタル法律ニ因テ有夫ノ婦姦通スルモ本
 夫是等ノ者ヲ殺スヲ禁シタレトモ若シ殺シタルハ之ヲ輕ク罰

セリ

醉狂

醉狂ハ感激條(過誤)ノ一例トシテ故意ヨリ區別シタル所アリ又兵卒ノ醉狂ニ因テ其看守スル所ノ囚人ヲ逃走セシムルモ之ヲ輕ク罰セリ併ナカラ醉狂人ヲ輕ク罰スルコトハ兵卒ニ限ラス其他者ニモ輕ク罰セシコトナラン

法律又ハ事實ヲ知ラサルカ爲メ其責ヲ免カル、コト

法律ヲ知ラサルコト

刑法及ヒ其他ノ法律ヲ知ラサルカ爲メ刑法上ノ罰ヲ免カル、コトヲ得ス況ヤ條理ヲ以テ罰スヘキ犯罪ニ於テハ決シテ其罰ヲ免カル、コトヲ得サレトモ成文律ヲ以テ設ケタル犯罪ニ於テハ或ル身分ノ者ニ

限リノ無學法律ヲ知ラサルカ爲メ其罰ヲ免カル、コトアリ一般ニ法律ハ知ラサル可カラサルコトノ明文ハ法律中ニ掲ケリ併カラ婦人及ヒ未丁年者及ヒ無學ノ者兵卒ハ或ル場合ニ限リ法律ヲ知ラサルヲ以テ罰ヲ免カル、コトアレトモ一般ニ此等ノ者ノ免罪トナルヘキ箇條ヲ設クルコトヲ得ス

一 婦人

① 「コル子—リウス」氏(大統領)ノ偽證ノ罰ハ婦人ノ得ヘキ贈遺物ヲ法律ニ背キ讓與人ノ指示シタルヨリ外ノ事ヲ遺言書ノ内ニ記載シタル婦人ニ偽證ノ罰ヲ免セリ

此法律ハ偽證ヲ防ク爲ニハ甚タ便益ナル者ニシテ嚴ニ此法律ヲ適用シタリ併シ此法律ヲ知ラスシテ犯シタル婦人ニハ此刑ヲ

免セリ

五百二十一

④ 婦人ハ一タヒ誣告シタル事件ヲ下戻スト雖モ罪ナシ婦人ハ法律ヲ知ラサルカ爲メ羅馬國法ニ定メタル親屬相姦ノ罰ヲ免カル、コヲ得併ナカラ萬國公法ニ於テ定メタル親屬相姦ハ免カル、コヲ得ス

二 未丁年者ハ左ノ場合ニ於テハ法律ヲ知ラサルカ爲メ其罰ヲ免カル、コヲ得

一 國境税法ニ背キタル罰

二 一タヒ誣告シタル事件ヲ下戻スモ罰ナシ

三 親屬相姦或ハ有夫姦等ノ罰

四 幼者ノ爲メニ後見人ヲ命スルコヲ怠リタル婦人ハ婦人ノ身分

ノ爲メ其罰ヲ免カル、コヲ得スト雖モ若シ其婦人ノ若年ニシテ法律ヲ知ラサルキハ罰ナシ

五 無學者ハ一種ノ身分ニ非ス其者ノ精神カ他ノ者ニ比スル發育ノ鈍ナルモノニシテ發育ヲ受ケス且粗暴ナルカ爲メ法律ヲ知ラサルニ因テ罰ヲ免カル、コアリ

六 兵卒ハ婦人未丁年者ト同ク一タヒ誣告シタル事件ヲ下戻スモ其罰ナシ其他罰ヲ免スルコナシ

事實ヲ知ラサル爲メ罪ヲ免カル、事
事實ノ錯誤ハ事實自カラ又ハ所爲ニ因テ起ル結果ニ付テアルモノナリ結果ニ付テノ錯誤ハ犯人其所爲ノ結果ノ害アルヘキコヲ前以テ知ルコト能ハサリシト推測シ得ヘキキニ限り其罪ヲ免スヘシ此所

爲ハ過誤ノ部分ニ入ルモノナリ併ナカラ事實ヲ知ラサレハ故意ヲ以テ罪ヲ犯ス可能ハサルノ事實ヲ知ラサルハ通常其責ヲ免カルヘシ例ヘハ法律ニ於テ事實ヲ知ル可キヲ犯罪ノ一部ト爲シ且之ヲ罰ノ要件ト爲シタルハ事實ヲ知ラサルニ因テ其罰ヲ免カル、カ如シ則親屬タルコトヲ知ラスシテ姦シタル後親屬タルコトヲ知りタルカ如キハ其罪ナキノ類又奴隸タルコトヲ知ラスシテ奴隸ト結婚シタル元老院議員ノ類又誤テ自己ノ所有物ト認メ他人ノ物ヲ取りタル者ハ竊盜ノ罪ヲ免カル、ノ類

「ブレトール」裁判長ノ命令ニ因テ左ノ如ク定メリ

盜贓物ハ犯人又ハ其相續人ノ手又ハ他人ノ手ニアルトモ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ取戻スヘシ贓物又ハ其物價ヲ被害者ノ求メニ從テ付

スルナリ他人ニ對シテハ止タ其物件ノミヲ取戻スコトヲ得ルナリ

期滿免除

羅馬ニ於テ共和政治ノ時世ニ於テハ刑ノ期滿免除ノアリシ徵證ナシ羅馬市街設立後六百九十一年ニ「ラビリユース」ナル犯人殺罪ノ爲メ訴ヘラレタルニ因リ「チ、ロ」氏カ辯護人ト爲リシコトアリ該犯罪ハ三十六年前ニ犯シタル罪ナリ羅馬ニ於テ始メテ刑ノ期滿免除ヲ掲ケタル法律ハ七百三十六年ニ發シタル「ユリヤ」氏大統ノ有夫領姦律ナリ此法律ニ因レハ姦通ノ罪ノ爲メニハ五年ノ期滿免除ヲ定メ（此期限ハ恐クハ古來ノ慣習ニ從テ五年間ヲ經レハ舊惡ヲ消滅スルノ趣意ニ基キタルモノナラン併ナカラ如此短キ期限ヲ以テ都テノ犯罪特ニ重キ犯罪ノ期滿免除ニ適用シタルモノニ非サルヘシ

則羅馬人ハ此限期ヲ増シタリ帝ノ時代ヨリ以來ハ廿年ノ期限ヲ定則トシ姦通及ヒ或ル二三有夫姦雜姦動物姦親屬姦ノ犯罪ノ爲メニハ五年ヲ變則ト定メタリ

羅馬ノ法律ニ期滿免除ト爲ラサル犯罪ニ付テハ種々說アリ「クヤチユース」氏「マテウス」氏「チバウト」氏獨乙「ホイエルパウ」氏等ノ人獨乙門弟ト共ニ期滿免除ト爲ラサル犯罪ナシト主張セリ此等ノ人ノ說ニ從ヘハ期滿免除ヲ掲ケサル箇條ハ止タ五年ノ期滿免除ノ期限ヲ掲タル所ノ反對ヲ示シタルナリ因テ五年ヨリハ長キ二十年又ハ「チバウト」氏ノ說ニ從ヘハ三十年ノ期滿免除ヲ定メタルモノナリト然レモ近來ノ著述家特ニ「ラントルホルツ子ル」氏「ライン」氏及ヒ「ガイブ」氏ハ親屬姦他人ノ子ヲ己レノ子ト冒認シ或ハ自分ノ子

ヲ他人ノ子ト冒認スル罪變宗ノ罪ハ期滿免除ヲ得スト主張セシナリ「ベル子ル」曰現ニ此等ノ犯罪ハ期滿免除ト爲ラサル「ノ明文アリ尤此三犯罪ヲ變則ト定ムルモ不當トセス則親屬相姦ヲ期滿免除ト爲サ、ル「コハ穩當ナラスヤ又タ子ヲ冒認スル罪ニ在テハ羅馬固有ノ相續ノ關係ニ於テ期滿免除ヲ爲スコカラサル「理由アリ變宗ノ罪ハ期限後四百二十六年ニテ「アドーシユース」及ヒ「ワートレンチニヤン」帝ニ因テ始メテ期滿免除ト爲ラサラシメタリ是レ恐クハ宗教ヲ尊敬シタル「ヨリ由來シタルモノナラン

一タヒ判決アリタル犯罪ニハ期滿免除ヲ免サス故ニ羅馬法ニ於テハ刑ノ執行ノ期滿免除ナルモノナシ併ナカラ「プリーニユース」氏ト「トラヤント」羅馬帝トノ間ニ往復シタル書簡ニ依レハ執行ノ期滿

免除ヲ免スノ法ヲ設ケント欲スルノ證憑アリ 以上ハ「ベル子ル」註釋ヨリ譯出ス

羅馬ノ期滿免除ノ字義ハ年數ヲ經レハ犯罪及ヒ其罰ノ消滅スルヲ云フナリ若シ法律ニ定メタル期限ヲ經過スレハ犯罪ハ消滅シ其結果ハ消盡シ刑法ヲ以テ再ヒ其所爲ヲ罰スルヲ得ス

刑ノ期滿免除期限ハ犯罪ヲ遂ケタルヨリ始ルヘシ其期限ハ中止スルヲナクシ經過スルナリ(之ヲ詳ニ言ヘハ犯人ニ對シ更ニ手續ヲ始メサルキハ經過スルナリ)其經過ハ訴ヲ爲スニ因テ中止シ若シ其手續ヲ經過セサルキハ新ニ訴ヲ爲スモ前審問ヲ爲スヘキキマテ已ニ經過シタル期限ヲ算入ス可カラズ

刑ヲ執行スルヲ能ハサル理由

一 犯人ノ死去

二 疾病

犯人ヲ罰ズルヲ能ハサル理由ノ内ノ一ハ犯人ノ死スルヲナリ共和政治ノ時代ニ於テハ治罪ノ手續ヲ始ムルト否トヲ問ハス判決ヲ下ス前ニ死シタル犯人ノ犯罪ハ全消滅セリ併ナカラ已ニ判決アリタル後死シタルキハ其判決ニ因テ財産ノ沒收スヘキモノハ之ヲ沒收スヘシ帝王ノ時代ニ至テモ亦同然ナレモ種々ノ制限アリ元來犯人ノ死スルキハ其刑ヲ執行スルヲ得ス但犯人ノ遺シタル財産ニ關スル分ハ執行スルヲ得ルノミ則チ罰金沒收ナリ犯人ノ死去ニ付テハ左ノ場合ヲ區別スヘシ

一 告訴アリタル後判決ヲ下ス前ニ死シタルキ公然ノ刑ニアツテ

ハ死シタル者ノ尙生存中ニ告訴セラレ且判決ヲ經タルハ非サ
レハ相續人ニ對シ罰金ノ刑ヲ科スルコトヲ得ス(謀叛大逆強盜ハ
此限ニ在ラス)其他ノ刑ニ於テハ生存中ニ判決ヲ受ケサレモ告
訴アリタルハ相續人ニ對シ罰金ヲ科スヘシ

二 公訴アリタル後ニ死シタル時「カピタール」刑ニ付テハ其刑ハ
犯人死スレハ直チニ消滅スヘシ其他ノ刑ニ付テハ控訴裁判ニ因
テ原判決ヲ認可シタルハ相續人ノ財産ニ及ホスコト犯人ノ生前
ト等シ

三 告訴アル前ニ死シタルハ此場合ニ於テハ死去人ノ財産ハ相續
人ニ轉移スヘシ何トナレハ本人死去スレハ公訴ヲ爲スコトヲ得サ
レハナリ併ナカラ謀叛大逆ハ死去シタル後ト雖モ公訴ヲ爲スコトヲ

得且生存中ニ手續ヲ始メタルハ之ヲ繼續スヘシ國王ノ名及ヒ
記年ニ對シ不散ヲ犯シタル罪ニ於テハ判決前ニ死シタルハ亦
同又逃亡シタル兵卒ノ財産ハ死去シタル後ト雖モ之ヲ沒收ス謀
叛大逆ノ罪ノ如シ又異教信仰者ノ財産モ亦沒收ス又權利ナクシ
テ得タル財産ハ政府出納局又ハ被害者ヨリ訴訟手續ヲ以テ之ヲ
請求ムルコトヲ得但其財産ニ因テ相續人ノ利益ヲ得タル分ニ限ル
ヘシ又偽造ノ罪ニ於テハ偽造人ノ死シタル後ト雖モ其偽造ヲ使
用シタル者ニ對シ告訴スルコトヲ得又國境稅則ニ背キタル罰ハ相
續人ニ及フヘシ

二 疾病

疾病ハ犯罪及ヒ其刑ヲ消滅セシメス止タ其執行ヲ停止スルノミ

懐胎ノ婦人ニ於ケルモ亦同シ

原告被告ノ間ニ私和スルニ因テハ止タ公然ニ非サル刑ノミヲ消滅スヘシ但原告人ヨリ被告人ニ利益ヲ得ルヘキ約束ヲ爲シテ私和シタルハ此限ニ在ラス

赦^{シクシ}

赦ハ犯人ノ爲メ管轄官署ヨリ刑法ヲ使用セサルコトヲ云フナリ赦ハ第一ニ判決ヲ下ス前ニ爲スコアリ第二ニハ判決ヲ下シタル後刑ヲ執行スル前ニ爲スコアリ第三ハ刑ヲ執行シタル後之ヲ停止スル爲メ爲スコアリ

共和政治ノ時代ニ於テハ治罪手續ヲ始メタル後ハ判決ヲ下ス前ニ於テハ赦ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ原告人ヨリ其訴ヲ下戻スレハ

之ニ因テ其訴ハ消滅シタレハ茲ニ屬セサルモノナリ

併カラ管轄官署ノ申立ニ因テ其判決言渡ヲ延引スルコトヲ得又治罪ノ手續ヲ始メタル後ハ被告人ノ逃亡シ潜匿^{寺門ニ}入^寺スルモ治罪ノ手續ヲ消滅スルコトヲ得ス但其手續ヲ延引スルノミ併ナカラ政論ノ合ハサルカ爲メ犯シタル國事犯ニアツテハ國家ノ安寧ヲ維持スルカ爲メ人民ト元老院ト協議シテ其犯罪ヲ不問ニ措キ且其共犯者ヲ罰セサルコトアリ如此大赦ノ令ハ屢々發セシコトアリ毎ニ大赦ハ審問ヲ始メサル前ニ行フモノナリ例ヘハ國王ヲ追放シタル後其從臣又ハ朋友ニ再度大赦ヲ爲セシコトアリ或ハ植民ニ大赦ヲ爲セシコトアリ又ハ兵士ニ大赦ヲ爲セシコトアリ

已ニ判決ヲ下シタルハ其刑ヲ執行スヘシ止タ其犯人ノ刑場ニ赴

ク途中ニ於テ偶々女僧ニ遭ヒタルハ其刑ヲ赦スコトアリ判決ヲ受ケタル犯人ノ寺門ニ潛伏スルハ之カ爲メ刑ノ執行ヲ停止スレモ全ク其罪ヲ消滅セス

已ニ刑ヲ執行シタルハ其刑ノ種類ニ因テ赦ヲ爲スコトヲ得則追放ノ刑ニ處セラル、ノ類是ナリ此場合ニ於テハ水火ヲ與ヘサル罰ニ處シタル人民ヨリシテ法律ヲ以テ其判決ヲ取消スコトヲ得如此追放ノ刑ヲ取消スコトヲ「レスチツチヲ」ト云フ此赦ヲ爲ス權ハ裁判所又ハ元老院ニ委子ス人民獨リ此權ヲ有セリ「コリヤーグス」氏曰人民ニ於テハ追放ノ刑ヲ受ケタル者ヲ赦セントスレモ裁判所又ハ元老院ハ其申立ヲ爲スコトヲ欲セスト云ヘリ

共和政治ノ時代内亂ノ際ニ當リ屢々追放ノ者ヲ赦セシ例アリ其赦

ハ人民ヨリシテ爲セシニ非スシテ當時權力ヲ有セシ主持者ノ專斷ヲ以テ已レノ黨派ヲ集メンカ爲メ爲セシモノナリ然ノミナラス更ニ人民ノ意見ヲ問フコトナク赦ヲ爲セシコトアリ其理由ハ權力ヲ有スル者ノ復歸スルハ人民ヨリハ故障ヲ申立サランコトヲ慮リテヨリ爲セシナリ「マールリユース」或ハ「スーラ」或ハ「チエーツアール」等ノ專斷ニ因リ裁判所ノ權力及ヒ國家ノ秩序ノ濫シタルヲ歎息スル者多シ

特赦

法律ヲ以テ刑ヲ赦セラレタル者ハ羅馬國民タルノ權ヲ回復スルナリ則元老議官タリシ者ナルハ其官ヲ回復シ全ク無罪消滅ト看做スモノナリ如此一切ノ權利ヲ回復スルコトハ「レスチツチヲ」ノ字義

ニ包括セリ又赦ニ逢ヒタル者ハ高官ハ選任セラレシ例アリ若シ追放者ノ財産上ノ損害ヲ受ケタルハ其罪ヲ赦スル法律中ニ損害ヲ賠償スヘキ方法ヲ定メタリ

帝政ノ時代ニ於テハ

第一 未タ判決ヲ下サ、ル前ニ其審問ヲ廢棄セシムル赦アリ然レ

ニ共和政治ノ時代ニ於テハ被告人ヲ赦スルコトヲ得シテ止タ判決ヲ延引スルコトノミヲ得タレニ帝政ノ時代ニ至テハ帝王ヨリ審問ヲ廢棄セシムルコトヲ赦ト看做セリ何トナレハ審問ヲ廢棄セシムルコトハ期限ヲ限リタルコトニ非ス永久ナルモノナレハ故ニ帝ヨリシテ其審問ヲ廢棄スヘキカ又ハ公訴ヲ爲スヘカラサルノ命ヲ下シタル時ハ其犯罪消滅ス如此帝王ノ裁判ニ立入ルコトヲ之ヲ

「インテルチエシヨ」ト云フ

第二 判決ヲ受ケタル者ノ赦

一 刑ヲ執行スル前ノ赦

帝ハ赦ヲ爲シ及ヒ判決ヲ消滅又ハ減輕スル權アリ

二 刑ヲ執行シタル後ノ赦

此赦ハ共和政治ノ時代ノ「レスチツチヲ」ニ同シ且其名稱ヲ「レスチツチヲ」トス帝ハ屢々先代ノ暴君ヨリ追放シタル者ヲ復歸セシムルノ例アリ

帝ハ此「レスチツチヲ」又ハ赦ヲ爲スノ特權アリ或ハ元老院ノ意見ヲ聞テ爲スコアリ又元老院ニテ帝ノ命ヲ受ケテ自カラ爲スコアリ又ハ元老院ニテ自ラ裁判ヲ爲シタルハ自カラ赦ヲ爲スコアリ併ナ

カラ裁判官ハ此權ヲ有セス
 赦ヲ受ケタル者ノ權利ハ帝自カラ之ヲ定ムヘシ或ハ一切ノ權利官
 職又ハ全ク財産ヲ回復セシムルコトアル或ハ其一部ノミヲ回復セシ
 ムルコトアリ共和政治ノ時代ノ如ク一切ノ權利ヲ回復セシムルノ例
 アリ併ナカラ財産ヲ回復セシメタルノ例ハ甚タ稀ナリ何トナレハ
 政府ハ沒收シタル財産ヲ賣買シタル由之ヲ取消ス可甚タ難ケレハ
 ナリ故ニ權利ノ回復ト財産ノ回復トヲ區別シタル例アリ
 權利ノ回復ニ付テハ赦ヲ受ケタル者ハ國法上ノ一切ノ權利ヲ得ル
 ナリ則チ戸主タルノ權利ヲモ回復シタル例アリ併ナカラ原告タル
 帝ト戸主タルノ權ヲ回復スルニハ明カニ其事ヲ記載スヘキノ例ア
 リ此說ハ「コンスタンチン」帝ニ至テ全ク廢セラレ「ユスチニヤン」

帝ノ時代ニ至テモ戸主タルノ權ハ赦ニ因テ再ヒ回復スル說ニ止マ
 レリ

特赦ハ一切ノ權利ヲ回復スレモ犯罪ノ種類ヲ限り又ハ犯人一般ニ
 與ヘタル大赦ハ一切ノ權利ヲ回復セス大赦ハ帝王ノ即位又ハ皇誕
 日其他ノ祝日ニ爲スモノナリ併ナカラ通常大赦ハ重犯人ニハ之ヲ
 與ヘス又其者ノ刑ハ消滅スレモ其者ノ名譽ハ回復セス

加減例

一加重

加重トハ法律ニ掲クル刑ヨリハ重キ刑ヲ科スルコトヲ云フ裁判官ハ
 犯罪ヲ處斷スルニ當リ或ル事由ニ由リ罰ヲ加重スルコトヲ得ルナリ
 然レモ加重スヘキ事由ヲ定メタル通則ナルモノナシ

加重スヘキ事由ハ左ノ場合ニ限ルヘシ

- 一 或ル犯罪ノ再犯(例ヘハ一揆徒黨兵卒ノ逃亡シタル奴隸ヲ使
用シタ罪自由ヲ得タル奴隸ノ原主人ニ對シ不敬ヲ爲スル)
- 二 尊敬スヘキ人ニ對シ犯シタル罪(例ヘハ親屬間ノ謀殺自由ヲ
得タル奴隸ノ原主人ヲ謀殺又ハ親屬間及ヒ自由ヲ得タル奴隸ノ
原主人ニ對スル其他人殺傷)
- 三 手ヲ出シテ人ヲ侮辱スル
- 四 或ル犯罪ノ増加スルニ從ヒ政畧上ヨリ其罪ヲ加重スル

減輕

帝王政治以前ハ裁判官ハ法律ニ定メタル刑ヲ減輕スルヲ得ス帝
政ノ時代ニ至テ輕減スルノ事由ヲ定メタリ左ノ如シ

一 犯人ノ刑法上ノ責任ノ減シタル

- Ⓐ 奮怒又ハ醉狂ニ因テ知覺精神ヲ喪失シタル
- Ⓑ 婦人及ヒ未丁年者ハ法律ヲ知ラサルカ爲メ或ル犯罪ヲ輕減
スル

- Ⓒ 七歳以上十四歳未滿ノ者及ヒ未丁年者ノ告訴ヲ受ケタル
(七歳未滿ノ幼者ハ全ク刑法上ノ責任ヲ有セス故ニ其罪ヲ免
ス七歳以上十四歳未滿ノ者ハ全ク刑法上ノ責任ヲ有セサルニ
非ス惡意ヲ以テ罪ヲ犯スヘキ能力ヲ有セサルハ其罪ヲ免ス
未丁年者ハ或ル疏慮懈怠ノ罪ニ於テハ其罪ヲ減シ又ハ免スル
ヲアリ併ナカラ鷄姦有夫姦動物姦其他故意ニ因ル犯罪ニ在テ
ハ減免セス)

二 刑ニ等シキ苦楚ハ(審問中ノ拘)時トシテ減輕ノ事由ト爲ルヘシ此場合ニ於テハ裁判官ハ法律ニ定メタル刑ノ全部ヲ科ス可カラス犯人ハ已ニ受ケタル苦楚ノ爲メ減輕ヲ得ルナリ

三 犯人ノ親屬ヨリシテ其犯罪ヲ補助シタルキハ或ル犯罪ニ限り減輕スルコアリ

四 過誤 過誤ハ減輕ノ事由トハ看做スコヲ得ス過誤ノ罰ノ輕キ所以ハ過誤ノ所犯ト故意ノ所犯トヲ同一ニ處スルコヲ得サレハナリ故ニ過誤ハ別種類ノ犯罪ニシテ法律上特別ノ罰ヲ定メリ因テ其罰ハ裁判官ヨリ減輕シタル罰ト看做スヘカラス

數罪俱發

數罪俱發トハ一人ニシテ二罪以上ヲ犯スコヲ云フ則之ニ二種アリ

其一種ハ數箇ノ所爲ニ因テ數箇ノ法律ヲ犯ス者ヲ云フ之ヲ所爲上マテリノ俱發ア―レコンクレンツト云フ其二種ハ一箇ノ所爲ニ因テ數度法律ヲ犯ス者ヲ云フ法律上ノ俱ホルマ―ンコンクレンツト云フ

「ヘル子ル氏」論 (第一種) 近來數箇ノ所爲ニ因テ數種ノ法律ヲ犯ス者ト同法律ヲ數度犯ス者トヲ區別シ又此區別ヨリ繼續犯罪ト度回犯罪トヲ區別セリト雖モ羅馬法ニ於テハ如此區別ナシ例ヘハ度回犯罪トハ盜犯ニシテ同物ヲ兩度盜シタル場合ヲ云フ併ナカラ其間ニ一タヒ所有主ノ手ニ還リタル物ニ限ルヘシ繼續犯罪トハ贓物ヲ他ノ盜犯ニ盜マレ再ヒ之ヲ取還ス場合ヲ云フ數回犯罪ハ二度之ヲ罰スヘシ繼續犯罪ハ止タ一度之ヲ罰スヘシ往古ノ時代ニ於テ人民自カラ裁判ヲ爲シタルトニ當リ數罪ヲ同時ニ裁判シ且合算シテ

刑ヲ科シタルニ後世ニ至テハ犯罪毎トニ任命セラレタル裁判官法律ニ定メタル犯罪(法律ニ定メタル犯罪ヲ裁判スルノ權ナシ)ノ裁判ヲ爲シタル故ニ各犯罪毎トニ裁判ヲ爲シタルハ其刑モ合算シテ之ヲ科スルコトヲ得ス素犯罪ハ其法律ニ因テ罰スヘキ者ニシテ裁判官ハ止タ已レノ權限内ノ犯罪ヲ裁判シ得レハナリ併ナカラ元老院ノ權限ハ法律ニ因テ定メサレハ數箇ノ犯罪ヲ同時ニ裁判スルコトヲ得

帝政ノ時代ニ至テハ數箇ノ犯罪ヲ同時ニ裁判スルコトヲ得又各別ニ之ヲ裁判スルコトヲ得各別ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ犯罪毎トニ其罰ヲ科シ同時ニ爲ス場合ニ於テハ各犯罪ヲ合算シテ其罰ヲ科ス併ナカラ犯罪ニ因テハ其罰ヲ合算スルコト能ハサル場合アレハ止タ其

罰ヲ加重スルニ止マルコトアリ例ヘハ謀殺暴行ノ場合ノ如シ帝政ノ末世ニ至テハ重キニ因テ處斷スルノ慣習法アリ(何レノ犯罪ニ於テモ重キニ從テ處斷スルノ意ニ非ス)此法ハ實際之ヲ用ヒサルコトヲ得サル場合アレニ(例ヘハ二度死刑ニ處シ又ハ死刑ト徒刑トニ處スルルノ如シ)羅馬法ノ原則ニ於テハ之ヲ用ユ可カラサルモノトス羅馬ノ原則ハ則チ犯罪ノアル毎トニ刑ニ處スルナリ
一所爲ヲ以テ數箇ノ法律ニ觸(有夫姦ト強姦トノ類)ル、ルハ各犯罪ヲ各別ニ罰スルコトヲ得恰モ所爲上ノ俱發ニ於ケルカ如シ

數人共犯

正犯從犯通則

一人ニテ罪ヲ犯スコトアリ又ハ數人ノ輔助ヲ得テ犯スコトアリ最初ノ

場合ニ於テハ正犯ノミヲ罰シ終リノ場合ニ於テハ輔助人モ亦罰セラ
 ルヘシ(終リノ場合ノ正犯從犯)正犯及ヒ從犯ヲ罰スル總則ハ羅馬
 法ニナシ各犯罪ノ條ニ其罰ヲ定メリ又犯罪中正犯ト從犯ヲ同等ノ
 刑ニ處スルコト多シ其所以ハ羅馬法ハ追々進歩スルニ從テ犯罪ヨリ
 ハ專ラ狂人ノ心術ニ着目スルヨリ來ルコトナラン從犯ト雖モ正犯ト同
 シキ惡意ヲ有スルトハ(從犯ノ惡意ハ確固ナル證據アルコトヲ要ス)以
 上ノ趣意ニ因リ同一ノ刑ニ處ス勿論正犯ノ所爲ノ惡意ニ出ツルコ
 トヲ知ラサルトハ從犯ノ刑ニ處セス併ナカラ此原則心術ハ一般ニ行
 ハル、モノニ非ザレハ明カニ法律ニ掲クルトニ非ザレハ正犯從犯
 ヲ同刑ニ處スルコトヲ得ス正從犯ヲ同刑ニ處シタル例ハ共和政未代
 ノ法律及ヒ法律注解ニ見ヘタリ(往古ノ法律トヘルコトアリ十二版法ニハ更ニ正

犯從犯ノコトヲ掲ケス)

正犯

正犯トハ己レ一人又ハ他ノ正犯ト共ニ又ハ從犯ト共ニ罪ヲ犯シタ
 ル者ヲ云フナリ

正犯ハ種々ノ方法ヲ以テ他人ニ罪ヲ犯サシムルコトアリ

- 一 命令及ヒ脅迫ニ因テ他人ニ教唆スルコトアリ命令ヲ受クル者ト
 教唆スル者トノ關係ニ於テ其命令ヲ拒ムコト能ハサル者ハ止々教
 唆シタル者ノミヲ刑ニ處スヘシ
- 奴隸及ヒ男子ハ如何ナル場合ニ於テモ必ス主人又ハ父ノ命令ニ
 從フヘシトス可カラス就中重犯ニ於テハ命令シタル者モ命令ヲ
 受ケタル者モ共ニ罰スヘシ何トナレハ奴隸及ヒ男子ハ主人又ハ

父ノ命令ノ匪法ナルヤ否ヲ熟慮スヘケレハナリ其正犯從犯ニ付テハ宜シク罪ノ輕重ヲ區別スヘシ例ヘハ竊盜ノ如キ輕キ罪ニ於テハ主人ノ命ヲ奉シタル奴隸ハ罰セス止タ主人ノミヲ罰スヘシ又主人ノ命ニ因テ他人ニ暴行ヲ加ヘタルモ亦同シ然レモ謀殺ノ如キ重キ罪ニ於テハ主人モ奴隸モ共ニ罰スヘシ罪ヲ犯サンコトヲ命シタル者ノ常ニ命令ヲ爲スノ權ヲ有セサルモ其命令ヲ受ケタル者ハ正犯トシテ之ヲ罰スヘシ何トナレハ其命ニ從ヘハナリ又命令ヲ爲シタル者モ教唆者トシテ之ヲ罰スヘシ

二 依頼ニ因テ罪ヲ犯サシムルコトアリ

(民法ニ言フ所ノ依頼ト云フ者ハ通常ノ事務ヲ依頼スルモノニシテ全ク此所ノ依頼トハ異ナリ)謀殺ニ於テハ依頼人モ依頼ヲ受

ケタル者モ同一ノ刑ニ處スヘシ又他人ヲシテ治罪ノ手續ヲ延引セシメ又ハ對手人ノ公廷ニ出席スルコトヲ妨害セシムル者ハ其刑ニ處スヘシ依頼ヲ受ケタルヨリ以外ノ罪ヲ犯シタル者ハ獨リ其刑ニ處セララルヘシ

犯罪ヲ善シトシテ犯サシメタル者モ依頼シタル者ト同ク罰スヘシ犯罪ヲ善トスルトハ犯罪ノ術ヲ善トスルモ又ハ已ニ犯シタル犯罪ヲ善トスルモ亦含蓄セリ

三 願望或ハ勸誘或ハ助言ニ因テ他人ニ罪ヲ犯サシメタル教唆者ハ正犯ト同一ニ看做スコト多シ但此等ノ者ハ必ス惡意ヲ有スルコトヲ要ス(止タ助言シタルノミニシテ犯罪ヲ勸メサルモノハ罰ナシ)

從犯

犯罪前及ヒ犯罪中又ハ犯罪ノ後ニ正犯ヲ輔助スル者ヲ從犯ト云フ
 從犯ハ止タ僅少ノ輔助ヲ爲スノミナラス正犯同様ニ犯罪ニ加ハル
 ヲ要ス併ナカラ法律ニハ從犯ニ係ハル通則ナケレハ從犯ヲ罰
 スヘキ正條ナケレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス人ヲ畧賣シ「ニル」川ノ堤
 防ヲ崩壞シ或ハ 術ヲ行ヒタル罪ハ從犯ノ罰ヲ揭クルカ如シ又從
 犯ハ場合ニ因リ正犯ト同刑ニ處スルコトアリ則謀叛大逆ノ類犯人ヲ
 藏匿シ贓物ヲ隱匿シ及ヒ贓物ヲ贖賣シテ正犯ヲ輔助スル者モ亦從
 犯トシテ罰スヘシ此從犯モ亦正犯ト同刑ニ處セラル、コトアリ則竊
 盜ノ從犯ノ如シ

未遂犯

犯罪ノ結果ヲ遂ケタル者ト遂ケサル者トアリ遂ケサル者ヲ近來ノ
 法律家ハ之ヲ未遂犯ト稱セリ惡意ヲ以テ罪ヲ犯セトモ未タ結果ヲ
 遂ケサル所爲ト爲シタリ故ニ未遂犯ハ所爲ヲ始メテ中止シタル者
 又ハ未タ其所爲ヲ終ラス止タ始メタル罪ナリ近來ノ法律ニ於テハ
 如此結果ヲ遂ケサル犯罪ヲ罪スレモ羅馬法ノ原則ニハ戻レリ羅馬
 法ニ於テハ往古ハ未遂犯罪ヲ罰セス公然ニ非サル刑告訴ヲ待テニ
 處スヘキ犯罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルコトヲ得ス何トナレハ其結果ヲ
 生セサレハ罰ヲ科スルコトヲ得サレハナリ(損害ナケレハ賠償ナシ
 ノ語アリ)公然ノ刑ニ處スヘキ罪ノ未遂犯ニ於テモ恐クハ之ヲ罰
 セサルヘシ何トナレハ往古ノ時代ニ於テハ犯人ノ心術ヲ探索セス
 シテ專ハラ其所爲ニ注目スレハナリ又古書ニモ未遂犯ヲ罰スル箇

條ヲ掲ケサレハナリ十二版ノ時代ニ於テハ犯人ノ心術ニ着目シテ刑ヲ科スルニ至リタレトモ仍ホ其所爲ニ因テ罰ヲ科スルヲ原則トセリ十二版以來人民自ラ裁判ヲ爲シ或ハ演說ノ効力及ヒ民法ノ完備スルニ從テ次第ニ犯人ノ心術ニ着目シテ罰ヲ科スルニ至レリ而シテ犯罪ヲ以テ犯人ノ心術ニ關セサル事實トセス心術ノ外ニ形ハレタル者ト爲シ從テ所爲ヲ罰セス惡意ヲ罰スルニ至リ假令結果ヲ遂ケサルモ仍ホ之ヲ罰シタリ十二版ノ法律ニ因レハ謀殺ハ其結果ヲ遂ケサレハ謀殺トシテ罰セス未遂謀殺ハ止タ身軀損傷ノ罰ニ處シタリ然レモ人民ノ自カラ裁判スルニ至テハ謀殺ノ結果ヲ遂クルト遂ケサルトニ拘ハラヌ謀殺ノ刑ニ處スルノ慣習ヲ生シタリ又謀叛大逆及ヒ其他ノ公然ノ刑ニ處スル犯罪ノ爲メニ別ニ法律ヲ發

シテ未遂犯ヲ已遂ノ本刑ニ處スルコトヲ定メタリ就中「コル子ル」氏ノ法律ハ犯人ノ心術ニ因テ罰スルノ趣意明カナリ例ヘハ「コル子ル」氏ノ暗殺律ニ於テハ暗殺ノ目的ヲ以テ兵器ヲ携フル者モ亦暗殺ノ刑ニ處セルカ如シ此時代ニ於テハ犯罪ヲ罪スルカ爲メ主トシテ着目スヘキモノハ惡意ニシテ其結果ハ止タ客ト看做スヘキコトヲ原則トシタレトモ之レカ爲メ未遂犯ノ主義一定シ又ハ之ヲ罰スル法律一定シタリトモ可カラヌ止タ或ル犯罪ノ危害多キカ爲メニ法律ヲ設ケテ特ニ已ニ遂ケタルモノト同一ノ刑ニ處セシメタルニ過キス故ニ未遂犯ハ特ニ之ヲ罰スヘキ法律アルニ非サレハ之ヲ罰スルコトヲ得ヌ又此時代ニ於テハ未遂犯ヲ一種ノ犯罪トハ看做サス結果ヲ遂ケタル犯罪ト看做シタルナリ而シテ法律ニ掲ケタル犯罪ハ其結

果ヲ遂ケタルト遂ケサルトニ拘ハラズ皆已ニ遂ケタル犯罪ト看做シ更ニ其間ニ區別セス羅馬ニ於テハ未遂犯ノ字義ハ已遂犯ニ對スルノ實語ニ非スシテ止々目的ヲ遂ケサルノ意ナリ

悔悟ニ因テ其罰ヲ免カル、コヲ得ス尤モ法律ニ於テ其所爲ヲ犯罪トシテ罰シタルキニ限ルナリ併ナカラ法律ニ掲ケタル犯罪ヲ遂ケサル間ニ悔悟シテ其所爲ヲ中止シタル場合ニハ之ヲ罰セス

未遂犯ニハ輕重ナシ何トナレハ未遂犯ノ主義未タ定マラサレバナリ併ナカラ實際未遂犯ニハ輕重アリト雖モ時トシテハ輕キ者ヲ重ク罰シ重キ者ヲ輕ク罰スルコトアルヘシ

茲ニ犯罪ヲ列記シテ未遂犯ヲ已遂犯ノ刑ト同一ニ處スヘキモノト已遂犯ヨリハ輕キ刑ニ處スヘキモノトヲ示サン

一 公然ノ刑ニ處スヘキ犯罪

「コル子ール」氏ノ暗殺律ニ因レハ未遂犯ハ其惡意ノ明カナルキハ已遂犯ト同一ノ刑ニ處ス又親屬間ノ謀殺ニ於ケルモ亦同シ謀叛大逆ニ於テモ亦未遂犯ヲ已遂犯ノ刑ニ處シタリ強盜ノ未遂犯ノ罰ナシ併ナカラ「ユリヤ」氏ノ法律ニ因レハ暴行ノ罰アリテ其未遂犯ハ一種ノ已遂犯トシテ罰シタルナリ又略賣ハ「ハビヤ」氏ノ法律ニ從ヒ詐欺偽證ハ「コル子ール」氏ノ法律ニ從ヒ未遂犯ノ罰ニ處シタリ

二 公然ニ非サル刑ニ處スヘキ犯罪

元來損害ノ償ハ損害ノ爲メニ之ヲ爲ス可キ者ナルニ因テ損害ヲ惹起サ、レハ其罰ヲ科スルコトヲ得ス併ナカラ此事ハ羅馬法一般

ニ行ハルノ原則ニ非サレ_レ公然ニ非サル刑ノ犯罪ノ性質ニ因テ考フレハ斯クアルヘキコナリ例ヘハ止タ讒毀未遂犯ノ爲メニハ公然ニ非サル刑ニ處スルコトヲ得ス何トナレハ未タ損害ヲ加ヘサレハ之ヲ賠償スヘキ義務ノ生セサレハナリ併ナカラ已遂ノ讒毀ハ勿論刑ニ處セラルヘシ竊盜ノ未遂犯ハ「ユスチニヤン」帝以來之ヲ罰シタリ

三 法律ニ定メサル刑ニ處スヘキ犯罪

此未遂犯ニ於ケルモ羅馬法ニ於テ一般ニ行ハル、原則ナシ純粹ノ未遂犯ニシテ法律ニ觸ル、モノハ其刑ニ處(其已遂犯ヨリハ異ル刑ニ)スルコトアリ此時ハ之ヲ已遂犯トシテ罰スルナリ或ハ已遂犯トシテ罰セサルコトモアリ場合ニ因テ之ヲ定ムヘシ

又ハ未遂犯ヲ輕蔑ノ刑ニ處シ法律ノ缺典ヲ補フコトアリ然ル_レ其ハ之ヲ既遂犯トシテ罰スルナリ例ヘハ竊盜ノ目的ヲ以テ人ノ家屋内ニ潛伏スル者ハ其性質ハ未遂竊盜ナレ_レ已遂輕蔑犯トシテ罰スルコトアルカ如シ或ハ他人ノ所有物ヲ匪法ニ現有スル者モ亦同シ

群獸ヲ_{羊ノ}類ノ盜ムニ未遂犯ナシ又法律ニ定メタル公然ニ非サル刑

ニ處スヘキ犯罪ノ未遂犯ナシ

防護ノ爲メ他人ノ權利ヲ害スルコト及ヒ止ムヲ得サル場合

防護ノ爲メニ他人ノ權利ヲ害スルモ之ヲ匪法ノ所爲ト爲スコトヲ得ス太古ノ羅馬法ニ從ヘハ匪法ノ抗擊ニ對シテ已レヲ防護シ腕力ヲ以テ腕力ニ抗擊シ得ルハ自然ノ道理トセリ(自分ヲ防護スヘキ義

務ナリ)又國家相互ノ交際ニ於ケルモ各箇人ノ交際ニ於ケルカ如シ國家ノ敵ハ自其權利ヲ失ヒ他ヨリ敵トシテ看做サル、ナリ併ナカラ秩序アル國家タルモノニ於テハ自身ヲ防護スルヲ爲サシム可カラス己レヲ防護シ或ハ己ムヲ得サル場合ニ於テ他人ノ權利ヲ害スルコトハ非常ノ事ニシテ止タ被害者國家ノ輔翼ヲ得ルコトナリ且他人ノ權利ヲ破ルヨリハ他ニ避クル方法ナキハ限リタルナリ己レヲ防護スルニ付キ其度ヲ越ヘサラシメンカ爲メニ左ノ制限アリ

一 現ニ腕力ヲ以テ抗撃セラル、ニ非サレハ腕力ヲ以テ防護スルコトヲ得ス例ヘハ竊盜ニ對シテ腕力ヲ用ヒントスルニハ竊盜ニ抗撃ヲ受ケタルハ限ルヘシ又他人ノ腕力ハ匪法ニ出タルモノニ

限ルヘシ則官署ノ所分ニ對シテハ之ニ抗抵ス可カラス

二 他人ノ腕力ニ對シ抗抵スルハ未タ其腕力ヲ果サ、ル者ニ限ルヘシ又未タ腕力ヲ用ヒサル者ニ用フ可カラス何トナレハ過去又ハ未來ノ腕力ニ對シ己レヲ防護スルノ權ヲ生セサレハナリ若シ過去ノ腕力ニ對シ腕力ヲ用フルハ己ヲ防禦スルノ性質ヲ失ヒ復讐ノ性質ヲ得ルナリ而シテ復讐ハ羅馬法ニ於テ嚴禁セリ又恐怖ノ爲メ己ヲ防護スルノ權ナシ則チ未來ノ防護ナリ

三 防禦ハ抗撃ト度ヲ同フス可シ之ヲ詳言スレハ己レヲ防禦スルニ必用ナル度ヲ越ユ可カラス故ニ防禦ハ抗撃ヨリハ強カル可カラス更ニ之ヲ詳言スレハ防禦ノ度ハ危害ノ度ニ從テ之ヲ定ムヘシ例ヘハ抗撃ヲ受ケタル者他ノ方法ヲ以テ己レヲ扶クル能ハサ

ルハニ限り抗撃者ヲ殺スコヲ得ルカ如シ謀殺人強盜犯ノ生命ヲ害セントスルハ固ヨリ之ヲ殺スコヲ得竊盜ハ十二版法ニ從ヘハ夜中ニ忍入りタル盜犯ニ對シ戸主ヨリ之ヲ殺スコヲ得(危害ナル抗撃ヲ受ケタルハニ限ル)白晝ニ忍入りタル盜ニ對シテハ兇器ヲ持シテ抗撃シタルハニ限り之ヲ殺スコヲ得帝政ノ時代ニ至テハ夜中ニ忍入りタル盜ト雖モ兇器ヲ持シテ抗撃セラル、ニ非サレハ之ヲ殺スコヲ得ストセリ白晝ノ盜犯ニ關シテハ十二版法ニ從フヘシ

防護ノ爲メ人ヲ殺シタル者ハ生命ヲ助クルカ爲メ已ムコトヲ得ス殺シタルコトヲ證明スヘシ若シ證明スルコト能ハスシテ故意ニ盜犯ヲ殺シタルハ「ゴル子リ」氏律ニ從テ謀殺ノ刑ニ處セラルヘ

シ又ハ「アクウイリ」氏律ニ從テ損害賠償ヲ爲スヘシ之レニ因テ觀レハ生命ヲ抗撃スレハ生命ヲ以テ之ヲ防護シ兇器ヲ以テ抗撃スレハ兇器ヲ以テ之ニ報ヒ腕力ヲ以テスレハ腕力ヲ以テ之ニ報フルナリ(四ニ掲クル制限ヲ免カレス)併ナカラ他ノ關係ナキ他人ヲ傷害スルコトヲ得ス

四 防護ハ止タ身軀生命ヲ防護スルノミナラス又健康及ヒ貞操ヲ防護スル爲メニ之ヲ爲スコトヲ得則鷄姦セントスル者又ハ少女ヲ畧誘セントスル者ハ之ヲ殺スモ其罪ナシ又防護ハ財産ヲ防護スル爲メニ之ヲ爲スコトヲ得例ヘハ竊盜ヨリ腕力ヲ以テ財産ヲ掠奪セラレ又ハ逃亡スル竊盜ヲ即坐ニ捕縛シ或ハ贓物ヲ取還スルハ之ヲ爲スコトヲ得又他人ヲ防護スル爲メニ爲スコトヲ得ルヤ否ニ付

テハ防護スル者ト防護ヲ受クル者トノ間ニ尊愛又ハ從順ノ義務アル者ハ之ヲ爲スコトヲ得例ヘハ親子兄弟姉妹相互ノ關係ニ於ケルカ如シ又ハ兵卒ノ司令官ニ於ケル奴隸ノ主人ニ於ケル防禦ノ如シ
已ムヲ得サル場合ニ於ケル防護

已ムヲ得サル場合ニ於テ已レノ權利ヲ防護スル爲メ他人ノ權利ヲ害スルモ之ヲ犯罪ト爲スコカラス例ヘハ火災ノ際自宅ヲ救フ爲メニ隣家ヲ毀ツコトヲ得ルカ如シ又ハ激烈ノ波濤ニ遭ヒ己レノ船ヲ救フ爲メニ他船ノ錨繩ヲ切ルコトヲ得ルカ如シ及ヒ積荷ヲ海中ニ投スルコトヲ得ルカ如シ

有夫姦ノ犯人ヲ其父ヨリ又ハ姦婦ノ夫ヨリ之ヲ殺スモ法律ニ於テ罰スルコトナシ之ヲ罰スルコトハ復仇及ヒ往古ノ家屬裁判ノ主義ニ基

キタルナリ則有夫姦ノ犯人ト共ニ父其女ヲ殺スハ防護ノ意ニ非ス何トナレハ父タル者ハ腕力又ハ危害ヲ受ケス止タ父タルノ權ヲ以テ家屬ノ裁判ヲ爲シタルナリ本夫ノ姦夫ヲ殺スコトヲ得ルハ亦家屬裁判權ニ因ルナリ

惡意

惡意ト云フ字義ハ之ヲ廣ク解ケハ義心ニ出サル者ヲ一切含蓄セリ則匪法ナルコト疏虞懈怠權利ヲ害スルコト等ヲ云フ者ニシテ犯人ノ心術及ヒ其所爲ヲ含ムモノナリ(此字義ノ原因ハ善心惡心ヲ問ハス惑ヒト云フコトナリ)羅馬法ノ惡意ノ字義ハ狹ク解釋ヲ爲シタルモノニシテ止タ民法上ノ損害ノミ含マシメタリ

民法上ノ惡意ハ專ラ所爲ニ關シテ云フモノナリ何トナレハ民法ニ

於テハ所爲ノ爲メニ生シタル損害ノ賠償ヲ定ムルモノナレハナリ
 故ニ民法ニ於テハ一ノ所爲ヲ以テ他人ニ損害ヲ加ヘシメタルハ
 非サレハ惡意ノ字義ヲ用フルコトナシ而シテ民法ニ於ケル惡意ハ故
 サラニ他人ヲ惑亂セシメ又ハ詐術ヲ以テ他人ヲ惑ハシテ他人ニ損
 害ヲ加ヘシムル所爲ヲ云フナリ併ナカラ刑法ニ於ケル惡意トハ他
 人ヲ惑亂セシムル所爲ノミナラス又其所爲ノ因テ起ル惡意則チ他
 人ヲ害セントスル思意モ含ムモノナリ惡意ハ所爲ニ因テ形ハレサ
 レハ罰セラル、コトナケレハ其趣意ハ犯罪ノ重ナル事實ト爲ルモノ
 ナリ故ニ其所爲ヲ遂ケス隨テ他人ニ損害ヲ加ヘシメサルモ罰セラ
 ル、コトアリ民法ニ於テハ他人ニ損害ヲ加ヘサレハ賠償ノ責ニ任セ
 ス是ヲ以テ刑法ニ於ケル惡意民法ニ於ケル惡意ト異ナルモノハ所

爲ノ結果ニ因ラス罪ヲ犯サントスルノ趣意ニ因リ其所爲ハ止タ惡
 意ヲ以テ爲シタル事ノ證據ト爲ル所ニ在ルナリ之ヲ畧言スレハ惡
 意ハ其所爲ヲ以テ有害ノ結果ヲ生セシメントスルノ趣意ヲ云フナ
 リ惡意ニハ他人ノ權利ヲ害スル所爲ヲ爲スコトヲ知りタルコトヲ要ス之
 ヲ詳言スレハ惡シキ事ヲ爲スコトヲ知ルヲ要ス併ナカラ法律ニ背ク
 所爲ニシテ其罰ニ處セラル、コトヲ知ルコト又ハ刑法ヲ知ルコトヲ要ス
 罪ヲ犯スルハ犯人自然ノ感情ヨリ其所爲ノ道德ニ背クコトヲ知ルヘ
 シ併ナカラ其所爲ノ法律ニ於テハ禁セラレタルモノナルコトヲ知ル
 ハ必用ナラスシテ知リナカラ有害ノ結果ヲ遂ケントスルヲ要スル
 ナリ例ヘハ畧賣セントスル人ノ奴隸ニ非サルコトヲ知リ又ハ姦通セ
 ントスル婦ノ有夫アルコトヲ知リ又ハ他人ヲ殺傷スヘキ所爲ナルコ

ヲ知ルヲ必要ナリトスルカ如シ止ターノ場合ニ限り刑法ヲ知ルコ
 ヲ要スレモ之ヲ以テ他ノ犯罪ニ及ホス可カラス
 犯罪ノ内多クハ惡意ナクシテ犯スコナシ例ヘハ謀叛大逆親屬相姦
 畧賣人偽證竊盜侮辱ノ如シ又其他ノ者ハ惡意ナク疏虞ニ因テ犯ス
 コヲ得故ニ此犯罪ニ付テ惡意ノ有無ヲ判定スルハ至極要用ナルモ
 ノナリ例ヘハ謀殺ニ於ケルカ如シ何トナレハ惡意ヲ以テ人ヲ殺シ
 タルニ非サレハ謀殺ト爲スコヲ得ス疏虞又ハ天災ニ因ル殺傷ハ全
 ク他ノ犯罪トス可ケレハナリ併ナカラ犯罪ノ結果ニシテ犯人ノ惡
 意ニ因テ出タルモノナルカ又ハ疏虞天災ニ因テ生シタルモノナル
 カヲ判定スルコト難キ場合往々之レ有リ故ニ犯人自カラ惡意ニ因テ
 爲シタルコトヲ白狀セサルモハ告訴者ヨリ惡意アルコトノ證ヲ差出ス

ヘシ因テ惡意ノ證ハ證據裁判ノ一大部分ナリトス
 惡意ノ推測ハ現行ノ裁判ニ於テハ取ラサル所ナリ民事ノ訴訟ニ於
 惡意ノ證據ヲ要スル特リ刑事ノ告訴ニ於テ之ヲ要セサルノ理ナリ
 況ヤ法律ニ明文アルニ非スマ通常告訴人ヨリ惡意ノ證ヲ出サシム
 ルナリ然ラサレハ人ヲ誣告スルノ弊害アルナリ又被害人ヨリ惡意
 ナキノ證ヲ出シタルモハ無罪トシテ放免スヘシ例ヘハ人ヲ殺シ
 タルヲ以テ直ニ惡意アリテ爲シタルト看做ス可カラス惡意ノ證備
 リテ則チ謀殺ノ罪ト爲ルヘシ

疏虞

疏虞ノ字義ハ廣ク之ヲ解釋スレハ過誤及ヒ道德ニ背クコトヲ含ムモ
 ノニシテ所爲及ヒ犯人ノ心術ニ係ハルコトヲ謂フナリ故ニ惡意モ亦

含蓄セリ狭ク之ヲ解ケハ他人ノ權利ヲ害セントスルニ非スシテ所爲ヲ遂ケントスル意思ヲ云フナリ假令其所爲ニ因テ他人ノ權利ヲ害スルモ犯人豫シメ其害ヲ知ラサルナリ屢々原由ト結果ト又所爲ト結果トノ間ニ自然ノ關係ヲ生スルモ決シテ犯人ノ意思ニ出タル結果トス可カラサルコアリ併ナカラ犯人ノ惡意ニ出サル結果ト雖モ其責ヲ負フヘキコモアリ何トナレハ犯人豫シメ有害ノ結果ヲ生スヘキコヲ知ルノ義務アレハナリ此場合ニ於テハ他人ノ權利ヲ害セントスル惡意ノ責ヲ負フニ非ス他人ノ權利ヲ害スヘキ結果ヲ生セサルコヲ知ラサルノ責ヲ負フナリ若シ他人ノ權利ヲ害セサルコヲ確知セサル者ハ有害ノ結果ヲ生シ得ルコヲ慮カルヘシ故ニ其所爲ヲ爲ス可カラス仍ホ其結果ヲ慮ラスシテ所爲ヲ爲スモノハ則チ

不注意ニ屬スルモノナリ之ニ因テ觀レハ過誤ハ不注意ヨリ生スルモノナリ併ナカラ豫シメ結果ヲ知ルコト能ハサルノ場合アリ此場合ニ於テハ其所爲ヲ以テ過誤ト爲スコトヲ得ス又權ナクシテ他人ノ事務ニ立入ルモノハ其結果ヲ豫メ知ルト知ラサルトニ拘ハラヌ過誤ノ責ヲ受クヘシ

太古ノ刑法ニ於テハ疏虞ハ天災ノ内ニ含まレタレモ追々時代ノ變遷ニ因テ天災ノ内ヨリ疏虞ヲ取除クコトニ成レリ太古ノ時代ニ於テハ惡意ヲ以テ爲サル所爲ハ悉ク天災ノ内ニ含マシメ更ニ輕重ノ區別ナシ例ヘハ「スーマ」王ノ謀殺律ニ於ケルカ如シ民法ニ於テ始メテ疏虞ノ主義ヲ定メ疏虞ハ如何ナルモノヲ云フカ及ヒ如何ナル情況アレハ惡意ノ責ヲ負フヘキノミナラス又疏虞ノ責ヲ負フ可キ

ヤヲ解釋セリ例ヘハ善心ニ出タル事務則後見ノ事務等ニ於テハ疏虞ノ責ヲ負フカ如シ又如何ナル注意ヲ要スルヤハ契約ノ如何ニ因テ之ヲ定メタリ併ナカラ民法ニ於ケル純粹ノ疏虞ノ外民法上ハ必ス契約アリ刑法ニ屬スヘキ疏虞アリテ(契約ナクトモ)何人タリトモ他人ノ利害ヲ注意シテ其物件ヲ損傷ス可カラサルノ義務アリ則チ疏虞ヨリ生スル犯罪ニ於テハ民法上ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ而シテ其要償ノ訴ハ犯人自カラ被害者ニ賠償ヲ爲サルルニ之ヲ爲スコトヲ得「アケイリ」氏律ニ於テ物件ノ損害ヲ民法上ノ點ヨリ定メタルカ如シ勿論犯人ハ原由ト其損害トノ間ニ自然ノ關係アルニ於テハ其責ヲ負フニ及ハス止タ聊カ不注意ナルルニ其責ヲ負フヘキノミ例ヘハ他人ノ上ニ倒レテ其生命ヲ害シタルモノハ過度ノ重荷ヲ擔キタルカ又ハ

注意セスシテ窪ミタル道ヲ行キタルニ非サレハ其責ヲ負フニ及ハス又乗馬スル者若クハ馬丁ハ未熟ナルカ又ハ之ヲ御スル腕力ナクシテ他人ニ損害ヲ生セシメタルニ非サレハ其責ヲ負フニ及ハサルカ如シ理髮者ハ投毬ノ爲メニ生命ヲ失シタル客人ニ對シ投毬場ニ於テ理髮シタルルニ非サレハ其責ヲ負フニ及ハス何トナレハ投毬場所ニ於テハ豫メ其害ヲ慮カラサル可ラサレハナリ又烈風ノ日ニ枯草ニ火ヲ放ツ者ハ其火難ヲ受ケタル近隣ノ者ニ對シ其責ヲ負フヘシ併ナカラ已ニ枯草ニ火ヲ放チタル後俄然ト風烈ナルカ爲メ他人ニ損害ヲ加ヘタルルハ其責ヲ負フニ及ハス又樵父ノ木枝ヲ墜スカ爲メ通行人ヲ殺シタル責ハ豫シメ通行人ニ報知セスシテ通路ニ木ヲ墜シタルルハ其責ヲ負フヘシ但シ豫シメ通知シタルルハ此限ニ在ラス

是以テ天災ノ内ヨリ分チタル刑法上ノ疏虞ハ民法上ノ損害ノ要償ヲ生セシムルコトハ疑ヲ入ル、コトナシ止タ其疏虞ノ純粹ノ刑法上ノ罰ニ處セラレ且刑法中ニ屬シタルヤ否ヲ論及スヘシ王政ノ時代ニ於テハ共和政ノ時代ニ於ケルカ如ク疏虞ノ罰ナシ「スー」氏ノ法律ニ因レハ止タ惡意ニ出ツル殺傷ノ罰アルノミ疏虞ニ出ツル犯人ハ犯人ト看做サス天罰ヲ受ケタル不幸人ト看做シ神ニ玉串ヲ奉納シテ其災難ヲ救フノミニシテ足レリ

共和政ノ法律ニ於テモ疏虞ノ罰ハ更ニ明文ナシ疏虞ハ思慮ノ及ハサル所爲ニ含マシメ法律ニ於テハ惡意ニ出タル者ハ之ヲ罰スヘキモノト定メタリ若シ被告人ニ於テ惡意ニ非サルコトヲ證明シタルハ刑事裁判ヲ受クルコトナク民事裁判ニ於テ天災又ハ疏虞ニ出タル

所爲ナルカラ審問スヘシ

是ニ因テ之ヲ觀レハ羅馬法ニ於テハ曾テ疏虞ヲ罰シタルコトナシト見ヘタリ共和政治ノ時代ニ於テハ刑法上疏虞ヲ罰スルコトナシト雖モ止タ裁判所長及ヒ警察官署ノ布達ヲ以テ公然ニ非サル刑ニ處シタルノミ此刑ハ刑法上ノ罰ト混同ス可カラス帝政ノ時代ニ至テ始テ疏虞ヲ公然ノ刑ニ處スヘシトシ疏虞ヲ以テ純粹ノ犯罪トシタリ併ナカラ疏虞ヨリ生シタル犯罪ノ通則ナルモノナシ止タ一二ノ場合ヲ定メテ之ヲ罰スルナリ其罰ハ裁判所ノ伺ニ對スル帝王ノ指令中ニ定メタルモノアリ又ハ元老院ノ決議ニ因テ定メタルモノモアリ又ハ裁判所ノ慣習ニ因テ定リタルモノモアリ故ニ羅馬國末世ニ於ケル疏虞ノ犯罪ハ多クハ法律ニ掲ケサルモノト看做サ、ルヲ得

ス又罰ニ至テモ惡意ヨリ生シタル犯罪ニ比スレハ常ニ輕クシテ有害ノ結果又ハ生セシメタル損害ニ從テ輕重ヲ定ムモノナリ例ヘハ疏虞ニ因テ人ヲ殺シタル者ハ徒刑五年ニ處スヘキ帝王ノ指令アリ
思慮ノ及ハサル所爲

本人ノ過誤ニ非スシテ生セシメタル損害ニ對シテハ豫シメ注意ヲシテ其害ヲ避クルコト能ハサリシトハ民法及ヒ刑法ニ因テ其責ヲ負フニ及ハス併ナカラ羅馬古代ノ法律ニ於ケルカ如ク天災中ニ疏虞ヲ包蓄セシメタルトハ其責ヲ負フヘシ

① 民法上ノ思慮ノ及ハサル所爲
他船ヲ害シタル船ノ所有主ハ思慮ノ及ハサル所爲ニ因テ其害ヲ被ラシメタルトハ損害ノ償ヲ出スニ及ハサルモ疏虞ヲ以テ損害

ヲ加ヘタルトハ其償ヲ出スヘシ

② 刑法上ノ思慮ノ及ハサル所爲

思慮ノ及ハサル所爲ニ因テ他人ヲ殺シタル者其罰ヲ受クルコトナシ又天災ニ因テ獄囚ヲ逃走セシメタル者モ其罪ナシ

羅馬末世ノ法律ニ於テモ古代ノ法律ニ於ケルカ如ク天災ヲ以テ惡意ノ反對ニ看做シタル意味ニ使用シタルコトアリ此意味ニ於テハ思慮ノ及ハサル所爲ノ中ニ疏虞ヲ含メリ故ニ本人天災ノ責ヲ負フヘシト記シタル所ハ疏虞ノ責ヲ負フヘシト解釋スルニ非サレハ其意ヲ盡スコト能ハス

財産ニ對スル犯罪

一 竊盜

竊盜ノ字義ハ共和政治時代已來法律學ノ隆盛時代マテハ甚タ深奥
ナリ而シテ惡意ヲ以テ犯人ノ所有物ヲ奪取スル一切ノ所犯ヲ云フ
ナリ故ニ強盜及ヒ詐欺取財ヲモ含メリ然レモ共和末代ニ至テハ純
粹ノ竊盜ニ非サル部分ヲ除去シテ其區域ヲ狹ハメタリ故ニ純粹ノ
竊盜ノミト爲レリ

十二版法ノ竊盜

十二版法ニ於ケル竊盜ノ主義ハ未タ確定ノモノニ非ス強盜及ヒ詐
欺モ竊盜ノ内ニ含蓄スレモ物件ノ使用又ハ現有ノ竊盜不動産ノ竊
盜等ノ「ハ未タ之ヲ知ラサリシナリ併ナカラ實際ニ於テ緊要ナル
區別ハ追捕セラレ、竊盜ト追捕セラレサル竊盜ナリ追捕セラレ、
竊盜トハ原ト現行犯ノ追捕セラレ、者ヲ云ヒタレモ後世ノ法律家

ハ其意義ヲ廣メテ又盜取シタル場所ニ於テ追捕セラレ、モノモ含
マシメタリ或ハ又(第三)竊取シタル物ヲ持行カントスル場所ニ至
ル前ニ追捕セラレ、者モ含マシメタリ然ノミナラス(第四)追捕セ
ラル、カ爲メ盜ミタル贓物ヲ捨去ル者モ含マシメタリ併ナカラ竊
盜ヲ見付ケタルノミヲ以テ追捕ト爲スコカラス第三ノ説ハ殆ト一
般ニ行ハル、ト雖モ第四ノ説ハ否ラス又贓物ヲ携帶シタル者ヲ見
付ケテ之ヲ捕フルルハ之ヲ追捕セラレ、竊盜ト爲スカ如キハ全ク
死説ニ屬セリ其他追捕セラレ、竊盜ノ意義ハ竊盜ノ事主ヨリカ又
ハ他人ヨリ追捕セラレ、ノ異ナルニ因テ變スルモノニ非ス
追捕セラレサル竊盜ハ未タ追捕セラレサル者ヲ云フナリ「ラベヨ」

「ガ—ユス」家法律「ユスチニヤン」帝ハ以上ノ二種ヲ竊盜ノ大區別ト

爲シタレ他ノ法律家ハ此二種ノ外ニ贓物ヲ受ケタル竊盜贓物ヲ置キタル竊盜ヲ區別シタリ此四種ニ因テ竊盜ノ罰ヲ定メタルト左ノ如シ

一 追捕セラル、竊盜ハ「カピタル」刑ニ處シタリ奴隸ハ撻チタル後之ヲ岩上ヨリ墜シ未丁年者ハ撻タル後贓物ヲ返還賠償スヘシ(勿論未丁年者ノ家屬ヨリ)

追捕セラレサル竊盜ノ罰ハ贓物ノ二倍ヲ償ハシムルニアリ併ナカラ此區別ハ罰ノ輕重ヲ定ムルニ必用ナルノミナラス又他ノ關係人ニ於テモ必用ナル所アリ則追捕セラル、竊盜ハ夜中ハ兇器ヲ携ヘス且抗抵セサルト雖モ直チニ之ヲ殺スコトヲ得則白晝ハ追捕セントスル者ニ對シ兇器ヲ持シテ抗抵スルトニ非サレハ

之ヲ殺スコトヲ得ス

其他十二版法ニ因レハ猶ホ竊盜ニ係ル二箇ノ訴訟アリ其一ハ贓物ノ現在シタル者ニ對シ其價ノ三倍ヲ請求スルノ訴ニシテ之ヲ「贓物ヲ受ケタル者ニ對スル訴」ト云フ但贓物ノ現在スル本人自ラ「盗マサル者ニ對シテモ此訴ヲ爲スコトヲ得又其一ハ贓物ヲ見付ケタル者ヨリ竊盜ノ罰ヲ免カレンカ爲メ其贓物ヲ隱匿スル者ニ對スルノ訴ニシテ之ヲ「贓物ヲ置キタル者ニ對スル訴」ト云フ故ニ竊盜ニ加ハラズ知ラスシテ贓物ヲ寄罪スル者ハ犯人ニ對シ此訴ヲ以テ贓物ノ價ノ三倍ニ當ル賠償ヲ請求スルコトヲ得又十二版法ニ因レハ贓物ノ返還期滿免除ナクシテ何時ニテモ之ヲ取戻スノ訴ヲ爲スコトヲ得此ハ被害者ノ權利ヲ保護スル爲ナ

夜中穀物ヲ竊盜スルノ如キ一種ノ竊盜ハ重キ刑ニ處シタリ此重キ刑ハ太古ヨリ傳來シタル者ニシテ死刑ニ處セリ

十二版法モ漸次法律家ノ爲メニ改正ヲナセリ其要點ハ左ノ如シ

第一 犯罪ノ本旨ト所業ニ係ルノ

強盜ハ尙ホ竊盜ト區別セスト雖モ此時代ヨリシテ此區別ヲナスヘキノ考ハ起レルナリ

此時代ノ重ナル改正ハ竊盜ニ係ル民事上ノ事柄タリ今マ先ツ此時代ニ於テ新タニ主旨ヲ擴張セルノ點ヲ論スヘシ

○不動産ニ付テモ竊盜アリタル

獨リ貸財ヲ竊取スルモノヲ竊盜ト認ムヘキニ非ス又他ノ所有權

アル者ノ所有權及ヒ使用權ヲ奪取スル者モ竊盜タリ法律家ハ是レニ付テ「フルツウムライ」○「フルツウムウス」所有權ノ詐取「ス」及ビ「フルツウムボツセツシヨ」使用權ノ竊盜ノ區別ヲナセリ

① フルツウムライ 所有權ノ詐取ハ自個ニ附托セラレタル物件ヲ横奪シテ違法ノ使用ヲナスコニシテ假令ハ孤兒ニ屬スル遺産ヲ後見人或ハ財產支配人ノ奪取スル「貸金」ヲ受ケ取りタル後チ尙ホ其典物ヲ貸主ニテ奪取使用スル「又依頼者」ノ名ニテ他人ニ送ルヘキ金圓ヲ受ケ取り之ヲ己レノ名ヲ以テ送り或ハ拂フ者他人ノ貨物ヲ發見シ其他人ニ屬スル「ヲ知リ乍ラ横奪スルモノ假令ハ暴風ノ爲メ船ヨリ遺棄セル物件埋藏發掘物(確タル所有主ノ埋藏シタルモノニテ貯蔵物トハ混スル勿レ)」ノ如ク其他貸主

ト偽ハリ金圓物件ヲ領取スルモノ借主ノ借用證文債主ノ受取書ヲ竊取スル如キ皆ナ此部類ニ屬スルナリ

① フルツウエツズース 使用權ノ竊盜ハ物件ノ使用權ヲ侵スモノニシテ假令ヘハ抵當預リ人ノ置主ノ意ニ反シテ其物件ノ使用ヲナシ或ハ使用人ノ所有主ヨリ許サレタル範圍外ノ使用ヲ爲ス如キナリ

② フルツウムボツセツシヨ 所有權ノ竊盜ハ法律上ノ所有權ヲ奪畧スルヲ云フ假令ヘハ債主ニ抵當トセル物件ヲ使用スルモノ田土所有人ノ其田土ヲ賣リタル後新持主ヨリ奪畧スル如キナリ

③ 竊盜ノ本旨及ヒ所業ニマテ又所業ヲ誘導スル犯行者ノ意志モ屬スルナリ此意志ニハ又領取スル所ノ物件ハ他人ノ物件ナリトノ知覺ノ隨フアリ總別竊盜ノ惡意ハ自個ノ貨財ヲ殖シ其利益ヲ得

ントスルニアルナリ故ニ何人ニテモ物件ヲ破碎センカ爲メニ他人ノ物件ヲ取ルハ竊盜ト云フヘキニ非ス

④ 竊取セントスル内心ニ相應スル形体ノ行爲ヲ羅馬人ハ「コントレクタチ^取」ト云フ羅馬人ハ何レノ處ニテモ竊盜ノ或ル事ヲ行ナヒ其事ノ目的タル物件ヲ竊取シ之レヲ已レニ屬セントスルノ「明瞭ナル」ハ已遂犯ノ竊盜トシテ裁判ス然ルモ室内ニ進入スルノミニテハ尙ホ竊盜ヲ表スルニ足ラス是レハ侮辱罪ニ當ルナリ

竊盜ト均シク罰スヘキハ已レノ奴隸ニ命令シテ竊盜ヲ爲サシメタル者則チ發企人及ヒ指示誘導スル者幫助人贓物寄藏人ナリ然ルモ教唆者ノ實際ノ行爲アラス又扶助ヲナサス幫助人ノ惡意ア

ヲサルハ罰ス可ラス 幫助人ノ竊盜ト均シク罰ス可キコトニ付テハ
末條ヲ見ルヘシ

總別竊盜未遂犯ヲ法律上罰ヲ科ストナセルノ處ハ其所犯概子竊
盜ノ罰ニ當ラス侮辱罪又ハ暴行スル者ハ暴行條ニ據テ罰スルナ
リ是等モ末條ニ詳カナリ

第二 刑罰及ヒ訴訟ニ係ルコト

往古蒙昧ノ世ノ罰ハ當時ニ適セズ奴隸ニ向テサヘモ重キヲ覺ユル
ニ至リ遂ニハ罰金ニ變シフルツムスニフエスト追捕セラレ、竊盜トチツイマニフエスト追捕セラレサル竊盜
トニ隨ヒ盜品價値ノ四倍或ハ三倍又ハ二倍ノ額ヲ科セリ又此時罰
ヲ科セス只盜品ヲ單ニ償却シ又ハ只其價値ヲ償フヲ以テ十分ナリ
トスルコトアリ

親屬間ノ竊取ニ付テハ特別ノ定メアリ則チ

① 夫婦間ノ竊取ハ竊盜ト認ムヘキニ非ス奪ハレタル方ヨリ單
ニ取り返ヘス迄ニシテ若シ一方ノ者離縁ヲ期シテ竊取スルハ
ハ離縁ノ後チ盜品償還ノ訴ヲ爲スナリ

② 家ノ息子奴隸及ヒ附籍者等ノ竊取ハ又罰金ヲ科スヘキニ非
ス家長タル者其所業ノ如何ニヨリ罰スルナリ

帝國時代ニ於テノ改正

此時代ニ於テ強盜ハ竊盜ト區分シ且大法官ノ時以來竊盜ハ動産ノ
上ニ限レリ

此時用ヒタル罰ハ左ノ如シ

① 遺産横奪ノ犯罪

舊時期滿得免ノ譯ヨリシテ尙ホ遺子ノ所有權ヲ得サル間ニ遺產ヲ
 畧取シ期滿得免スルノコアリ依テ遺子ノ遺產ヲ早ク得ントスルニ
 ハ價值ヲ拂ヒシコアリ又此ノ如キ無主ノ遺產ヲ使用スルハ竊盜ト
 ナサス又罰ヲ當テサリシナリ「ハドリアン」帝ノ律ニ於テ始メテ遺
 子ニ他人ヨリ畧取セラレタルモノハ何時ニテモ再ヒ取戻スコヲ得
 ルニ至ラシメ又遺產ノ使用及ヒ横奪ヲ犯法トシ罰セリ但シ罰金ハ
 適用セス

③竊盜

竊盜ハ盜ム爲メニ竊カニ家内ニ忍ヒ込ミ或ハ階段ヲ上下シ二階ヨ
 ニ行キ下室ヨリ二階又ハ好機ニ際シ盜ム爲メニ忍ヒ或ハ直チニ竊
 取スルヲ云ヒ其所業ノ狡猾ナルカ爲メ重罰ヲ科シ未遂犯ハ侮辱罪

ヲ科スルナリ其罰タル一時ノ公役身躰ノ懲戒或ハ一時ノ追放レレガシヨシ民
 ナハザルナリニシテ一般ニ犯人ノ如何ト所業ノ如何ニ因テ法官酌
 量ヲ爲スナリ尤モ貴族ニ於テハ追放レレガシヨシ平民ニ於テハ公役ヨリ重カ
 ル可ラス

④家内ニ侵入スルノ賊

「ユフラクトレス」トハ貨財ヲ盜ム爲メニ家内ニ侵入ル門戸ヲ破碎ス
 スルノ賊ニシテ其目的ヲ達スルト否ヲ問ハス其所業ノ大膽ナルカ
 爲メ普通ノ竊盜ヨリ重ク罰シ又概ネ「デレクタリ」第一ヲト均シ
 ク罰スルト雖モ其侵入ノ形況ト時間ニ隨ヒ酌量シ夜中侵入スル
 并ハ平民ハ身躰ノ懲戒及ヒ鑛業使役貴族ハ終身追放レレガシヨシ日中侵入
 スル并ハ平民ハ身躰懲戒ノ外尙ホ終身或ハ一時ノ公役貴族ハ只一

時ノ追放^{レレガイロシ}ニ處セラル、ナリ補助人ハ貨財ヲ盜ムノ目的ナラサルモ盜罪トシテ罰セラル、ナリ

④追剝^{ヒキスロトツレス}

追剝トハ人ヲ脅迫シテ其衣類ヲ奪フ強盜ナリ其罰ハ平民ハ永年或ハ一時ノ公役貴族ハ其官職ヲ褫奪シ或ハ追放^{レレガイロシ}ニ處スルナリ

⑤拘摸^{ヒツクモ}

此中ニハ巾着切りノ狡獪ナル所業ト禁セラレタル魔術ニ因テ金銀ヲ奪略スルトノ所犯アリ其罰ハ竊盜^{ザレシヤリ}ノ如ク公役(一時)身軀ノ懲戒或ハ一時ノ追放^{レレガイロシ}トス

⑥湯屋盜賊^{フカレスバシヤリ}

此賊ハ重ク罰セサルヲ得ス是レ公ケナル浴場ノ守護ト入浴者ノ自

ラ防護シ得サルニ因ルナリ一時ノ公役マテ罰ヲ重クシ又輕キ鑛業使役ニ處スルナリ

⑦夜盜及ヒ兇器ヲ持スルノ竊盜^{フイレソノトコロニ}

夜盜ハ一時ノ公役ニ至ルマテノ重キ罰ヲ科シ日中ノ盜ハ特別ナル罰ヲ受ケサルナリ十二版法ニ於テ許サレタル此ノ如キ夜盜ヲ殺スノ正當ナル防衛ノ外禁セラレタル并益々夜盜ニ對スルノ特別ナル刑罰要用ナルニ至レリ兇器ヲ持スルノ竊盜ハ特別ニ罰スヘキモノトシ是ヲ殺シ得ルノ舊法繼續セリ防衛トシテ殺ス其罰ハ鑛業使役或ハ追放^{レレガイロシ}ニシテ又「コル子リア」刺殺法ニ隨ヒ罰スルコアリ

⑧家畜盜賊^{アヒガアイ}

定所ニ駐マルノ家畜ヲ盜ムハ通常ノ竊盜ニシテ家畜盜賊ニ非ス十